

原子炉の状態 月例レポート 2026年8月

概要 東京電力の発表によると、**8月26日現在**、福島第一原子力発電所では、原子炉格納容器(以下、PCV)空調機戻り空気温度が、1号機 **29.1℃**(前月27.0℃)、2号機 **34.4℃**(前月 32.5℃)、3号機では調査準備のため戻り側温度計は外されているため供給側温度で29.9℃(前月 27.8℃)であり、原子炉格納容器の放射性物質(Xe-135 [参照](#))濃度も、1号機A系:
 $1.42 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$ (前月末 $1.45 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$)、2号機A系:**検出限界値【 $1.1 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$ 】以下**(前月末も同じ)、3号機A系:**検出限界値【 $1.8 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$ 】以下**(前月末も同じ)と、有意な変動は見られていません([5ページ参照](#))。

筆者注: PCVのXe-135濃度を測定しているガス放射線モニタは、1号機は半導体検出器、2・3号機はシンチレーション検出器となっています。機種の違いの詳細および理由は分かりません)

目次の次、3～4ページにく、0 過酷事故の前と後との福島第一原発の原子炉を中心とした状況の異同模式図>を配置してあります。全体的な状況をお読み取りください。

その次の5～6ページには、**7月のイチエフ廃炉作業全般における主な取り組みと状況**を示しています。直近の個別の取り組みをお読み取りください。5ページではイチエフ構内の平面画像に主な取り組み事項を配置してあります。6ページは各事項の簡単な解説です。ページ間では各ボックス冒頭の<T1><R2>等の記号で照合してください。**青地のボックス**は今月東京電力が月例の「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」において、主な取り組みとして示したもののうち実際に行われた作業、**灰色地のボックス**は計画・準備・試験・報告等、**黄色地のボックス**は筆者が東京電力が毎日発表する「プラント関連パラメータ」等チェックした際抱いた疑問等、筆者の判断によるものです。いずれのボックスも原資料があるものはそのハイパーリンクを埋めてあります。

8月のイチエフ内のインシデント・事故情報は、[81ページ](#)をご覧ください。今月は火災報知器の誤作動が8件もあり、**廃炉等支援機構(NDF)の更田豊志 廃炉総括監**もいささか呆れているようです。

巻末に**付録**として、52新聞社と共同通信による[47Newsの原発問題のニュース・速報サイト](#)の記事を、**イチエフに関する報道【廃炉作業】**、主として福島県浜通りの状況についての**イチエフ事故の後始末**、**原子力発電・核施設をめぐる動き**に分けてクリッピングしてあります。

目 次

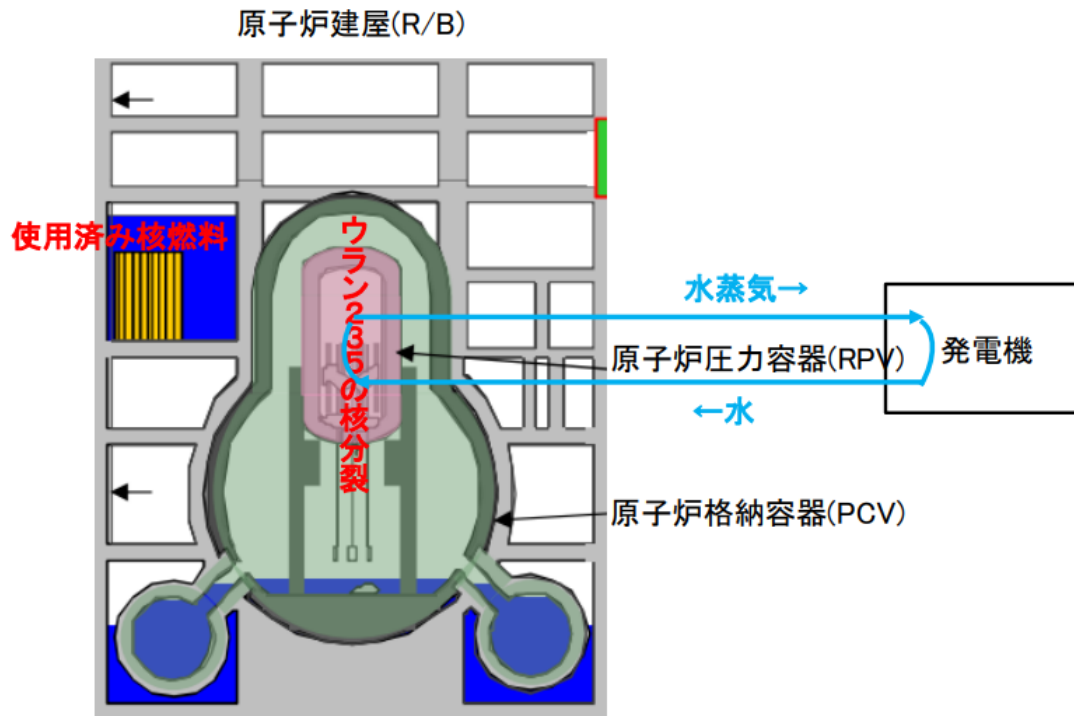
0	過酷事故前後の福島第一原子力発電所の状況の異同模式図	… 3
1	主な取り組み(更新)	… 5
2	プラント関連パラメータ(更新)	… 7
3	原子炉内の温度(更新)	… 8
4	原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度(更新)	… 9
5	その他の指標(更新)	…11
6	原子炉格納容器循環注水冷却(の停止試験)	
	(1)～(3) 概要	…12
	(4) 第Ⅰ期(2020年5月まで)	…15
	(5) 第Ⅱ期(2020年8月まで)	…35
	(6) 第Ⅲ期(現在)の一部	…38
	⑥ 2号機TE-2-3-69Rの謎	…45
	(7) 循環注水冷却スケジュール(更新)	…50
7	原子炉格納容器ガス管理設備	…51
8	東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について	…74
9	原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察	…76
10	東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報(更新)	…81
	付録 イチエフに関する報道(更新)	…82

0 過酷事故前後の福島第一原子力発電所の状況の異同模式図

「燃料デブリ」の取り出し・「処理水」の海洋放出などはメディアでご覧になったことはあっても、「Sr(ストロンチウム)吸着塔」、「HIC(高性能容器)」、「ゼオライト土嚢」など、また、地下水・雨水が原子炉建屋に入り核汚染水となり、ALPS(多核種除去装置)などを経て海洋放出されている流れについて、それが何でありどうなっているのか、さらに、福島第一原発のリスク、廃炉作業の中でどういう位置を占めるのか、筆者にとっても分かりにくいものがあります。

そこで今回、2011年3月の過酷事故の前と後との福島第一原発の原子炉周辺のもっとも基本的な状況を視覚的に比較することで、事故の全体像、現在の福島第一原発のリスク、廃炉作業の状況を少しでも分かりやすいものにしようと試みました。

(事故前の原子炉と発電機)



左の画像は**事故前の福島第一原発の原子炉**を取り巻く状況です。

ご覧の通り。事故前は原子炉内でのウラン235の核分裂による熱の発生により、原子炉(原子炉圧力容器)と発電機の間で水(水蒸気)が交換される閉じたサイクルでした。

そして**次ページ**の画像が。事故の後の福島第一原発の原子炉周辺の状況です。

(次ページに続く)

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)

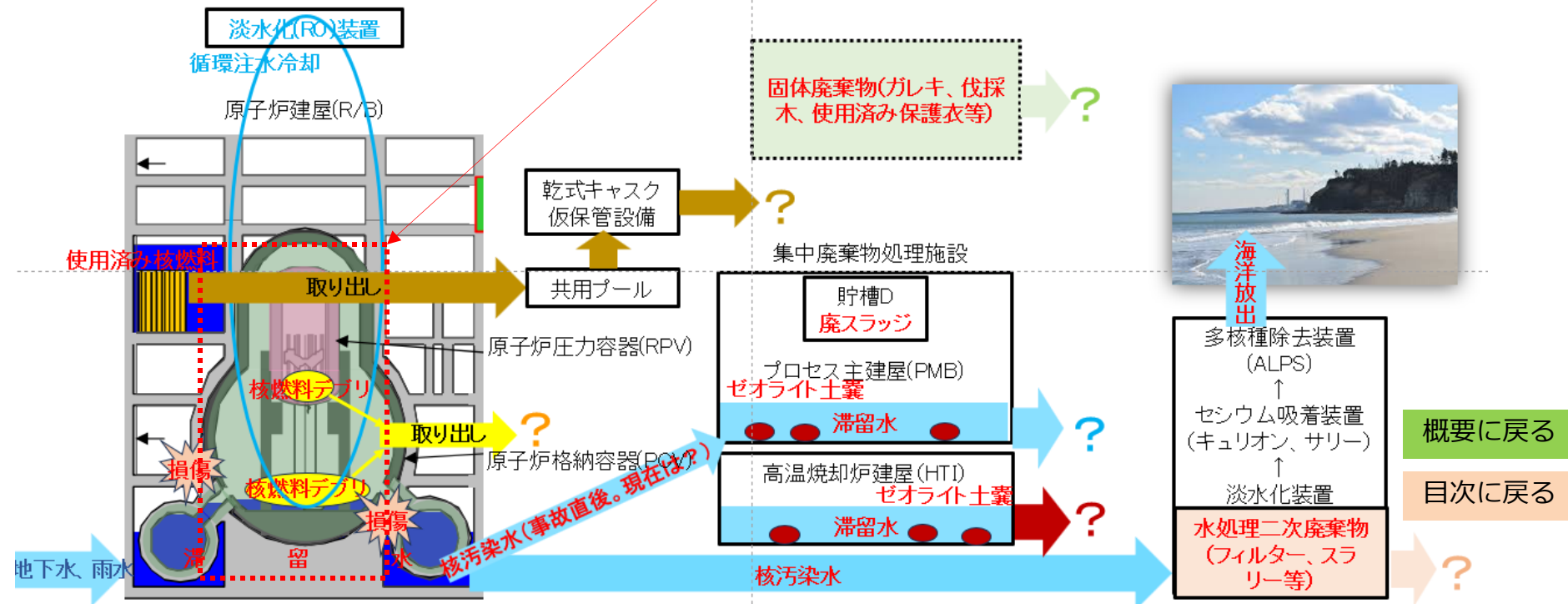
下の事故の後の福島第一原発の原子炉を取り巻く状況についての画像をご覧ください。

事故の前の、原子炉と発電機だけの閉じたサイクルが解け、放射性物質の一部が海洋など福島第一原発の外の環境に開かれてしまっています。さらに廃炉に向かっては、今後もっと様々な放射性廃棄物が広く福島第一原発の外部の環境にまで開かれて行かざるを得ません。最終的な処分にいたっては何も決まっていないも同然です。そういう意味では福島第一原発の事故は収束したどころではなく、現在も進展しているというべきかもしれません。現在福島第一原発に存在する放射能の総量については[5～7ページ](#)をご覧ください。

本「原子炉の状態レポート」では、主として下図左の**赤色点線部分**を取り扱います。

筆者注：集中廃棄物処理施設{PMB、HTI等}

原発で運転、停止等各種状態に応じて様々な種類の廃棄物が発生します。これら廃棄物の中で放射性物質を含むかまた、その可能性のあるものを放射性廃棄物と呼びます。この放射性廃棄物を「収集」・「処理」・「処分」をする設備が、**事故前の**放射性廃棄物処理設備でした。**事故後に**発生した核汚染水の貯留施設に転用されました。



1 主な取り組みと状況(更新)



＜T1＞試験的取り出し1回目・2回目で取得された燃料デブリサンプルの分析結果について

2024年11月（参照：

<https://1fwatcher.wordpress.com/wp-content/uploads/2026/08/202607-05-debris.pdf#page=499>）、2025年4月（参照：

<https://1fwatcher.wordpress.com/wp-content/uploads/2026/08/202607-05-debris.pdf#page=520>）と2回にわたるテレスコ式装置による試験的取り出し作業により、2号機ペDESTAL底部の燃料デブリ合計0.9 gが別の場所から取得されました。このうち、2回目に採取した燃料デブリの分析結果についての続報となります。

東京電力によると、1回目に採取した燃料デブリの分析結果とほぼ同様の示唆が得られとのことでした。被覆管やチャンネルボックス等のジルコニウムの成分や構造材成分を巻き込んでいると考えられること、炉心のある程度広い範囲で燃料が混合した可能性が考えられること、放射性セシウム濃度が低いこと等が明らかになりました。また、サンプル内部に空隙が広く分布しており、破碎しやすい構造であったと考えられ、今後の取り出し工法・工具検討の基礎情報が得られとしています。

＜T3＞3/4号機 排気筒解体に向けた準備作業の開始について

東京電力は、燃料デブリ取出設備等の敷地確保のため、3/4号機排気筒の解体・撤去を行います。周辺の環境整備により、雰囲気線量が低減されていることが確認されました。合わせて、1/2号機排気筒の上部解体時とは異なり、筒身近傍まで接近可能であるとこれまで確認できていることも踏まえて、有人での切断作業を行う予定だそうです。

排気筒解体工事に向けた準備作業として、作業ヤードの整備及び周辺配管の撤去を2026年9月下旬より開始する予定とのことでした。

＜T2＞3号機 PCV内部気中部調査（マイクロドローン調査）について

2026年3月に超小型のマイクロドローンを活用したPCV内部調査が実施されました。（参照：<https://1fwatcher.wordpress.com/wp-content/uploads/2026/08/202607-05-debris.pdf#page=557>）

東京電力により、今回、得られた映像を用いて点群データの生成、線量率の推定が行われました。

ペDESTAL内外の点群データを用いて各寸法の評価を行った結果、確認されていた原子炉圧力容器（RPV）底部とみられる構造物は、位置及び厚さが図面寸法と概ね一致しており、同構造物である可能性が高いと考えられます。また、RPV底部に空いている空間については、楕円形をしており、最大直径約3mと推定しています。映像中のノイズの量を計測することで線量率を推定した結果においては、ペDESTAL外では東側が最も高いことが確認されました。また、ペDESTAL内はRPV底部付近が最も高く、堆積物や付着物に接近するほど線量率が上昇することから、これらが有意な線源になっていると考えられます。今後は、堆積物の分布や流出状況を把握するため、早ければ今年度内にマイクロドローンによる2回目の調査を実施する計画とのことでした。

＜R1＞原子炉建屋に直結する配管の経年劣化による漏えい

東京電力は6月12日の日報で、6月11日、2021年2月に全燃料の取り出しが完了したものの、高線量機器やガレキが残されている3号機の使用済み核燃料プール（以下、プール）循環冷却一次系スキマサージタンクの水位の低下が確認されたことを報じました。

その後、東京電力は7月2日の第151回廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議において、水位低下の原因を、プール一次系戻り配管（原子炉建屋に隣接する廃棄物処理建屋地下1階）からの漏えいと特定したことを明らかにしています。

なお、調査は、廃棄物処理建屋地下1階が人の立ち入り不能な高線量エリアであるため、配管の床貫通部からファイバースコープを挿入して行われました。

また、現在プール循環冷却一次系は停止され、プール内に残されている高線量機器からの放射線を遮蔽するために、プールから自然蒸発した水の補給は6月12日に設置された仮設の補給水ラインによって行われています。

東京電力は、漏えい箇所が補修困難なエリアであることから、長期的にはプール循環設備の運用停止を検討しているようです。これには原子力規制委員会における実施計画の変更手続きが必要となります。

2024年8月、2号機使用済み核燃料プールの一次冷却系配管から漏水し、スキマサージタンクの水位が低下した事案とほぼ同じ状況です。

[2026年5月「使用済み核燃料プール対策レポート」](#)244・245ページ参照。

2024年12月からの1号機S/C底部配管のピンホールからの漏えいは今も続いています。

[2026年5月「核燃料デブリの取り出し準備」レポート](#)347～349ページ参照。

2 プラント関連パラメータ

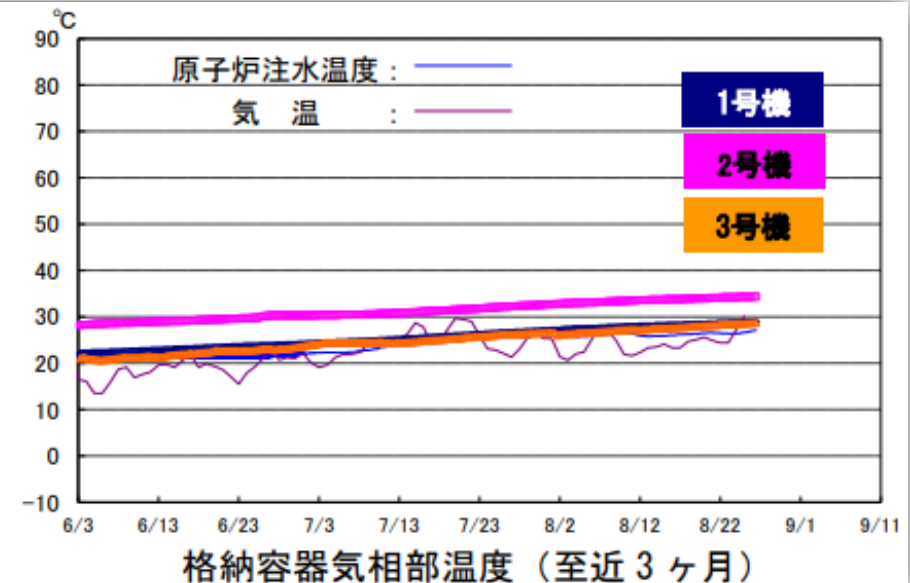
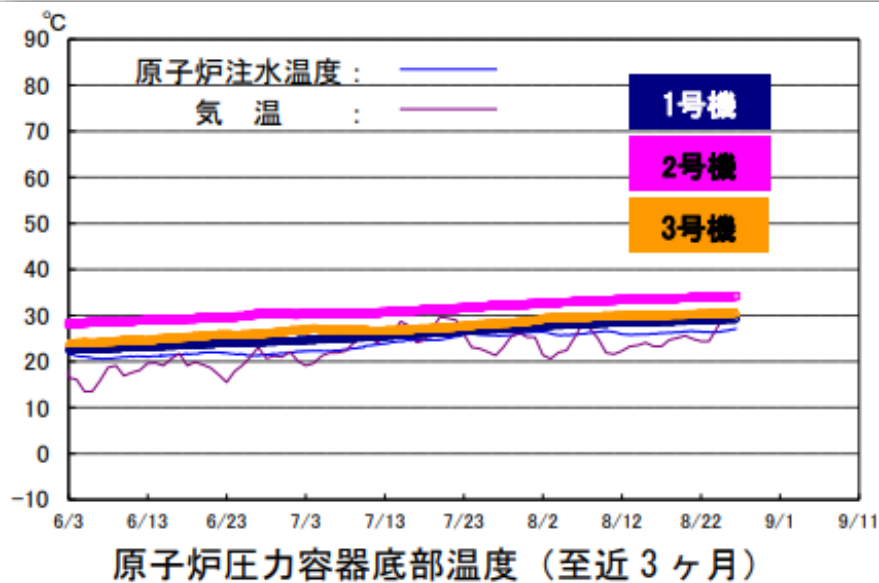
(更新)

号機	1号機		2号機		3号機	
	7月29日	8月26日	7月29日	8月26日	7月29日	8月26日
原子炉注水状況	給水系：0.0ml/h CS系：1.4ml/h (7/29 11:00 現在)	給水系：1.4ml/h CS系：0.0ml/h (8/26 11:00 現在)	給水系：0.0ml/h CS系：1.5ml/h (7/29 11:00 現在)	給水系：0.0ml/h CS系：1.5ml/h (8/26 11:00 現在)	給水系：1.3ml/h CS系：1.4ml/h (7/29 11:00 現在)	給水系：1.4ml/h CS系：1.3ml/h (8/26 11:00 現在)
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：27.2℃ VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1)：25.3℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：27.2℃ (7/29 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：29.2℃ VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1)：26.4℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：29.2℃ (8/26 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：32.3℃ RPV Temperature (TE-2-3-69R)：36.4℃ (7/29 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：34.2℃ RPV Temperature (TE-2-3-69R)：37.2℃ (8/26 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOINT (TE-2-3-69F1)：28.5℃ VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1)：28.4℃ (7/29 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOINT (TE-2-3-69F1)：30.7℃ VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1)：30.5℃ (8/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 内温度	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：27.0℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：27.0℃ (7/29 11:00 現在)	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：29.1℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：29.2℃ (8/26 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：32.5℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：32.5℃ (7/29 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：34.4℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：34.3℃ (8/26 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002)：-℃ ※6 SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1)：27.8℃ (7/29 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002)：-℃ ※6 SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1)：29.9℃ (8/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 圧力	-0.01kPa g (7/29 11:00 現在)	0.00kPa g (8/26 11:00 現在)	3.93kPa g (7/29 11:00 現在)	3.39kPa g (8/26 11:00 現在)	0.53kPa g (7/29 11:00 現在)	0.52kPa g (8/26 11:00 現在)
窒素封入流量 ※1	RPV (RVH-A)：-Nm/h RPV (RVH-B)：17.04Nm/h (JP-A)：15.31Nm/h (JP-B)：-Nm/h PCV：-Nm/h ※2 (7/29 11:00 現在)	RPV (RVH-A)：-Nm/h RPV (RVH-B)：17.08Nm/h (JP-A)：15.29Nm/h (JP-B)：-Nm/h PCV：-Nm/h ※2 (8/26 11:00 現在)	RPV-A：7.14Nm/h RPV-B：7.18Nm/h PCV：-Nm/h ※2 (7/29 11:00 現在)	RPV-A：13.04Nm/h RPV-B：-Nm/h ※9 PCV：-Nm/h ※2 (8/26 11:00 現在)	RPV-A：7.07Nm/h RPV-B：7.02Nm/h PCV：5.99Nm/h (7/29 11:00 現在)	RPV-A：7.07Nm/h RPV-B：7.07Nm/h PCV：6.00Nm/h (8/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 酸素濃度 ※3	A系：-vol% ※8 B系：0.00vol% (7/29 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (8/26 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (7/29 11:00 現在)	A系：0.01vol% B系：0.01vol% (8/26 11:00 現在)	A系：0.05vol% B系：0.05vol% (7/29 11:00 現在)	A系：0.05vol% B系：-vol% ※10 (8/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 放射能濃度 (Xe135)	A系：1.45E-03Bq/cm B系：1.12E-03Bq/cm (7/29 11:00 現在)	A系：1.42E-03Bq/cm B系：1.12E-03Bq/cm (8/26 11:00 現在)	A系：ND(1.1E-01Bq/cm以下) B系：ND(1.1E-01Bq/cm以下) (7/29 11:00 現在)	A系：ND(1.1E-01Bq/cm以下) B系：ND(1.2E-01Bq/cm以下) (8/26 11:00 現在)	A系：ND(1.8E-01Bq/cm以下) B系：ND(1.7E-01Bq/cm以下) (7/29 11:00 現在)	A系：ND(1.8E-01Bq/cm以下) B系：ND(1.7E-01Bq/cm以下) (8/26 11:00 現在)
使用済燃料 プール水温度	32.1℃ (7/29 11:00 現在)	34.4℃ (8/26 11:00 現在)	31.4℃ (7/29 11:00 現在)	34.0℃ (8/26 11:00 現在)	-℃ ※5 (7/29 11:00 現在)	-℃ ※5 (8/26 11:00 現在)
PC 貯蔵タンク 水位	3.94m (7/29 11:00 現在)	3.38m (8/26 11:00 現在)	3.13m (7/29 11:00 現在)	2.02m (8/26 11:00 現在)	-m ※7 (7/29 11:00 現在)	-m ※7 (8/26 11:00 現在)
号機	4号機		5号機		6号機	
	7月29日	8月26日	7月29日	8月26日	7月29日	8月26日
使用済燃料 プール水温度	-℃ ※4 (7/29 11:00 現在)	-℃ ※4 (8/26 11:00 現在)	27.9℃ (7/29 11:00 現在)	27.6℃ (8/26 11:00 現在)	24.8℃ (7/29 11:00 現在)	24.5℃ (8/26 11:00 現在)
PC 貯蔵タンク 水位	6.85m (7/29 11:00 現在)	6.84m (8/26 11:00 現在)	2.86m (7/29 11:00 現在)	2.67m (8/26 11:00 現在)	2.94m (7/29 11:00 現在)	2.64m (8/26 11:00 現在)

3 原子炉内の温度

(更新)

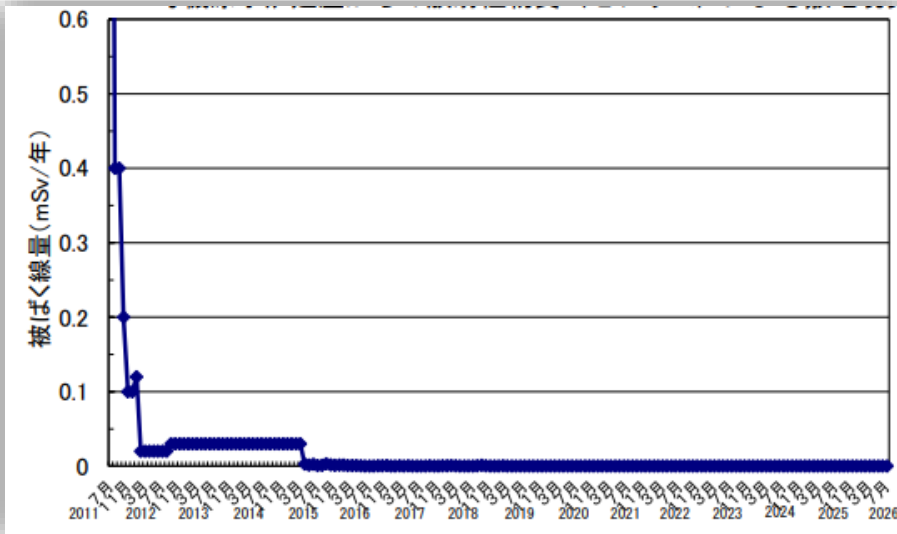
東京電力によると、注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、下に引用したグラフのとおり推移しています。



4 (1) 原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度 (更新)

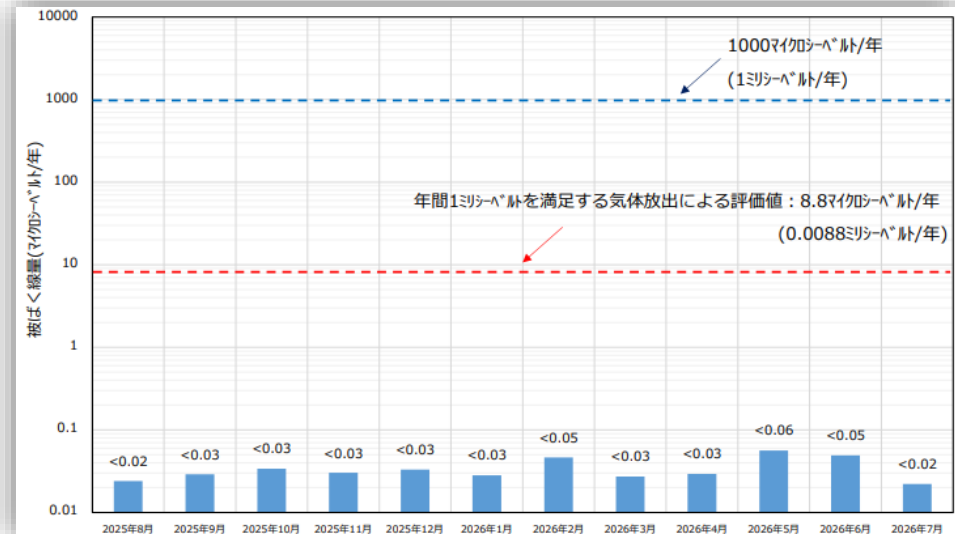
東京電力によると、**2026年7月**における1～4号機原子炉建屋からの追加的放出線量の算定値は、 1.0×10^4 Bq/h 未満 (前月 2.9×10^4 Bq/h未満)と放出管理の目標値 (5.5×10^6 Bq/h)を下回っています。そして、この算定値による敷地境界における空气中放射性物質濃度は、Cs-134: 5.0×10^{-12} Bq/cm³ (前月 6.7×10^{-12} Bq/cm³)、Cs-137: 5.7×10^{-12} Bq/cm³ (前月 2.7×10^{-11} Bq/cm³)であり、当該値が1年間継続した場合、敷地境界における被ばく線量は、**年間 2.0×10^{-5} mSv 未満** (前月 5.0×10^{-5} mSv 未満)であり、管理目標値年間1 mSvを満足する気体放出による評価値 8.8×10^{-3} mSvより十分小さいと推定しています。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における年間被ばく線量評価
(トレンドグラフ)



1～6号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における被ばく線量評価の年間推移

※ 筆者注: こちらは対数グラフです



出典: 2026年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第153回) 資料「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2026/08/08/2-1.pdf>

: 2026年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第153回) 資料「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果 (2026年7月)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2026/08/08/3-6-3.pdf>

概要に戻る

2 (2) 「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」の変更について

東京電力は、2019 年 11 月、1～4号機原子炉建屋からの放射性物質の追加的放出量の評価方法、および評価結果のグラフの記述内容を変更しました。東京電力による変更点、および変更の理由は以下の通りです。

・ 放出による敷地境界の空气中放射性物質濃度(単位:Bq/時)⇒敷地境界の被ばく線量(単位: μ Sv/年)

(理由)一般公衆が放出の影響を理解しやすくする。

・被ばく線量評価の計算手法:5、6号機の寄与(年間稼働率80%の運転時の推定放出量で評価したもの)を一律加算する⇒測定結果を元にした被ばく線量を評価する。

(理由)これまで被ばく線量は、1～4号機追加的放出量の被ばく線量評価に、5、6号機からの影響を一定値(運転時の想定放出量から評価:約0.17 μ Sv/年)加算していた。この方法によると、最近では5、6号機の割合が大き(約80%)、1～4号機の放出による影響がわかりにくくなっていた。実態により近づけるため、5、6号機も測定結果を元にした被ばく線量を評価し、検出された場合は、1～4号機による被ばく線量評価に加算することとする。

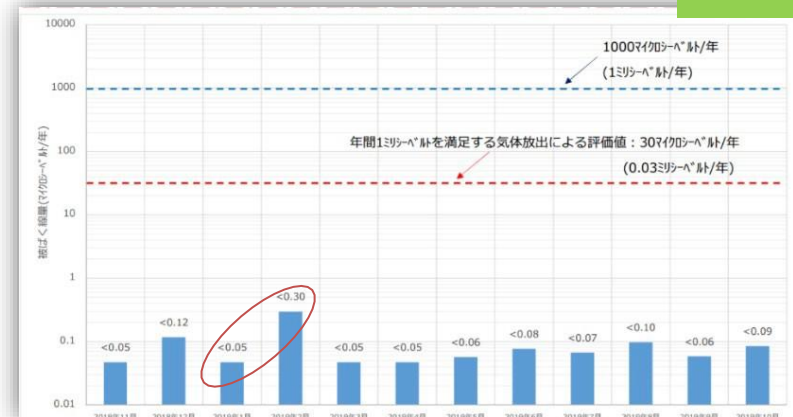
下左はこれまでの評価方法および記述内容による2018年10月からのグラフ、下右が新たな方法による2018年11月からの評価のグラフです。

1-6号原子炉建屋からの放出量評価、2019年9月までの評価方法で、その直近12か月分



1-4号原子炉建屋からの被ばく線量評価、2019年10月改訂の評価方法で、その直近12か月分

※ 筆者注: いずれも対数グラフ。



概要に戻る

出典：2019年11月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第72回） 資料「「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」の変更について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/11/3-6-2.pdf>

2019年11月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第72回） 資料「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2019年10月）」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/11/3-6-3.pdf>

5 その他の指標

(更新)

東京電力によると、**2026年7月30日から2026年8月26日までの約1か月**、格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度(Xe-135)等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていません。

※ 筆者注：

Xe-135（キセノン135）はウラン燃料が核分裂をした時に生じる放射性物質で、半減期は極めて短く約9時間です。このためXe-135が増加したままになるのは、ウランの核分裂が継続して起きているときであり、臨界に達していると考えられます。

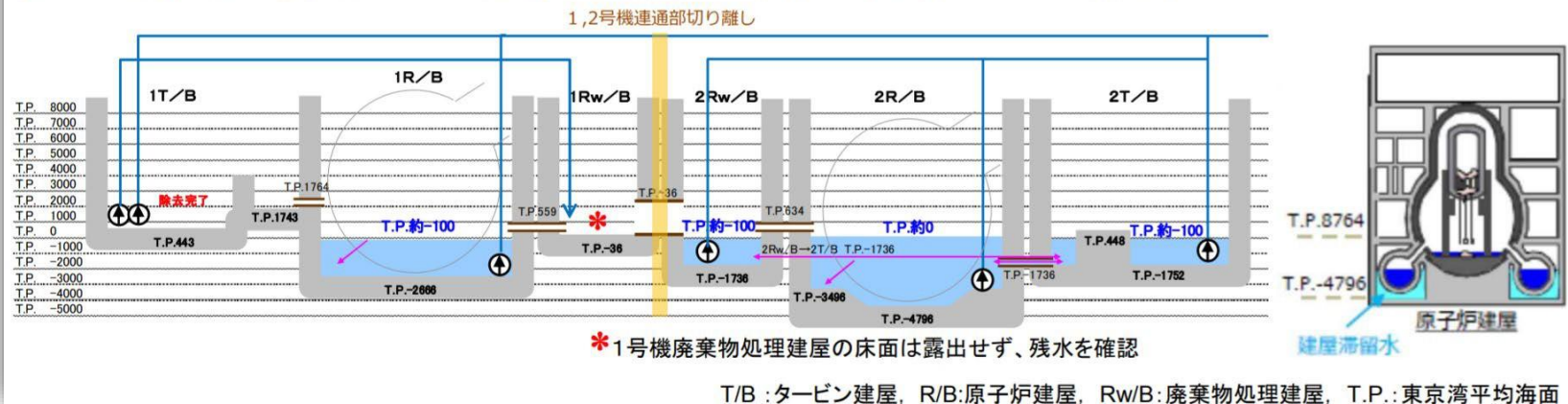
(2) 循環注水冷却の今後

原子炉注水冷却ラインの縮小という課題については、ロードマップ(第4版)では「核燃料デブリ取り出しのための原子炉格納容器の止水・補修作業を開始するまでに、原子炉格納容器からの取水方法を確立する。その上で、原子炉注水冷却ラインの小循環ループ化(格納容器循環冷却)を図る」とされていました。

第5版においては「循環注水を行っている1～3号機については、タービン建屋等を切り離した循環注水システムを構築した上で、原子炉建屋の水位低下等により、原子炉建屋から他の建屋へ滞留水が流出しない状況を構築する」となっています。

2017年12月の3・4号機間の連通部の切り離しに続き、2018年9月13日には1号機側、2号機側の建屋内に溜まっている汚染水の水位が1号機廃棄物処理建屋の床面(T.P.-36)を下回り、その後も安定して床面以下の水位を保っていることから、東京電力は1・2号機間の連通部について切り離しを達成したと判断しました。

【1・2号機の建屋床面レベル、建屋間連通部及び滞留水の水位(2018.9.13現在)】



出典: 2015年6月12日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」(第4版)

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2015/pdf/0625_4_1c.pdf

2017年9月26日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」(第5版)

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hairo_osensui/dai3/siryousu2.pdf

画像出典: 2018年9月27日第58回廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料

「建屋滞留水処理の進捗状況について(1,2号機間及び3,4号機間の連通部の切り離し達成)」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-1-3.pdf>

概要に戻る

(3) 2系統ある注水冷却系のうち1系統の試験的停止について

格納容器内にある使用済み核燃料および核燃料デブリは、炉心スプレイ系(CS系)と給水系(FDW系)という2系統の循環注水冷却系によって冷却されています(下図参照)。

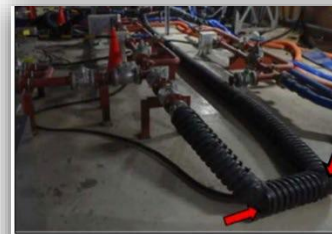
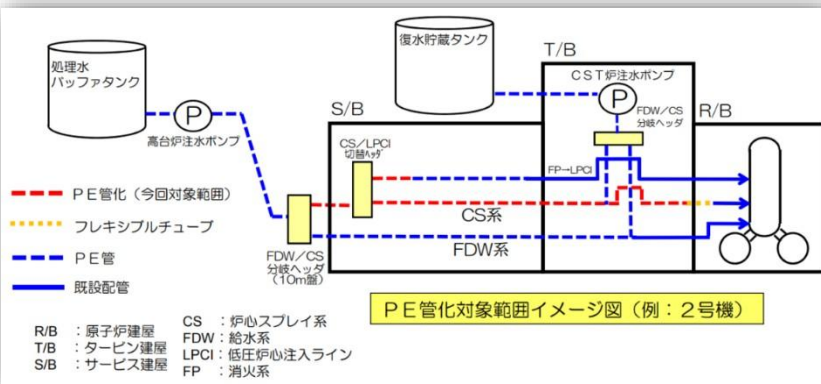
東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上を目的として、以下の改造工事を計画・実施しています。

- ①1～3号機炉心スプレイ系(CS系)注水ラインの一部PE管化(2018)
- ②2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造(2017)
- ③処理水バッファタンク取替(2018～2019)

②の2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造の際は、原子炉への注水をCS系のみで実施することになり、2017年11月の注水量3.0 m³/hでCS系単独注水の実績がないことから、東京電力は、CS系単独注水事前確認試験を行い原子炉の冷却状態に対する影響を確認しました。

CS系単独注水は、2号機では2017年10月31日～11月7日まで、3号機では11月14日～11月21日まで実施されました。

試験期間において、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタの指示値に「CS系単独注水に切り替えたこと」に伴う有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常はないものと推定されています。



CS系SUSフレキシブルチューブの曲がりの状態



新規PE管施工後

出典：2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料「1～3号機原子炉注水設備の改造工事について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/10/3-05-02.pdf>

2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料

「2, 3号機 給水系注水ライン改造に伴うCS系単独注水の影響確認試験の実施状況について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/11/3-05-04.pdf>

概要に戻る

(4) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第 I 期

① 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

東京電力は、1号機において緊急時対応手順の適正化などを図ることを目的に、原子炉注水を2日程度(約48時間)停止する試験を2019年10月15日から開始することを発表しました。注水停止時の温度上昇率については、48時間の注水停止で最大8.7℃程度の温度上昇と予測しています。なお、注水停止時および再開時の監視パラメーターと判断基準、基準逸脱時の対応(次ページ)については以下のように発表しています。

2020注水停止試験に戻る

また、今後3号機についても、今年度中を目途に注水停止試験を実施する予定としています。

地震のイチエフへの影響に戻る

(1) 冷却状態の監視(注水量停止時)

監視パラメータ	監視頻度		注水停止時の判断基準
	注水停止中	(参考) 通常監視頻度	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が15℃未満 ※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が15℃未満 ※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	原子炉に注水されていないこと
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	毎時	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 15℃以上の温度上昇があった際には、流量を1.5m³/hに増やす(注水を再開する)。

(冬季のRPV/PCV温度は概ね30℃未満であり、15℃の温度上昇でも45℃未満と想定)

(2) その他の傾向監視パラメータ

・原子炉圧力容器上部温度、格納容器圧力、格納容器内水位

(1) 冷却状態の監視(注水量増加時)

・注水変更操作から24時間の監視強化とし、冷却状態に異常が無い場合には、24時間以降は通常頻度での監視に移行。

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が15℃未満※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が15℃未満※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	(必要な注水量が確保されていること)
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	6時間	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 注水変更後、10℃以上の温度上昇があった際には、関係者間で情報共有・監視強化を継続する。

(2) 未臨界状態の監視

・注水変更操作から24時間は速やかにホウ酸水を注入できる体制を維持

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
格納容器ガス管理設備 Xe-135濃度	毎時	毎時	通常値の10倍未満であること※2

※2 Xe-135の通常値は1号機は1.0×10⁻³Bq/cm³程度である。連転上の制限である1Bq/cm³に余裕があっても、2系同時に上昇した場合には、確実な未臨界維持のためホウ酸水を注入する。(片系のみ場合は、計器故障の可能性も含めて判断する)

(3) その他の傾向監視パラメータ

・原子炉圧力容器上部温度、格納容器内水位

出典：2019年9月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第70回) 資料

「福島第一原子力発電所 1号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/09/3-5-2.pdf>

概要に戻る

a 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について

東京電力によると、2019年10月15日～10月17日の期間、約49時間注水を停止しました。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、原子炉圧力容器(RPV)底部温度や原子炉格納容器(PCV)温度の温度上昇量は小さかったということです。

また、ダスト濃度や希ガス(Xe135)等のパラメータにも異常はありませんでした。

今後、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価する予定だそうです。

さらに、3号機についても、今回の試験結果をふまえ、2019年度中を目途に実施する予定としています。

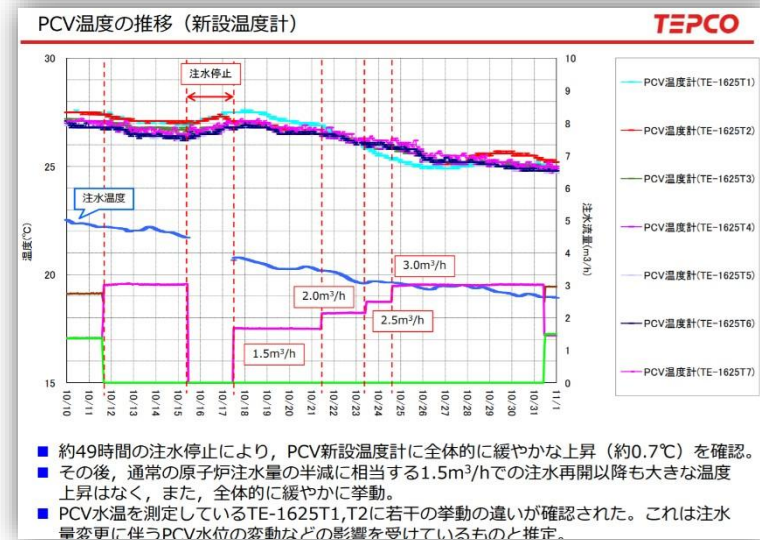
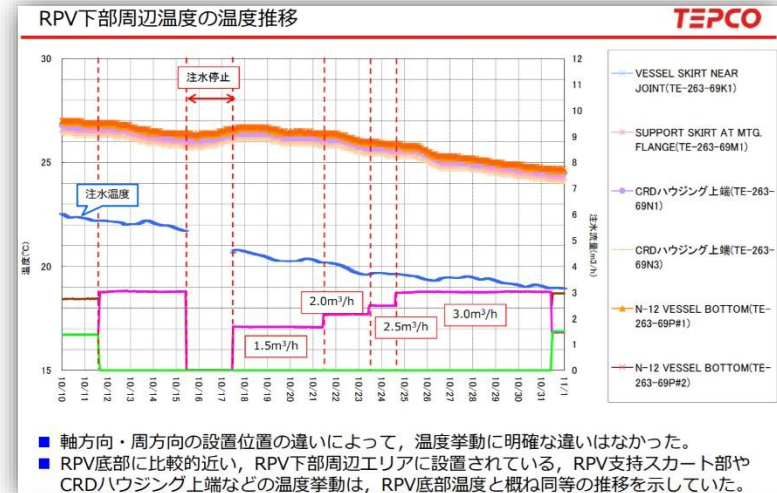
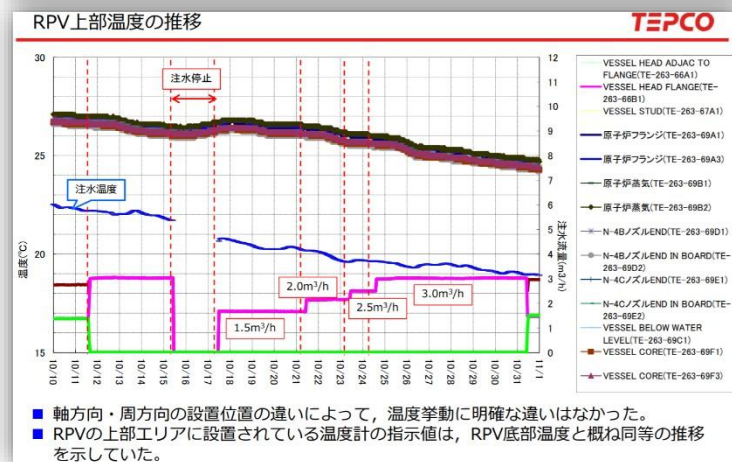
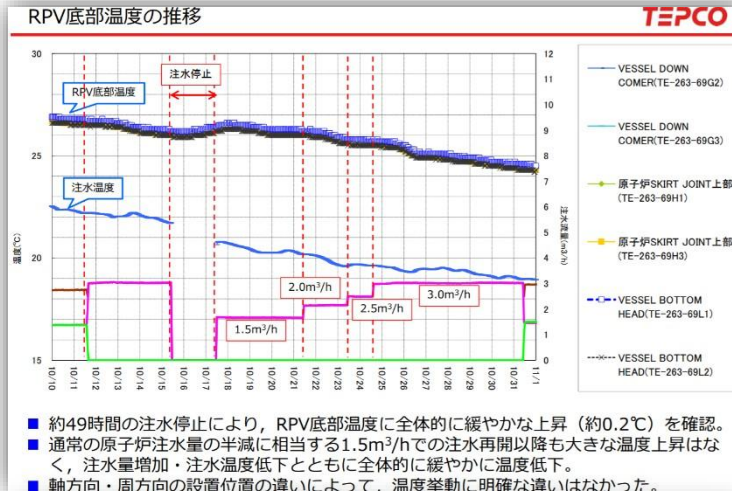
参照

最大温度上昇量		
	RPV底部	PCV
注水停止中 (10月15日11:00～10月17日12:00)	0.2℃	0.6℃
試験期間中 (10月15日11:00～10月30日14:00時点)	0.4℃	0.7℃

監視パラメータ		判断基準を満たさない場合の対応
原子炉への注水量		目標注水量を目安に、原子炉注水量を調整する
冷却状態の監視	原子炉圧力容器底部温度	1.5m³/hで原子炉注水を再開する。 - 注水再開/注水増加によってパラメータに安定傾向がない等の場合には、さらなる注水量の増加等の措置を関係者で協議する。 (温度上昇が急であり、1m³/hを超える注水量の急増が必要と判断される場合にはホウ酸水を注入したうえで、注水量を増加する)
	原子炉格納容器内温度	
	格納容器ガス管理設備ダストモニタ	
未臨界状態の監視	格納容器ガス管理設備希ガスモニタ	- ホウ酸水を注入する。 - ホウ酸水を注入しても未臨界維持の見込みがない場合は、注水量を低減する等の措置を関係者で協議する。

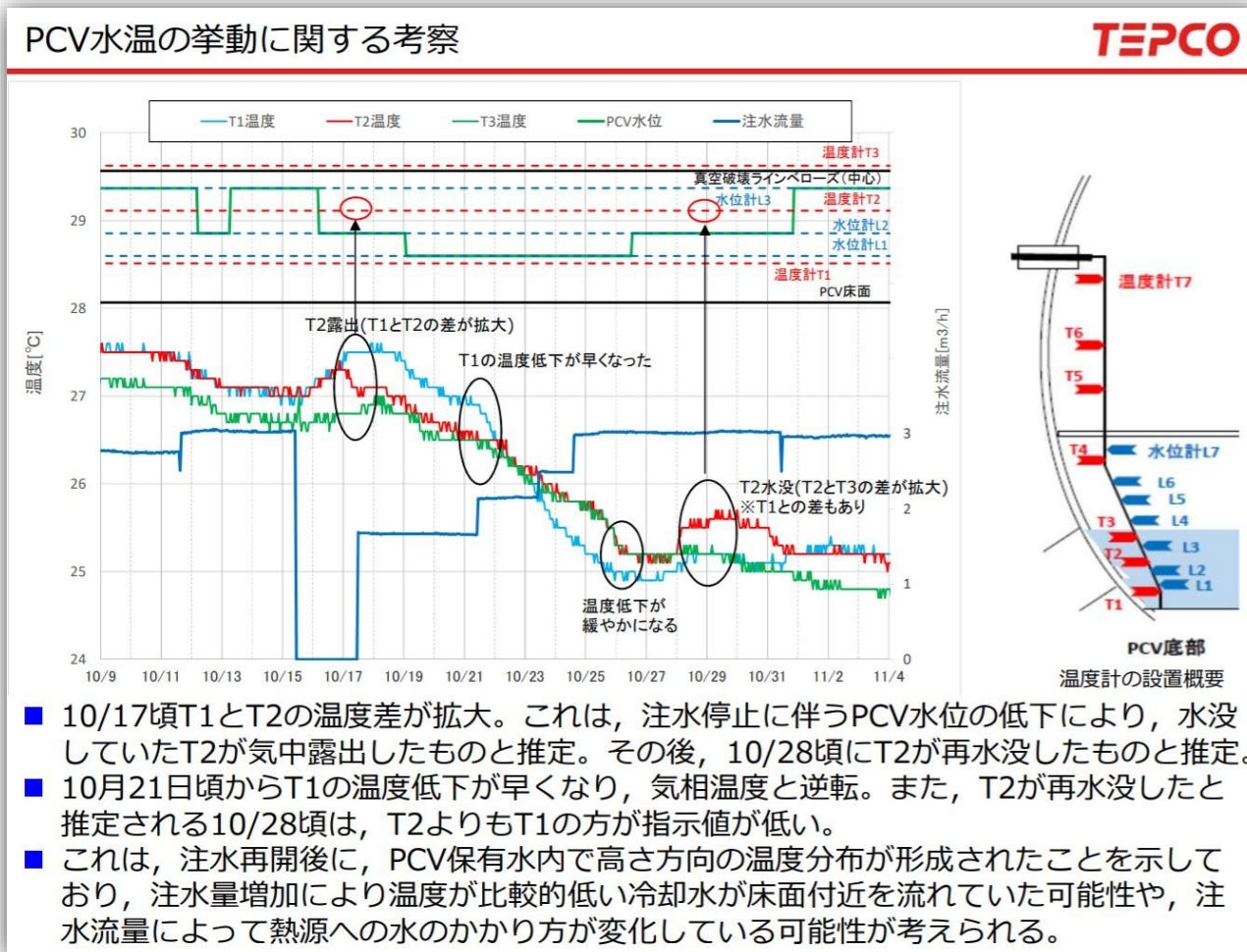
b 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

試験中の原子炉圧力容器(RPV)各部、格納容器(PCV)の温度データは下図のように発表されています。



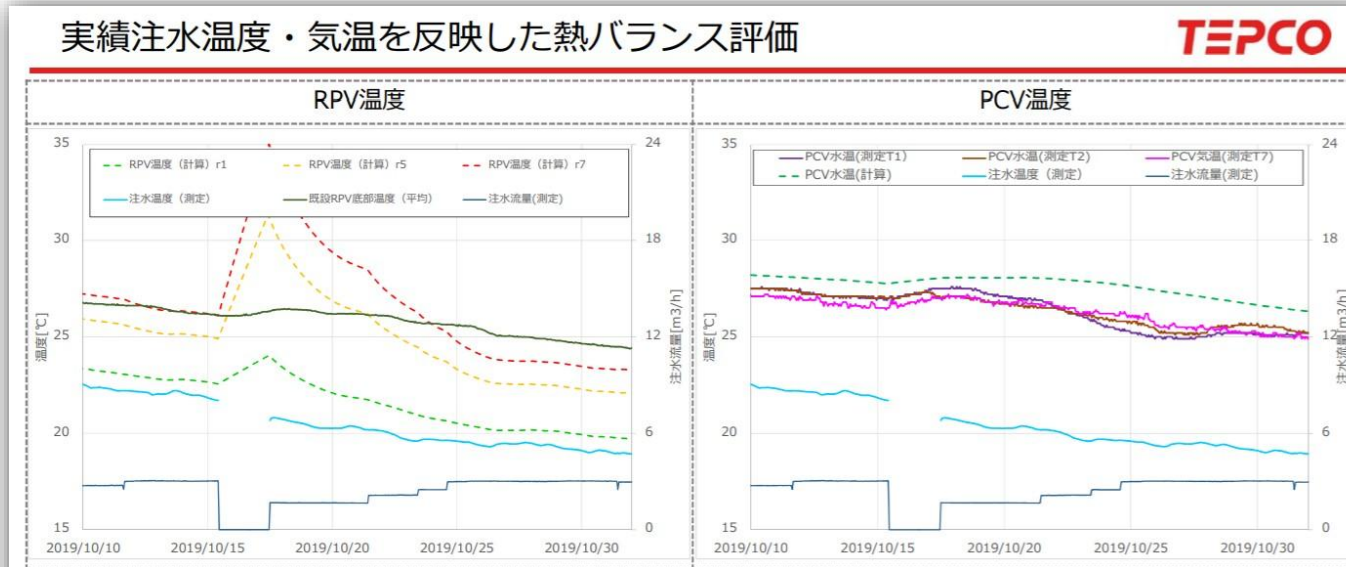
(次ページに続く)

試験期間中、格納容器(PCV)水温が興味深い挙動を示し、東京電力は考察を加えています(下図)。



(次ページに続く)

また、原子炉内の熱源（核燃料デブリ）の所在をどう想定するかによって、冷却状態の推移に伴う原子炉圧力容器（RPV）の熱バランス式による推定温度と実際の測定温度との乖離の度合いが変わってきます（下図）。



- 季節変化による気温の低下とともに注水温度が低下しており、全体的に温度は低下傾向。
- RPV底部温度について、RPVに存在する熱源の量が少ないと仮定した評価ケース（r1）では、全体的に温度を低めに評価する傾向。一方、RPVに存在する熱源を多く設定すると、温度評価は温度計指示に近づくが、注水停止時の温度上昇を過大に評価する傾向。
- PCV温度は概ね実績温度を再現している一方で、PCV水温と気温の違いなど、局所的な温度変化まではモデル上考慮しておらず、再現できていない。また温度上昇時の傾きは概ね一致したものの、注水再開以降の温度低下傾向が実績よりも評価の方が遅い傾向がある。

[\(次ページに続く\)](#)

このような熱バランス式による推定温度と実際の温度との乖離が生じる原因を、東京電力は下図の通り考察し、熱バランス式の改良も検討するとしています。

熱バランス評価に関する考察

TEPCO

- 熱バランスモデルと実際の測定値に差異が生じる原因として、以下のような1号機のプラントの特徴が影響している可能性が考えられる。
 - (1) PCV保有水量が多いこと（PCV水位が高いこと）
 - PCV保有水量の違いは、PCV全体の熱容量の大きさに影響するため、PCV温度の過渡変化時の時定数に影響する可能性。
 - PCV保有水量が多いことにより、液相内での温度分布が発生しやすくなる可能性。
 - ペDESTAL内やPCV底部における燃料デブリの水没状態の違いにより、燃料デブリから冷却水への伝熱量に差異がある可能性。
 - (2) 燃料デブリの大部分がPCV側に存在（推定）
 - 現状モデルでは多くの熱源が存在するPCV側の熱収支計算で、PCV気相温度を計算しておらず、気相/液相の温度分布や、PCV気相を介したRPVとPCVの熱伝達が適切に計算出来ていない可能性がある。
 - (3) 温度測定の不確かさ
 - 温度計は周方向・高さ方向に複数設置されているものの、設置位置によっては、細かい温度分布を観測できていない可能性。
 - 既設温度計は事故の影響により絶縁が低下しており、指示値に不確かさがある。(最大20℃程度)なお、PCVには、事故後に新しく温度計を設置している。
- これらの特徴は3号機にも共通しており、今後の3号機の試験においても類似の傾向となる可能性がある。3号機の試験結果も踏まえモデルの改良を検討していく。

② 2号機CS系のPE管化工事に伴う 核燃料デブリ冷却状態への影響について

東京電力によると、2号機原子炉注水設備の炉心スプレイ系(CS系)ラインについて、信頼性向上の観点から、ステンレス製(SUS)フレキシブルチューブをポリエチレン管(PE管)に取り替える工事を実施しました。

工事中、2017年12月8日～12月25日の期間は給水系(FDW系)単独での運転となりましたが、8月22日～8月29日においてFDW系による単独注水試験を実施しており、当該運転状態でも核燃料デブリ(以下、デブリ)の冷却状態に問題がみられないことは事前に確認済みでした。

この工事によるデブリ冷却状態への影響については、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタのいずれの指示値も、FDW系単独注水に切り替え時、さらにPE管化したCS系を運用開始後にも有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常がないことが確認されたとのこと。

筆者注:CST = 復水貯蔵タンク



出典：2018年2月1日第50回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料「2号機 CS系のPE管化工事に伴う燃料デブリ冷却状態への影響について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/02/3-05-04.pdf>

2017年9月28日第46回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料

「2, 3号機 原子炉注水ラインのPE管化工事に伴うFDW系単独注水の影響確認試験の実施状況について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/09/3-05-03.pdf>

概要に戻る

a 2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする

注水冷却開始(インサービス)に向けた原子炉注水系の切替について

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」を開いたところ、冒頭に

原子炉注水系統の水源多重化を図るため、2019年1月8日、2号機CST(復水貯蔵タンク)を復旧し、原子炉注水の水源として使用する操作を実施中、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注水ポンプ)が全停する事象が発生した。

という記述がありました。

しかし筆者はこのトラブルについて押さえていなかったため、今回2019年1月にさかのぼり、下記出典の東京電力資料により、このトラブルとその後の経過を追ってみました。

まず一連の過程の目的である2号機CSTインサービスとは何かというところから始めます。

(次ページに続く)

出典：2019年1月8日東京電力ニュースリリース「福島第一原子力発電所 2号機原子炉への注水ポンプの起動・停止について」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190108_1.pdf

2019年1月31日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第62回)東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-3.pdf>

2019年2月28日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第63回)東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象の原因と対策について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/02/3-5-3.pdf>

2019年8月29日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第69回)東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-3.pdf>

2020年2月27日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/02/3-5-4.pdf>

概要に戻る

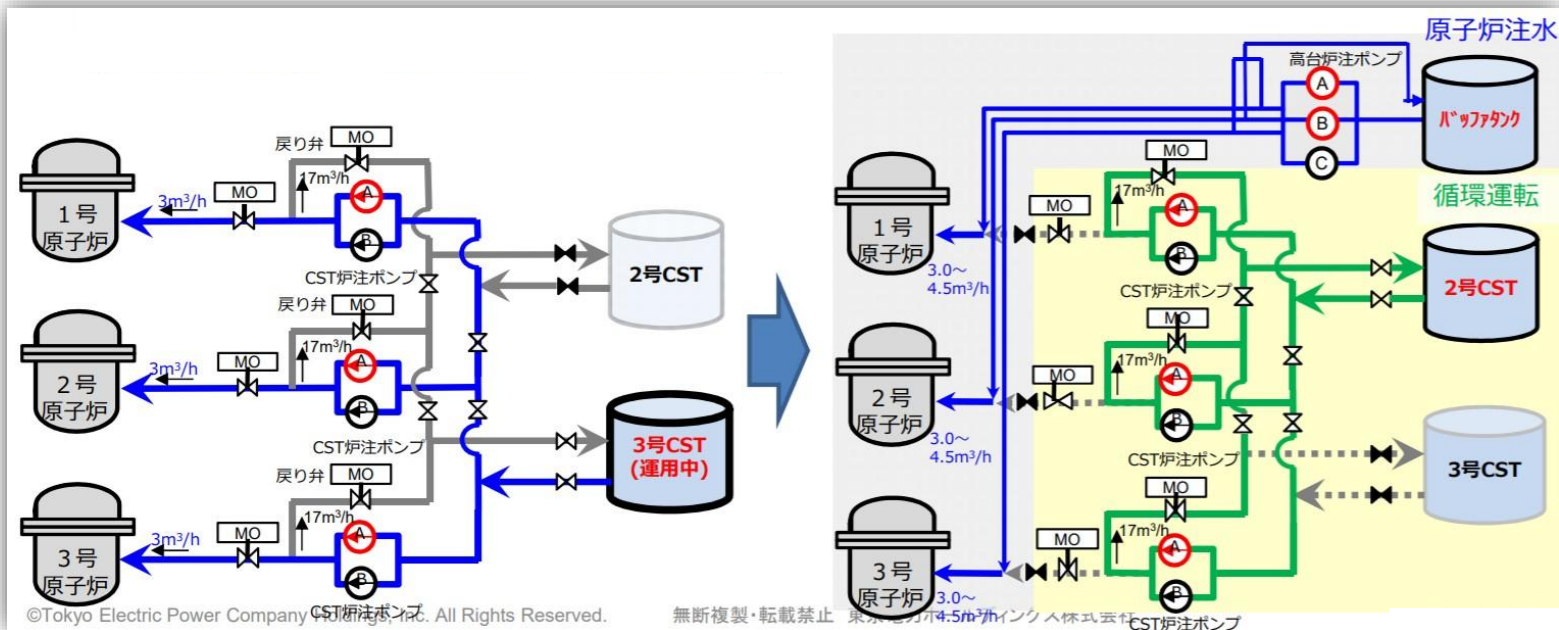
東京電力によれば、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)およびその背景と目的とは、

- ・ 現在、1～3号機の原子炉内には安定的に注水を継続しているが、燃料デブリの崩壊熱は大幅に減少している状況
- ・ 崩壊熱の減少により1～3号機の原子炉注水量を低減してきており、滞留水の低減を図っている。
- ・ それに伴い現在の原子炉注水流量は、ポンプの定格流量に比べ少ない流量になっており、系統上の運用としては、CSTへの戻し流量が多い状態となっている。
- ・ 2号機CSTを復旧し原子炉注水の水源として運用することで、原子炉注水系統全体の運用(原子炉注水量や戻し流量の調整等)がしやすくなる。
- ・ また、2号機CSTの運用を開始することで、原子炉注水系統の水源の多重化が図れる。

だそうです。

概念的には下左図の状態を右図の状態に持っていく計画です。

(次ページに続く)



概要に戻る

ところが、2019年1月8日、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて1、2号機原子炉への注水源を3号機復水貯蔵タンクから2号機CSTへ変更する操作をしていたところ、2号機原子炉注水ポンプが1分間全停しました。

東京電力は、直ちに操作前の状態へ戻す操作を実施し、注水冷却そのものは継続されています。また、注水ポンプ全停中、原子炉圧力容器、格納容器各部の温度、モニタ等の指示に変化はなかったとのことです。

その後東京電力は、原因を調査し、その結果について以下のように公表しました。

- ・全号機のポンプストレーナに水垢(赤茶)の付着が確認されており、吸込圧力の低下が確認された2号機 CST炉注ポンプ(B)のみストレーナこし網内面に鉄さび片の付着が確認された。また、フランジ部にもこし網より落下した鉄さび片が確認された。
- ・現在までの運転により水垢などがストレーナに付着し、その影響で若干の詰まりが発生していた状態で、今回、2号機CSTインサービス操作により、鉄さびがストレーナに流入したため、急激に圧損が増加し、ポンプ吸込圧力が低下したと考えられる。

(次ページに続く)

また再発防止対策については以下の通りとしています。

＜対策①:フラッシングの実施＞

配管内面の鉄さびを仮設ストレーナにて回収するため、2号機CST⇒CST供給配管⇒CST戻り配管のフラッシング運転を行う。なお、未使用配管をインサービスする場合は、事前のフラッシングを行うこととする。

＜対策②:ポンプ吸込ストレーナの点検＞

1～3号機のCST炉注ポンプ吸込ストレーナ清掃を行い、ストレーナに堆積した水垢、鉄さびの除去を行う。ストレーナの点検は、ポンプ吸込圧力の低下傾向が確認された場合に行うこととしていたが、本事象を鑑みストレーナの保全計画を見直すこととする。

＜対策③:2号機CSTインサービス時の手順の再検討＞

急激にパラメータが変化した場合に備えた対応手順を策定する。(パラメータの安定後の操作、戻り弁の調整・ポンプ切替手順等)

そして対策を実施後の2019年8月、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて、1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、

①2号CSTを水源とした場合の異常の有無。(各号機の流量・圧力バランス)

②ポンプ切替による2台運転時の影響確認。(戻り弁(MO,手動バイパス)開度とポンプ吐出圧力の状態等)

の運転状態を確認する計画を明らかにしました。

毎月の「循環注水冷却スケジュール」を見ると、その後実施時期の調整による複数回の延期があり、今回改めて、2020年3月3日から5日にかけて1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、運転状態を確認した上で、3月下旬には2号機CSTを水源とする注水冷却を開始したいとしています。

③ a 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

2号機核燃料デブリ(以下、デブリ)の循環注水冷却は新しい段階に入るようです。

2019年3月現在、1～3号機の原子炉内はデブリへの循環注水冷却により安定状態を保っています。

一方、デブリの崩壊熱は時間の経過により大幅に減少しています。

また、注水冷却が停止した場合の現行の原子炉の温度変化の推定(評価)については、自然放熱による温度低下等は考慮せず、デブリの崩壊熱のみを考慮して計算しているため、実際より急激に上昇する推定(評価)となっています。

(現行の推定(評価)／温度上昇率:約5℃/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30℃と仮定して運転上の制限値である80℃に達する時間:約10時間)

東京電力は、今後、何らかの原因により原子炉に注水冷却の停止を含む多重トラブルが発生した場合、優先すべき対応を適正に判断するために、また、注水設備のポンプ切替時等に、注水量に極力変化がないようにするための現行の複雑な操作を、ヒューマンエラーリスクの低い2系統のうち片方を止めた上でもう片方を起動するというシンプルな切替に見直すために、注水冷却が停止した状態でのより実際に近い温度変化を確認しておく必要があるとしています。

(熱バランスによる推定(評価)／温度上昇率:約0.2℃/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30℃と仮定して運転上の制限値である80℃に達する時間:約12日)

このため、一時的に原子炉注水量を低減(STEP1)、停止(STEP2)し、デブリの冷却状況の実態を把握するとともに、気中への放熱も考慮したより実態に近い温度変化の推定(熱バランス評価)の正確さを確認する試験を、2019年1月に実施することを計画していました。

この計画は、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注ポンプ)が1分間全停するトラブルがあったため延期されていましたが、原因が解明され健全性が確認されたため4月に実施するものです。

1～3号機確認試験の結果のまとめに戻る

(次ページに続く)

出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

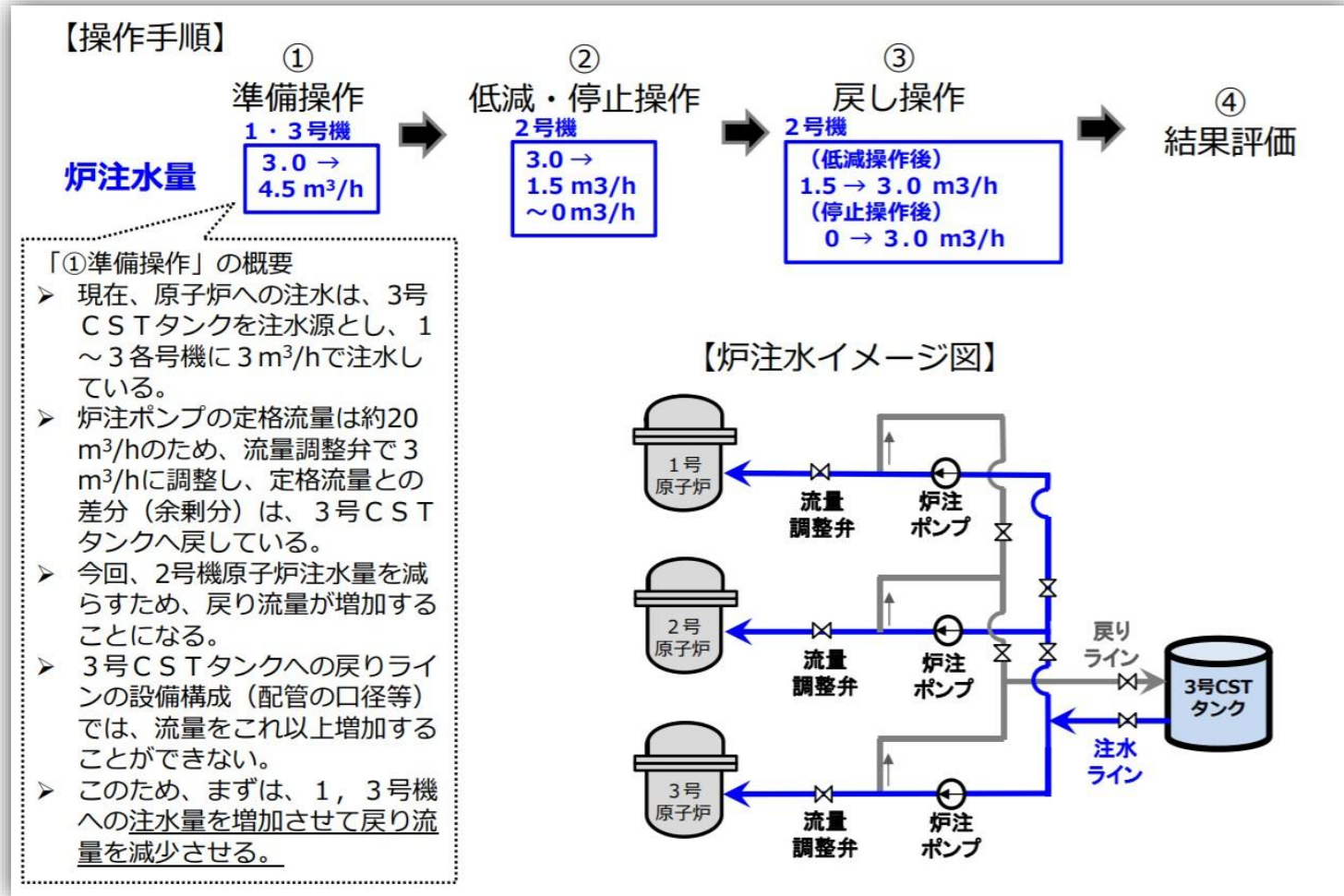
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第64回) 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

概要に戻る

操作手順、および、2号機の注水量を低減するために1、3号機の原子炉注水量を増加させる操作が必要な理由は下図の通りです。



出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

概要に戻る

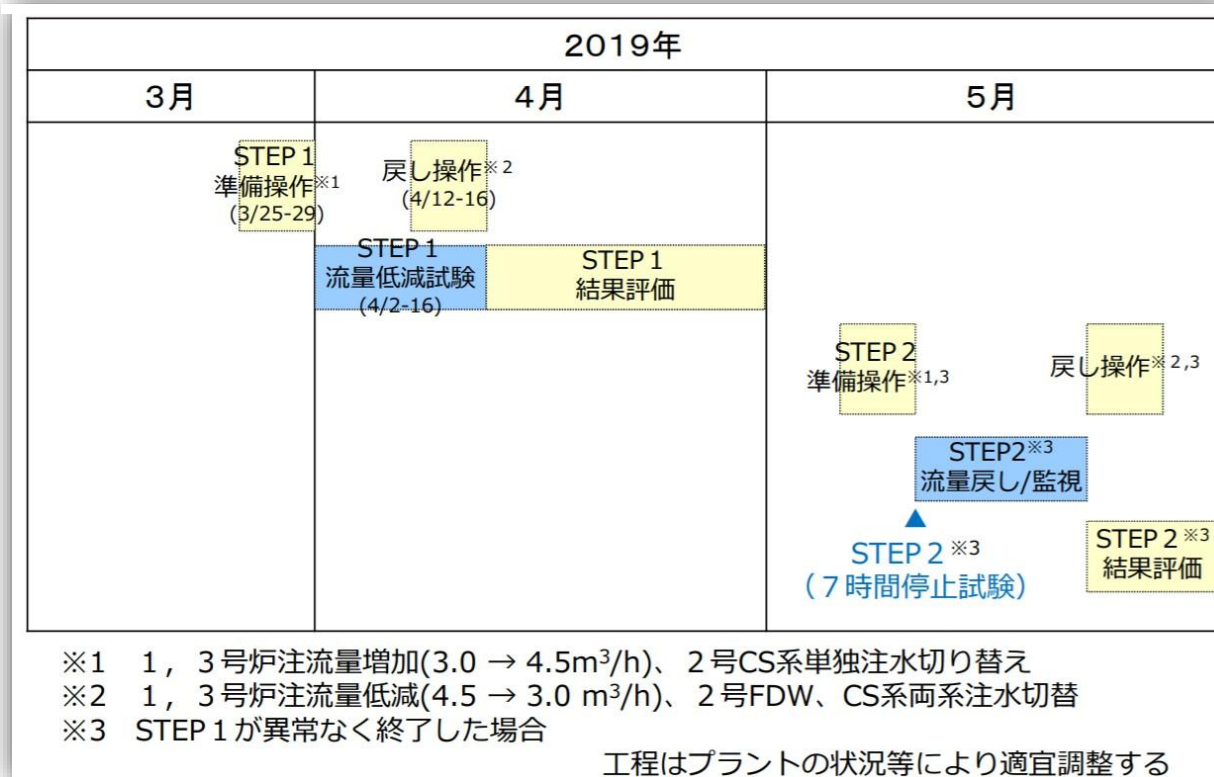
b 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施状況

核燃料デブリ冷却状況の確認スケジュール(予定)は下表であり、2019年4月12日現在の実施状況は以下の通りです。

4月2日午前10時51分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:3.1 m³/h→1.5 m³/h

4月9日午前10時43分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:1.4 m³/h →3.0 m³/h

なお、この原子炉注水量低減操作を通じ、関連監視パラメータに異常はなかったそうです。



出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

2019年4月9日 東京電力 「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

http://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1514125_8985.html

概要に戻る

c 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施結果

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP1を2019年4月2日～4月16日に実施し、その結果について以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り報告しています。

2号機 の原子炉注水量を3.0 m³/hから1.5 m³/hまで低減、および1.5 m³/hから3.0 m³/hに増加し、原子炉の冷却状態に異常がないことを確認した。

<操作実績> 2019年4月2日 10:05～10:51 3.1 m³/h → 1.5 m³/h

2019年4月9日 10:07～10:43 1.4 m³/h → 3.0 m³/h

<原子炉の冷却状態> RPV(原子炉圧力容器)底部温度やPCV(原子炉格納容器)温度の温度上昇については、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測通りであり、試験継続の判断基準(温度上昇15℃未満)を満足(下表参照)。

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量の増加後も有意に 検知されず、原子炉は未臨界を維持。その他のプラントパラメータにも異常なし。 よって、試験STEP2として、原子炉注水を一時的に停止する試験を5月中旬から開始する。 なお、今回の試験における温度上昇の予測評価との差異や、温度計の設置位置による挙動の違いなどの詳細評価については今後実施していく予定。

(次ページに続く)

	温度上昇量	指示値	温度計	備考
RPV底部温度	5.2℃	20.2→25.4℃	TE-2-3-69R	上昇量、指示値最大
PCV温度	2.8℃	18.8→21.6℃	TE-16-114H#2	上昇量最大
	2.1℃	20.8→22.9℃	TE-16-114C	指示値最大

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP2を2019年5月13日～5月24日に実施し、その結果について以下の明朝体部分の通り報告しています。

2号機の原子炉注水を短時間停止し、注水停止中のRPV(原子炉压力容器)底部の温度上昇率は0.2℃/h以下と概ね予測と同程度であることを確認

＜操作実績＞

2019年5月13日 10:11～10:40 3.0 m³/h → 0.0 m³/h

2019年5月13日 18:17～18:54 0.0 m³/h → 1.5 m³/h

2019年5月15日 10:03～10:18 1.5 m³/h → 2.0 m³/h

2019年5月16日 13:36～13:58 2.0 m³/h → 2.5 m³/h

2019年5月17日 15:02～15:15 2.5 m³/h → 3.0 m³/h

＜注水停止中のRPV底部の温度上昇率(2019年5月13日)＞

温度上昇率	温度計指示値	温度計
0.2℃/h以下	24.5℃ (10時時点) → 25.5℃ (18時時点)	TE-2-3-69R

＜原子炉の冷却状態＞

RPV底部温度やPCV温度の挙動は、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測どおりであり、試験継続の判断基準(温度上昇15℃未満)を満足中。

＜その他のパラメータ＞

PCVガス管理設備のダスト濃度に有意な上昇なし

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量増加後も有意な上昇

なく原子炉は未臨界を維持

今後については、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の設置位置による挙動の違い、原子炉注水停止時に採取した放射線データなどを評価、他号機での試験等、追加試験の検討を予定しています。

出典：2019年5月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第66回） 資料

「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験(STEP2)の結果（速報）について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/05/3-5-2.pdf>

概要に戻る

③ 3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について

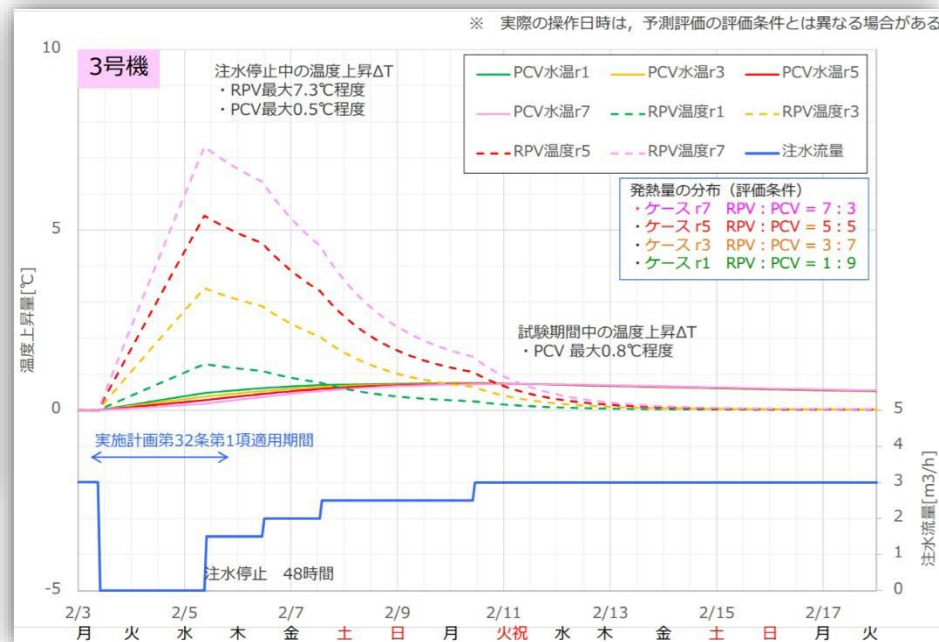
東京電力は、2号機・1号機に続き、3号機においても緊急時対応手順の適正化などを図るために、必要な安全措置を取りつつ、2020年2月3日から2日程度（約48時間）の注水停止試験を、下左図のような工程で実施していく計画を発表しました。

また試験期間中の温度上昇を下右図のように予測評価しています。

[1号機確認試験結果速報に戻る](#)

試験工程	2020年1月	2020年2月
3号機	CS系 単独注水 1/31	燃料デブリ冷却状況の確認試験 (2/3~2/17) 注水停止：2/3 注水再開：2/5 CS系・FDW系 注水 2/17
1・2号機	注水流量増加 (3.0 → 4.5m ³ /h) 1/29~1/31	注水流量低下 (4.5 → 3.0m ³ /h) 2/10

(実際の操作日は現場状況により変更となる場合がある)



3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について

東京電力は、3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について下記の通り発表しました。

■ 試験概要

- ✓ 2020年2月3日～2月5日にて約48時間注水を停止。その後、注水を再開しパラメータを監視。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、判断基準を満足した。
- RPV底部温度、PCV温度に温度計毎のばらつきはあるが概ね予測の範囲内で推移。
- ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動なし。

最大温度上昇量

	RPV底部	PCV
注水停止中 (2月3日10:00～2月5日10:00)	0.6℃ (約0.01℃/h)※	0.7℃ (約0.01℃/h)※
試験期間中 (2月3日10:00～2月17日10:00)	0.8℃	1.2℃

※ () 内は温度上昇率

■ 今後について

- ✓ 実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定。
- ✓ 緊急時対応手順等への反映を検討していく。

1号機確認試験速報にもどる

④ 1～3号機 核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

東京電力は、3号機核燃料デブリ(以下、デブリ)冷却状況の確認試験の結果について上表の通りまとめ、さらに2019年3月から開始された **参照** 1～3号機デブリ冷却状況の確認試験を終了し、その結果について、下表の通り発表しました。

(3号機デブリ冷却状況の確認試験の結果についてのまとめ)

■ RPVの温度挙動について

- RPV底部温度、RPV下部周辺温度は全体的に緩やかな挙動を示していた。
- RPV底部ヘッド上部温度(TE-2-3-69H2)、RPVスカート上部温度(TE-2-3-69K1)で注水再開後の温度低下が大きい傾向、注水量を2.5m³/hに増加した後に温度上昇傾向が確認された。

■ PCV水温と水位の変動について

- PCV新設温度計(TE-16-003)で温度変化が確認された。当該温度計はPCV水位の変化に伴い、一時的に気相露出したと推定している。
- PCV水位の評価結果及びMSIV室内の漏えい音の確認より注水停止中のPCV水位はMSラインベローズに至っていないと推定している。

■ 熱バランス評価と実績温度の比較

- RPV温度は熱源の存在割合に応じ、評価結果と実績温度に若干の差異が生じた。
- PCV温度は実績温度を概ね再現している。

■ 放射線データについて

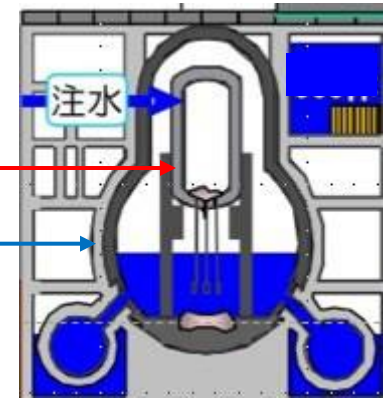
- ダストではCs-137、凝縮水ではCo-60、Sb-125で注水停止前後の放射能濃度に変動が確認された。
- フィルタユニット表面線量、オペフロダストモニタの指示値については注水停止による影響は確認されなかった。

筆者注: なかったことから、

筆者注:

RPV=原子炉圧力容器

PCV=原子炉格納容器



- 1～3号機において、原子炉注水を一時的に停止する試験を実施した結果として、以下のことがわかった。

- ① 試験中のRPV温度やPCV温度に大きな上昇はなく、ダスト濃度や希ガス濃度にも影響はなかったことから、一時的な原子炉注水の停止によって、燃料デブリの冷却状態に問題はないこと。
- ② 熱バランスモデルによって、注水停止などの過渡的な冷却状態の変化をふくめ、RPV底部温度やPCV温度を概ね評価可能であること。
- ③ 注水停止中の温度上昇率は、最大の2号機で約0.2℃/hであり、この温度上昇率に基づくと、注水停止時の時間余裕は、およそ10日以上と見込まれ、従前評価の約10時間と比べ、大幅に余裕が大きいこと※。

※ RPV底部の温度が運転上の制限である80℃に到達するまでの時間余裕

(5) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅱ期

① 福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について

2020年7月、東京電力は、2019年度に実施した注水停止試験結果(前ページ参照)を踏まえ、今後の廃炉に向けて、各号機の状態を踏まえた目的に応じた試験を計画・実施していくことを発表しました。 [参照](#)

各号機の試験目的等は、下左の表の通りとされていますが、さらに、原子炉冷却状態や炉内挙動などの評価に資するデータ拡充の観点から、原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備のHEPAフィルタユニット表面線量率の取得、およびPCVガス管理設備のHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)のダストおよびHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)の凝縮水のサンプル採取も検討されています。 筆者注：HEPAフィルタ＝空気中からゴミ、塵埃などを取り除き、清浄空気にする目的で使用するエアフィルタの一種

日程は、2号機の試験を先行して実施(注水停止：8/17～8/20予定)。1号機の試験は、内部調査に向けた作業後に実施する計画。3号機は今年度中に実施できるように工程を調整していくとしています。

また、注水停止時に生じる可能性のあるリスク、およびそのリスクの緩和策については下右の表の通りとしています。

	1号機	2号機	3号機
試験目的	注水停止により、PCV水位が水温を測定している下端の温度計(T1)を下回るかどうかを確認する	2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する	PCV水位がMS配管ベローズを下回らないことを確認する
補足	- 昨年度試験では、PCV水温を測定している温度計は露出しなかった - より長期間の停止で温度計が露出するか確認し、今後の注水量低減・停止時に考慮すべき監視設備に関する知見を拡充する - PCV水位低下状況を踏まえ、今後の注水のありかたを検討していく	- 昨年度試験での注水停止期間、RPV底部温度はほぼ一定で上昇することを確認 - より長期間の停止で、温度上昇の傾きに変化が生じるか確認し、評価モデルを検証する	- 昨年度試験では、PCVからの漏えいを確認しているMS配管ベローズまでPCV水位は低下しなかった - PCV水位の低下有無や低下速度等を踏まえ今後の注水のありかたを検討していく
停止期間	5日間	3日間	7日間

	影響評価	影響緩和策
温度変化	- 注水停止に伴う除熱減少により、RPVやPCVの温度が上昇する - 熱バランス評価により温度上昇は最大10℃程度と評価しており、注水停止試験による温度上昇は限定的	- 想定外の温度上昇に備え、RPV、PCVの温度変化を慎重に監視。 - 異常な温度上昇を確認した場合、速やかな注水再開や注水量増加等の措置を実施。
再臨界	注水再開時に1m³/hを超える注水増加を伴うものの、注水量を現在の状態に戻す操作であり、未臨界維持に与える影響はない	- ガス管理設備の希ガスモニタを監視。 - Xe-135の濃度の上昇/検知を確認した場合、注水再開前の状態に戻し、ほう酸水の注入等の措置を実施。
ダスト等の放出量増加	ガス管理設備においてフィルタを通して排気していることや、湿潤環境が維持されていることにより、注水停止試験による放出量増加はない	- ガス管理設備のダストモニタを監視。 - 異常なダスト上昇を確認した場合、速やかな注水再開や注水量増加等の措置を実施。

出典：2020年7月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第80回) 資料
「福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/07/3-5-2.pdf>

[概要に戻る](#)

② 1号機原子炉注水停止試験の実施について

1号機の原子炉格納容器(PCV)には注水冷却により、核燃料デブリ(以下、デブリ)の上に深さ約1.5 mの汚染滞留水(以下、滞留水)が溜まっており、その水温は温度計により常時監視されています。

注水冷却は汚染水発生の一つの要因であり、デブリの冷却を確保しつつ注水量を低減することが望まれています。水温の監視も欠かすことはできません。

今回の停止試験は、5日間の注水停止により滞留水が最下部の温度計(右図T1)の位置より下がり、水温が測れなくなるかどうかを確認することを目的として実施されました。

なお2019年度に実施された49時間の注水停止試験 **参照** では、温度計T1の位置まで滞留水は下がりませんでした。

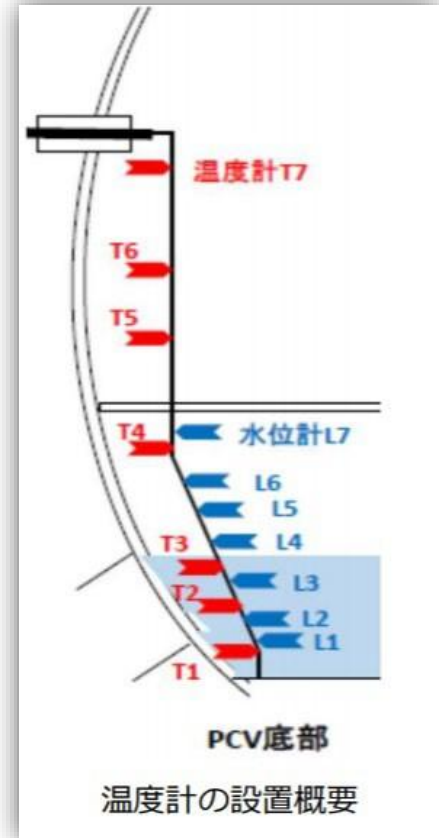
試験結果は概略以下の通りであったと発表されました。

注水停止:2020年11月26日14:33→注水再開:2020年12月1日15:20

原子炉圧力容器(RPV)底部温度、PCV温度に温度計ごとのばらつきはあるが、概ね予測の範囲内で推移した。

PCV水位は、水温を測定している下端の温度計(T1)を下回らなかったと推定される。昨年度試験と同様に、注水停止中にドライウェル(D/W。筆者注:原子炉圧力容器を包み込むフラスコ型の部分)圧力の低下を確認した。

ダスト濃度や希ガス(Xe-135)濃度に有意な変動はなかった。



出典: 2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第84回)資料「1号機原子炉注水停止試験の実施(試験工程)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-4.pdf>

2020年12月24日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第85回)資料「1号機原子炉注水停止試験結果」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/12/3-5-2.pdf>

概要に戻る

③ 2号機原子炉注水停止試験結果(速報)

前々ページの下左表中、原子炉注水停止試験2号機の目的である「2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する」ため、2020年8月17日10:09～年8月20日11:59の約74時間、2号機において、核燃料デブリの冷却注水が停止されました。

この間の温度上昇は、原子炉圧力容器(RPV)底部で12℃未満、原子炉格納容器(PCV)で4℃未満。温度変化の推移も、現行の温度評価モデルに基づく予測に近いものでした。また、この間、ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動も測定されませんでした。

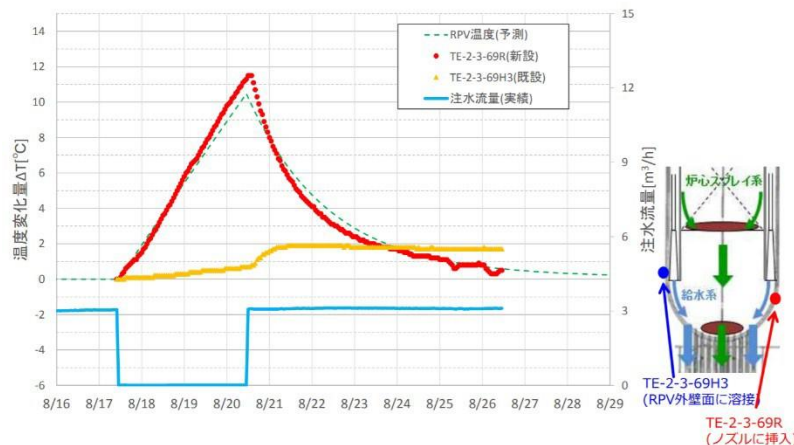
東京電力は今後について、

「試験終了予定の8月28日までパラメータの監視を継続する。

実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定」としています。

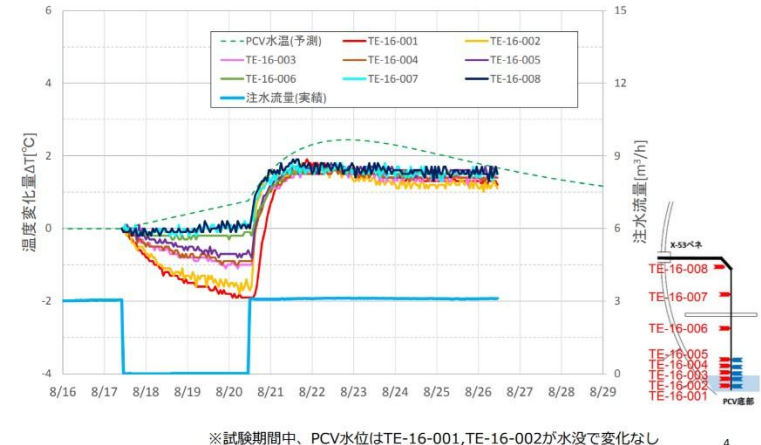
RPV底部温度の推移 (試験開始からの温度変化量)

TEPCO



PCV温度(新設)の推移 (試験開始からの温度変化量)

TEPCO



出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第81回） 資料

「2号機原子炉注水停止試験結果(速報)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(6) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅲ期

① 福島県沖地震(2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

2021年2月13日夜福島県沖を震源としたマグニチュード7.3の地震が発生し、イチエフは震度6弱の揺れにみまわれました。この地震によりイチエフ構内で起きた主要なこと、またこの地震をきっかけに分かったことを、以下に列挙します。

- ・ 5・6号機の各原子炉建屋の上部にある使用済み核燃料プールから水の一部があふれ出ました。東京電力は建屋外への流出は確認されておらず、外部への影響はないとしています([14日東京電力発表](#))。
- ・ 増設ALPSサンプルタンク1基(全3基)、高性能ALPSサンプルタンク2基(全3基)にタンクの位置ずれ(最大5cm)が確認されたそうです。東京電力は、水漏れやタンクの損傷は確認されていないとしています([18日東京電力発表](#) 9ページ)。
- ・ 1・3号機原子炉格納容器(以下、格納容器)の水位が低下していることが分かりました([19日東京電力発表](#))。
- ・ 1号機の格納容器圧力が低下していることが分かりました([21日東京電力発表](#))。
- ・ 22日の原子力規制委員会の第88回特定原子力施設監視・評価検討会の席上で、東京電力は、3号機の原子炉建屋に昨年設置した地震計2基が故障していたにもかかわらず、修理などの対応をせず放置していたため、[2月13日に発生した地震の揺れのデータが記録できていなかったことを明らかにしました\(第88回特定原子力施設監視・評価検討会 会議映像\)](#)。
- ・ [22日、東京電力が、2月1日から1～3号機の水位データの採取を終了していたことが分かりました\(おしどりマコtwitter\)](#)。

本レポートでは、このうち、今後の廃炉作業への影響も懸念される、1・3号機格納容器の水位低下と、1号機格納容器圧力の低下について、現時点で分かる限り、何が起きているのかを掘り下げてみます。

概要に戻る

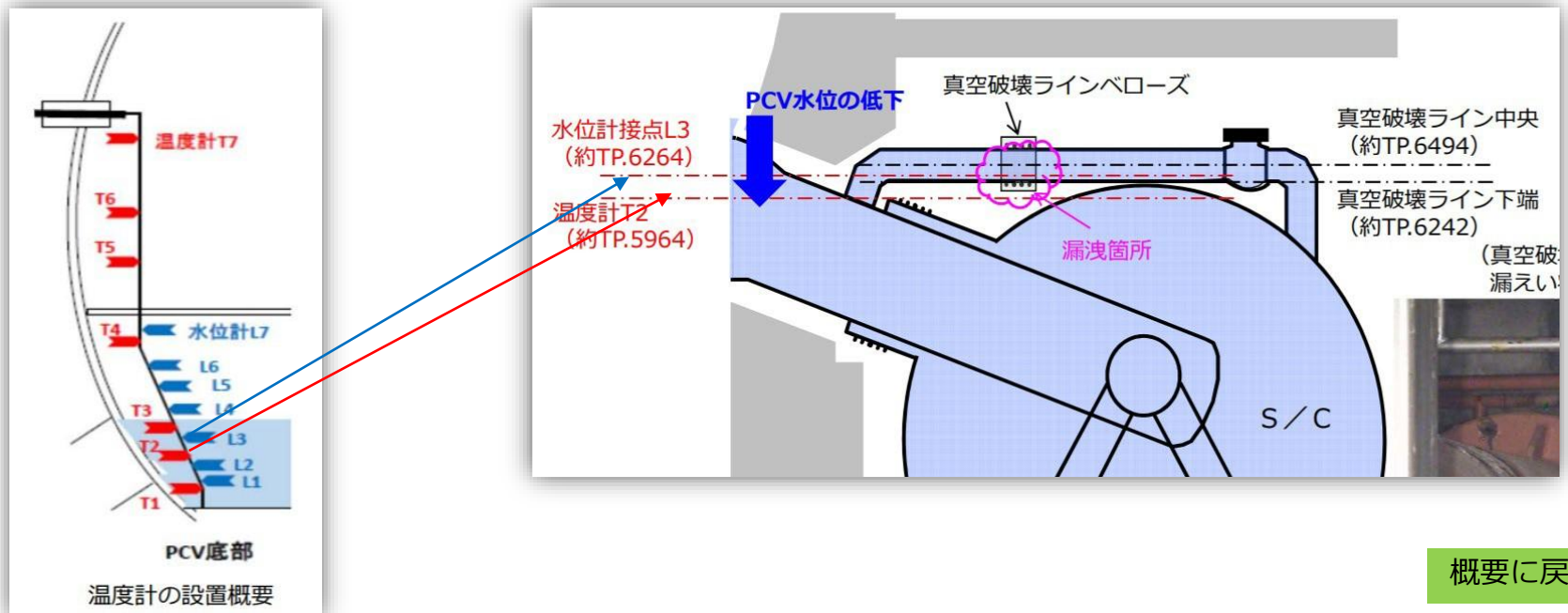
(次ページに続く)

② a 福島県沖地震(2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

1号機では、2019年10月に行われた1号機核燃料デブリ注水冷却停止試験 [参照](#) において、水位を温度計T2 付近まで下げたところで、原子炉格納容器(以下、PCV)圧力が低下し、注水再開後、水位を温度計T2付近まで上げたところでPCV圧力が元に復しています。東京電力は、この高さがこれまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズの設置高さとおおむね一致したことから、PCV水位が損傷箇所を下回ると、損傷箇所が空气中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいし、PCV圧力が低下したたのだろうと推論しています(2020.1.30 『1号機 燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について』14ページ)。

この推論を今回の1号機PCVの水位と圧力との挙動に重ね合わせると、今回の地震発生後、1・3号機PCVの水位が低下し、かつ1号機の格納容器圧力が低下していることから、1号機PCVでは、これまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズより下部の損傷が拡大したか、新たな損傷が生じ、そこから冷却水が漏れることでPCV水位が真空破壊ラインベローズ以下に低下し、真空破壊ラインベローズが空气中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいしPCV圧力が低下したと考えられます。

核燃料デブリの環境への影響の最大の防波堤であるPCVおよび周辺機器の脆弱性が懸念されます。 [\(次ページに続く\)](#)

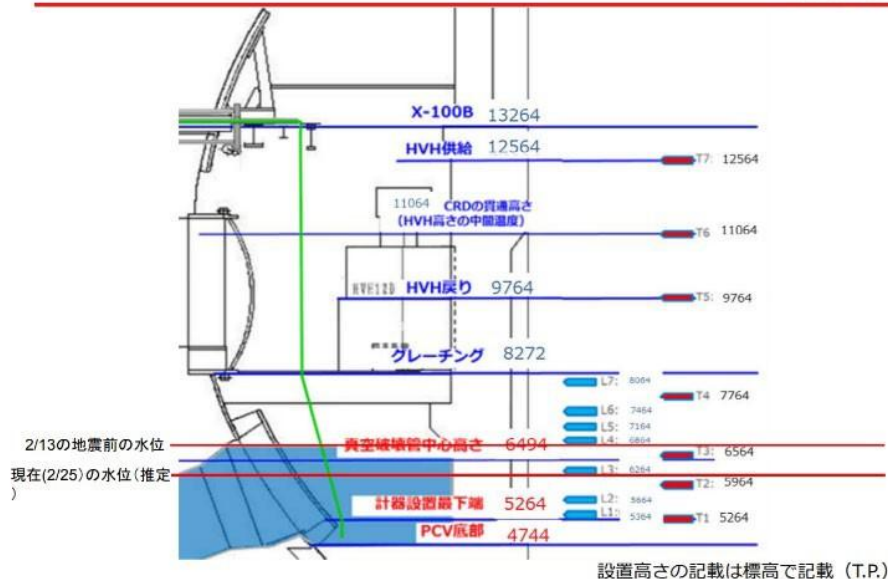


b 2月25日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第87回)以降の推定

[下部2図を含む標記会議資料](#)において東京電力は、1号機原子炉格納容器(以下、PCV)の水位の低下および圧力の低下の状況と原因について、[前ページ](#)の筆者の推定とほぼ同じ推定をしています。27日現在、温度計T2付近まで水位は下がり続けているようです。

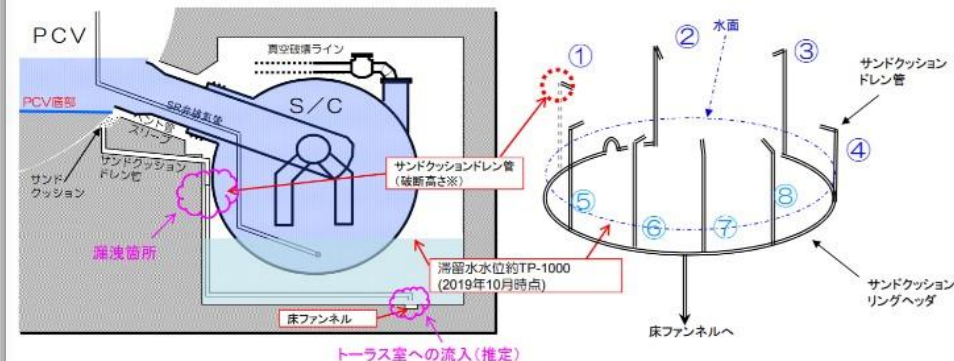
1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ

TEPCO



(参考) 1号機 これまでのPCV漏洩箇所の推定状況 (2/2)

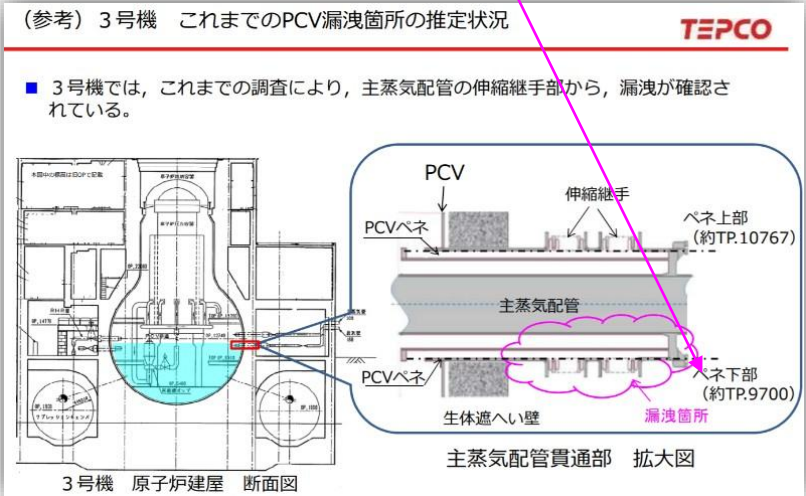
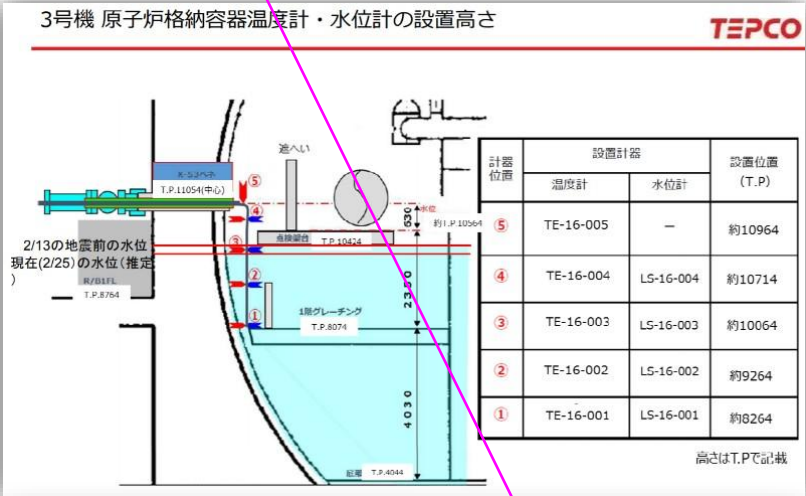
TEPCO



※ サンドクッションドレン管は8本あり、うち1本が気中で破断していることが確認されている。

- サンドクッションドレン配管からの漏洩が確認されているのは、気中で破断している1箇所のみであるが、他の7本についても、水中(たとえば床ファンネル付近)において、PCVから漏洩している可能性がある。

[下部2図を含む標記会議資料](#)において東京電力は、3号機PCVの水位低下の原因については、主蒸気配管の伸縮継手部からの漏えいが従来から確認されていたことにとどめています。しかし、3月1日現在、水位は主蒸気配管が通っている貫通部下部を過ぎて低下しています。[損傷の拡大（推定）と水位の低下に戻る](#)



3号機PCV水位の変化（東京電力日報データから筆者が計算）

日付	水位（底部から）	前日との水位差	地震前との水位差
単位	mm	mm	mm
地震前の水位	6,380		
2021/2/19	5,579	-801	-801
2021/2/20	5,570	-9	-810
2021/2/21	5,549	-21	-831
2021/2/22	5,549	0	-831
2021/2/23	5,529	-20	-851
2021/2/24	5,520	-9	-860
2021/2/25	5,509	-11	-871
2021/2/26	5,518	9	-862
2021/2/27	5,499	-19	-881
2021/2/28	5,500	1	-880
2021/3/1	5,519	19	-861

③ 1・3号機原子炉格納容器の水位

3号機については、2021年4月2日『[福島第一原子力発電所の状況について\(日報\)](#)』によると、プラントパラメータに異常がなく、原子炉格納容器(以下、PCV)水位も、2021年2月13日以前の水位約 6.4 m から 90 cm 減で安定していることから、4月2日、監視強化から通常の監視に戻したということです。

1号機は、『[1,3号機原子炉格納容器\(PCV\)の水位低下について\(続報2\)](#)』によると、3月22日、水位が水位計L2 (T.P.+5,664 mm)を下回ったため、核燃料デブリ冷却用注水量を 3.0 m³/h→4.0 m³/hとし、23日の『[同\(続報4\)](#)』によると、水位は水位計 L2 上に復し、26日の『[同\(続報6\)](#)』によると注水量を 3.0 m³/hに戻しています。また1号機では接点式の水位計しか設置しておらず、連続的に水位データを追えません、4月の水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm)水位計L2 (T.P.+5,664 mm)との間にあるようです。

また3号機については、4月5日から4月22日の期間、原子炉注水停止に伴いPCVの水位がどの程度まで低下するのか影響を確認し、さらに今後の燃料デブリ取り出し関連作業に向けた知見拡充を図るため、3号機の原子炉注水設備において、原子炉注水を一時的に停止する試験(3号機原子炉注水停止試験)を実施しました。

詳しくは[次ページ](#)をご覧ください。

さらに1号機では、2021年度、地震があった際のリスクを低減するため、水位を低下させる計画が発表されました。

※ [この1号機の水位低下計画についてのレポートは、今後の核燃料デブリの取り出し準備の一環と思われるので、「核燃料デブリの取り出し準備2021年4月レポート」173ページ～「\(3\) 原子炉格納容器\(以下、PCV\)内部状態の変更」内の176ページ～「b 1号機 原子炉格納容器水位低下計画について」に移しましたので、そちらをご覧ください。](#)

(次ページに続く)

④ 1号機 原子炉格納容器の水位の経過について

(2021年5月の経過)

	TP標高(mm)	PCV底から高さ (cm)
水位計L3	6,264	152
温度計T2	5,964	122
水位計L2	5,664	92

1号機の原子炉格納容器(以下、PCV)水位は、「福島原子力事故に関する定期更新 2021年(日報)」によりますと、5月1日から6日までは、温度計T2(T.P.+5,964 mm)と水位計L2(T.P.+5,664 mm)の間にありましたが、7日には水位計L2(T.P.+5,664 mm)を下回り、注水量が約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量されました。この結果11日、水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、注水量は約3.0 m³/hへ戻されています。この不安定な水位を受け、10日に計画されていたPCV注水量変更計画が延期されています。

18日には総注水量約3.0 m³/hのうち、炉心スプレイ系と給水系が半々だったのが給水系一本での約3.0 m³/hに変更されました。理由は不明です。

21日になると水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)付近となり、さらに24日には温度計T2(T.P.+5,964 mm)を下回り、30日には、水位計L2(T.P.+5,664 mm)も下回ったため、31日に注水量を約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量。6月1日に水位計温度計T2(T.P.+5,964 mm)超まで復すという挙動を繰り返しています。

なお2月13日地震の前のPCV底部からの水位は約175 cm、水位計L2(T.P.+5,664 mm)のPCV底部からの水位は約92 cmです。

(2021年6月の経過)

上記の注水量の増量により、6月1日、水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、6月3日以降、水位計L3(T.P.+6,264 mm)付近にあるようです。

また、接点式の水位計であるL2(T.P.+5,664 mm)については、6月1日、水位がT.P.+5,964 mm超であるにもかかわらず、接点ON(水没)とOFF(非水没表示)を繰り返している状態ということであり、信頼性に疑問が生じています。

出典：2021年5月30日東京電力資料「1,3号機原子炉格納容器(PCV)の水位低下について(続報13)」一原子力発電所 1号機および3号

https://www.tepco.co.jp/press/mail/2021/1612077_9004.html

2021年6月1日東京電力資料「福島第機原子炉格納容器における水位低下について(続報)」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

2021年6月1日東京電力資料「福島第一原子力発電所 1号機および3号機原子炉格納容器における水位低下について(続報)」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

[概要に戻る](#)

[概要に戻る](#)

⑥ a 2号機TE-2-3-69Rの謎

筆者は日課として、東京電力のホームページから福島第一原子力発電所の[プラント関連パラメータアーカイブ](#)というページを開き、その日のパラメータのデータを前日のそれと比較してみています。

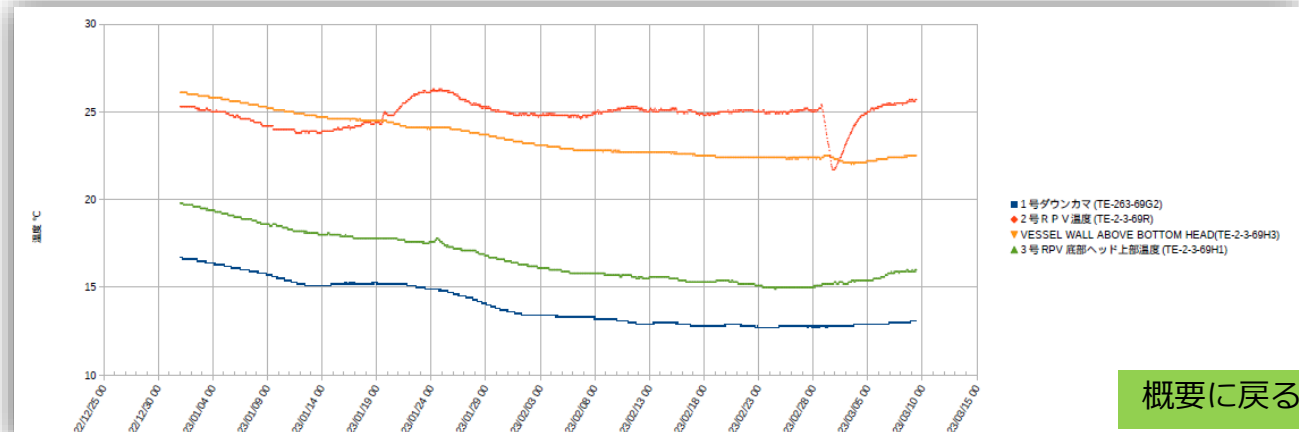
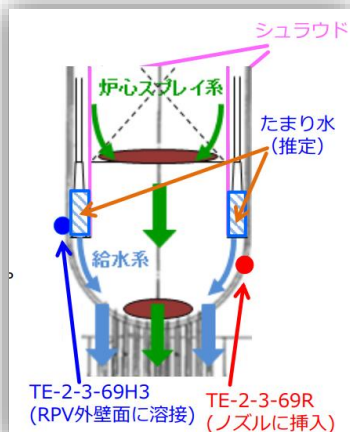
その日課の中で以前から不思議に思っていたことがあります、自信をもって解釈も説明もできないため、これまでレポートもしてきませんでした。今回、分からないことは分からないこととして、事実を事実としてレポートしておくことにします。

それは2号機原子炉圧力容器(以下、RPV)の底部ヘッド上部に2014年に新設されたTE-2-3-69Rという温度計(下左図参照)があります。その温度計のデータが、同じ2号機RPV底部ヘッド上部にある温度計TE-2-3-69H3(下左図参照)や、1・3号機のほぼ同じ位置にある温度計のデータと時々(月に1, 2回ぐらい)違う動きをすることです。TE-2-3-69R以外の温度計データは毎日おおよそ原子炉冷却用の注水温度と同期してなだらかな変化をしています、ところがTE-2-3-69Rの温度計データは時々それらと同期せず、小さいながらも明らかにTE-2-3-69R以外の温度計データの変化より大きな変化を示すことがあるのです。

次ページの3つの表をご覧ください。上が2024年2月1日のRPV底部温度データ、真ん中が2月5日のデータ、下が2月13日のデータです。赤い楕円で囲ったのが2号機TE-2-3-69Rのデータ、オレンジ色の楕円内がTE-2-3-69H3という2号機のもう一つの温度計データ、青の楕円内が1号機のほぼ同じ位置の温度計データ、緑の楕円内が3号機のほぼ同じ位置の温度計データです。

下右のグラフは2023年初頭の2か月少しの期間のTE-2-3-69R データ(赤)、TE-2-3-69H3 のデータ(オレンジ)、1号機のほぼ同じ位置の温度計データ(青)、3号機のほぼ同じ位置の温度計データ(緑)です。明らかにTE-2-3-69Rのデータが他のデータと異なる動きを示していることがお分かりいただけると思います。

(次ページに続く)



概要に戻る

この違いが、東京電力が下記出典で言う、TE-2-3-69Rの他の温度計との設置位置の違いによるものか、他の温度計の事故の影響による指示値の不確かさによるものか現時点では確かめようはありませんが、2号機TE-2-3-69Rの近くに、活動量が時折変動する何らかの熱源があることが推定されます。

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月1日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.8 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.4 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.4 °C
	原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.9 °C	RPV温度 (TE-2-3-69R) : 28.8 °C	RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.6 °C
	VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 15.1 °C		

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月5日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.7 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.3 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.3 °C
	原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.9 °C	RPV温度 (TE-2-3-69R) : 29.5 °C	RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.6 °C
	VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 15.1 °C		

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月13日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.3 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.4 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.3 °C
	原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.7 °C	RPV温度 (TE-2-3-69R) : 26.3 °C	RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.3 °C
	VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 14.8 °C		

出典：2019年8月27日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」
<https://www.da.nsr.go.jp/file/NR000127243/000283111.pdf>

概要に戻る

⑥ b 2号機TE-2-3-69Rの謎の原因についての一つの推定

2号機原子炉圧力容器(以下、RPV)底部に設置された温度計TE-2-3-69Rは、旧TE-2-3-69Rの指示値の挙動が不審であったことから、2012年10月、SLC差圧検出配管に新しい温度計が設置され(新)TE-2-3-69Rとされています。

この(新)TE-2-3-69R指示値の挙動の謎について、東京電力は下記出典1の6ページにおいて、以下のようにその要因を推定しています。

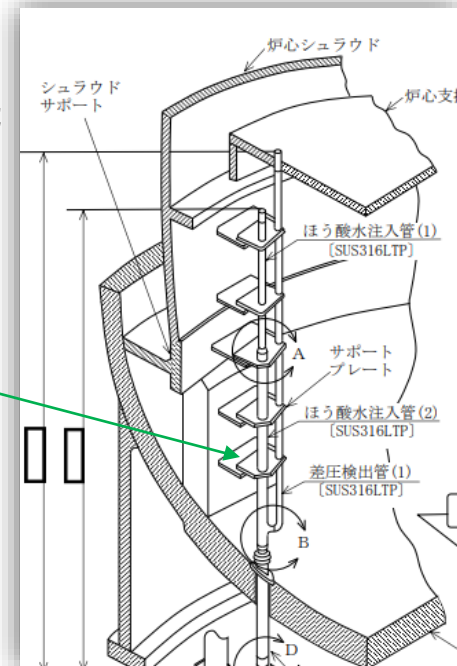
- ① TE-2-3-69H3とTE-2-3-69Rの設置位置の違いにより、RPV内でTE-2-3-69Rの方が燃料デブリに近い可能性。
- ② 2号機のシュラウドは概ね健全であり、TE-2-3-69H3の内側には、たまり水があると推定。たまり水の影響により、当該箇所温度変化が緩やかになっている可能性。
- ③ TE-2-3-69H3などの既設の温度計は、事故の影響により絶縁が低下しており、指示値の不確かさが大きい可能性※2。(指示値の不確かさは最大20℃程度と評価)

つまり東京電力は、TE-2-3-69H3温度計の性能が低下しており、かつ設置位置の内側にたまり水もあると推定されその指示値は不確かである。TE-2-3-69Rの方が核燃料デブリに近くその影響を受けている可能性が高いと言いたいのだと思います。

しかし、[前々ページ](#)左下の2号機RPVのポンチ絵および右引用図をご覧ください。TE-2-3-69H3がRPVの外壁に取り付けられているのに対し、TE-2-3-69Rは、RPV内部のSLC差圧検出配管に設置されており、冷却用注水とくに給水系(FDW系)注水を被る位置にあるようです。

そこで、[東京電力のホームページプラントデータサイト](#)から2号機の1時間毎のデータを取り出し、読者の一人に、2025年初頭から6月初旬にかけてのTE-2-3-69R温度計指示値、TE-2-3-69H3温度計指示値、FDW系注水水温およびCS系注水水温をグラフ化していただいたものが[次ページ](#)のグラフです。

筆者には、[TE-2-3-69R温度計指示値のトレンド\(赤のグラフ\)](#)は、FDW系注水水温およびCS系注水水温(両端が紫色、中央が水色のグラフ)にほぼ同期しているように見える、つまりTE-2-3-69H3温度計指示値の挙動は注水水温の影響が大きいと思われるのですが、読者の皆さんはいかがお考えでしょうか。



出典：2019年8月27日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-2.pdf>

2019年8月29日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-2.pdf>

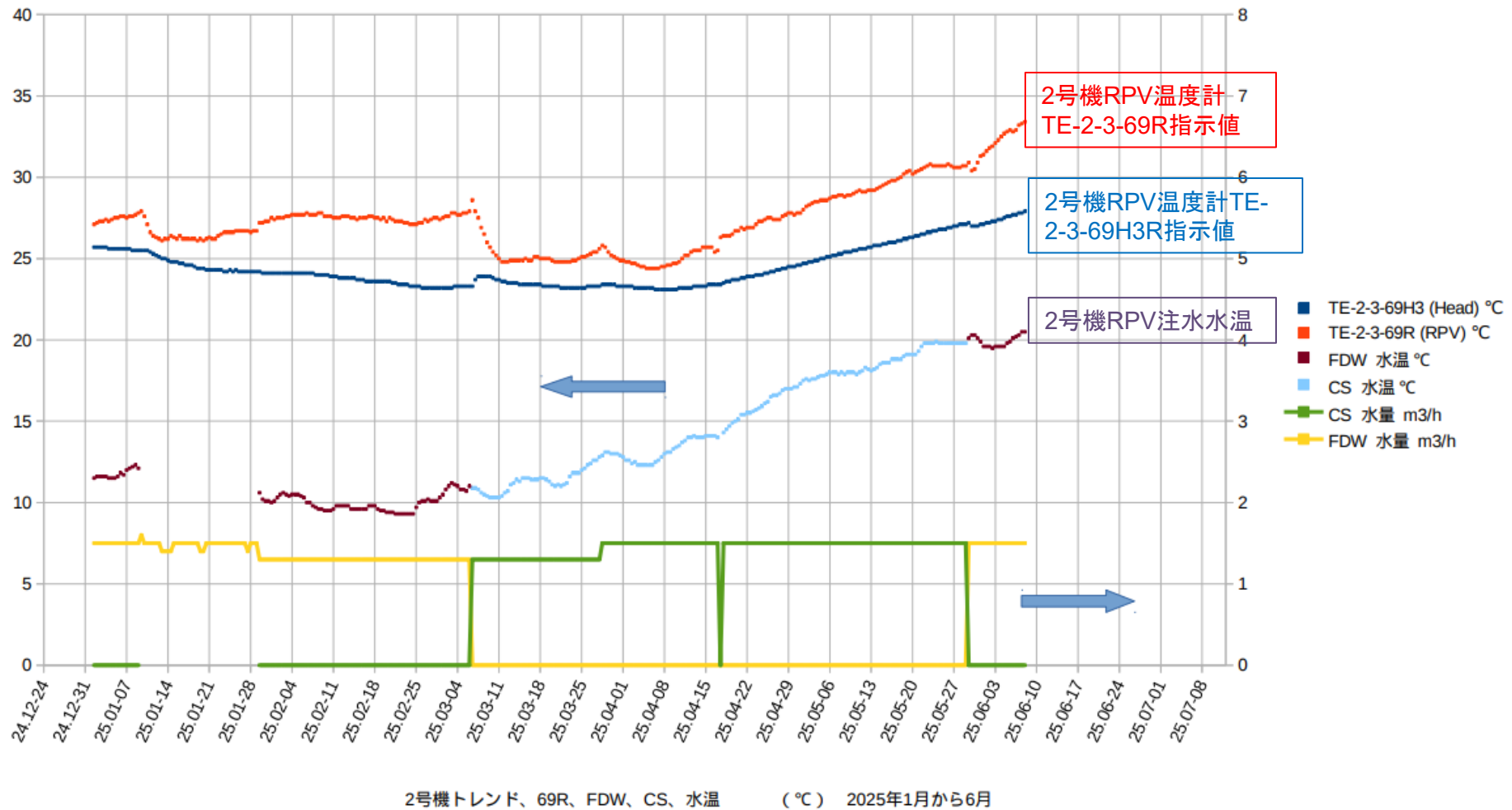
2020年10月20日日東京電力資料「2号機原子炉注水停止試験結果」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/evaluation_review/pdf/2020/evaluation_review_2020101904.pdf

2021年12月10日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」

<https://www2.nra.go.jp/data/000376165.pdf>

[概要に戻る](#)



⑦1号機原子炉格納容器水位低下方法変更の(筆者にとっての)謎

1号機では、2024年2月29日に見送りとされた、原子炉格納容器(以下、PCV)内部調査(気中部調査)を3月14日に実施することに伴い、下記の通り1号機の原子炉注水を停止しました。

調査開始前 3月14日9:52 (3.8 m³/h→0 m³/h)、調査終了後 3月14日12:10 (0 m³/h→3.8 m³/h)。関連パラメータには異常がなかったとのことです。

また1号機では、耐震性向上に向けてPCVの水位を、現在の圧力抑制室(以下、S/C)底部から約8.5 m(T.P.6600)からS/Cの中央部付近(S/C底部から約4 m、T.P.2134)まで、原子炉注水の設定流量を±0.3 m³/hの範囲で調整しながら、約9か月かけて、段階的に低下させる計画が、2月29日東京電力資料「1号機原子炉格納容器の水位低下について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/02/02/3-5-2.pdf>

で明らかにされています。そして、この計画に沿って、3月26日(3.8 m³/h→3.4 m³/h)と原子炉注水量が変更されています。

(筆者にとっての謎はここからです)

しかし1号機では、S/Cに繋がっているCUW(筆者注: 重大事故時に圧力容器を除熱することにより間接的にPCVを除熱する代替補機冷却系)配管を経由したS/Cからの取水により、PCVの水位の低下を図る計画が進行していました。

『核燃料デブリの取り出し準備2024年2月レポート』

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2024/03/202402-05-debris.pdf>

の298ページ～305ページをご覧ください。

2023年12月21日の第121回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議までは、1号機PCVの水位低下はCUWを経由したS/Cからの取水により行われることになっており、1年以上にわたって準備作業が行われていました。

筆者は、2024年2月の『原子炉の状態レポート』

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2024/03/202402-01-gennshiro-02.pdf>

4ページの主な取り組みと状況で2024年2月29日1号機水位低下計画をレポートした際、水位低下<方法の変更>を見逃していました。

現在のところ、東京電力廃炉カンパニー、原子力規制委員会、廃炉等推進機構等の<方法の変更の理由>を記述した資料を探していますが、見つけられていません。

今後、<方法の変更の理由>を明らかにできた場合は『核燃料デブリの取り出し準備レポート』で報告します。

(7) 循環注水冷却スケジュール

(更新)

東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上などを目的として、循環注水冷却ラインについて様々な改修を加えています。改修工事実施時には、通常炉心スプレイ系(CS系)注水ライン・給水系(FDW系)注水ラインの2系統で行っている原子炉循環注水冷却の一方を止めることもあります。

個々の停止実績および予定については、下の循環注水スケジュール表をご覧ください。

作業内容		これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定		7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年1月	備考
循環注水冷却	循環注水冷却	(実) (注) (計画) 循環注水冷却中 (継続)									
	海水温度の7 分以降の調整	(実) (注) ：(注) 海水温度による注水設備の調整 (継続)									

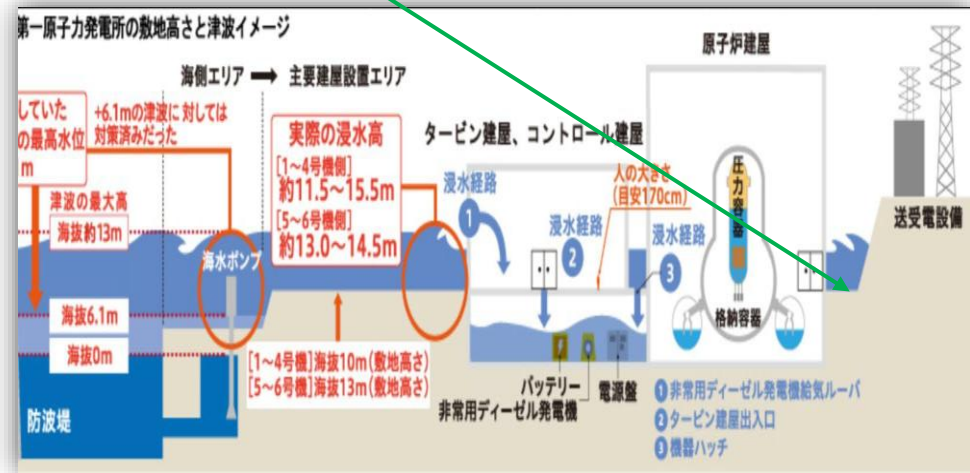
7 原子炉格納容器ガス管理設備

(1) 窒素ガス分離装置A及びBの取替及び原子炉圧力容器窒素封入ライン二重化 (特定原子力施設に係る実施計画変更認可申請)

原子炉格納容器内窒素封入設備は、水素爆発を予防するために、原子炉圧力容器内及び原子炉格納容器内に窒素を封入することで不活性雰囲気を維持することを目的として、専用のディーゼル発電機を備えない窒素ガス分離装置A・B2台を事故直後1号機近傍の10 m盤に設置・運用し、2013年には専用のディーゼル発電機を備えたCを高台に新設・運用しています。

東京電力は2017年10月6日、原子力規制委員会に対し、津波時等の信頼性向上のため、A・BをCと同様の高台に移設し、かつそれぞれに専用ディーゼル発電機を設置するという変更認可を申請しました。

(現在の原子炉格納容器内窒素封入設備配置位置)



出典：2012年12月25日東京電力「窒素ガス分離装置（C）の新設について」

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/121225/121225_01j.pdf

2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 変更認可申請書」

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12639624/www.nra.go.jp/data/000206065.pdf>

2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画変更比較表（第Ⅱ章 2.2 原子炉格納容器内窒素封入設備）」

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12639624/www.nra.go.jp/data/000206059.pdf>

概要に戻る

(2) 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について

イチエフの1～3号機の格納容器(PCV)は、窒素ガスの注入とガス管理設備による排気のバランスにより大気圧より高い圧力(PCV内の気圧)を維持し、水素濃度の上昇を抑制してきました。

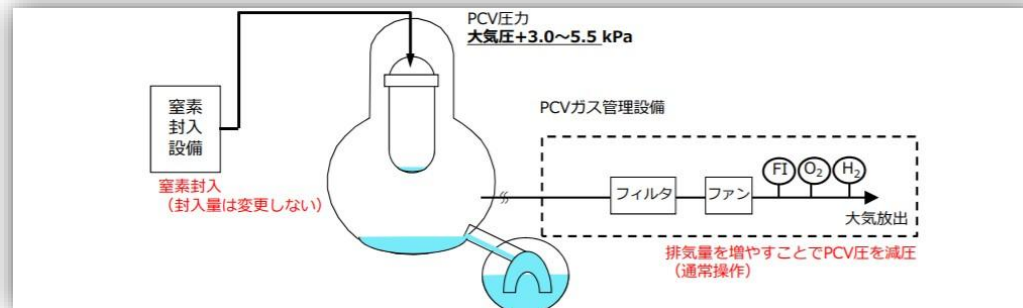
とくにメルトダウン後に1・3号機のように水素爆発を起こしてしまっていない2号機については、1号機(大気圧+1.15 kPa)、3号機(大気圧+1.15 kPa)より高い大気圧+ 3.0 kPa～5.5 kPaで運用してきました。

一方、今後、格納容器からの放射性物質の放出リスクを低減させ、また格納容器内部調査時における格納容器内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、格納容器圧力を下げていく必要があります。

現在、2号機でも水素濃度上昇のリスクは低くなっており、東京電力は、1 kPa減圧した場合でも水素濃度上昇量は0.1 %程度と低く、実施計画制限2.5 % (水素濃度管理値: 1.5 %)に至るおそれはないと推定しています。

このため、2018年7月から約半年間の予定で、減圧試験を実施し、その結果プラントパラメータやダスト濃度に有意な変動は確認されませんでした。

本試験の結果を踏まえ、2018年12月1日よりPCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～ 5.5 kPaを運用範囲とし本運用しています。



2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認に戻る

出典：2018年6月28日第55回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
「福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/07/3-5-2.pdf>

2018年12月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議 (第61回) 資料

「福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器圧力の減圧試験(STEP2)の結果について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/13/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(3) 1号機格納容器内部調査のためのアクセスルート構築のためのX-2貫通部外側の 孔あけ作業における、放射性ダスト放出リスク低減のための減圧操作について

東京電力は、2019年度上期に実施が予定されている1号機格納容器内部調査の、アクセスルート構築に際して実施する孔あけ加工機(アブレシブウォータージェット:AWJ)による作業中のダスト放出リスクをさらに低減することを目的とし、1号機の原子炉格納容器(PCV)圧力(PCV内の気圧)を大気圧と同等程度を目標に減圧する操作を実施し、その結果と今後の取り扱いについて以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り公表しました。

操作実績

- ・操作日時:2019年4月4日(木), 11日(木)
- ・対象号機:1号機
- ・PCVガス管理設備排気流量:4月 4日 約20 m³/h → 約24 m³/h
4月11日 約23 m³/h → 約26 m³/h
- ・PCV圧力 操作前:約0.7 kPa → 4月15日現在:約0.0kPa

(次ページに続く)

4月4,11日, 1号機PCV(原子炉格納容器)ガス管理設備排気流量を増加させることにより, 1号機PCVの減圧を実施した結果, 大気圧と同等程度までPCV圧力(PCV内の気圧)を減圧(約0.0-約0.1 kPa)できることを確認した(減圧操作後, 監視パラメータである酸素濃度・水素濃度に異常なし)。

一方, 4月11日の操作以降, 複数のPCV内温度計で大気圧の上昇に応じた温度上昇を確認(約0.1-約0.3℃/hで上昇が確認されたものが1本。その他は0.1℃/h未満の微小な上昇)過去にも類似事象は確認されているが, その際の温度上昇率(約0.6-約2.0℃/h)に比べ, 今回の上昇率は小さい。

減圧操作の手順は「PCV内温度が全体的に上昇傾向が継続する場合は, 排気流量を減少させる」としていたが, 大気圧の変動に対する温度計指示の上昇が落ち着く傾向が見られることから, 当面は現状の減圧状態を維持し, 温度の監視を継続することとする。但し, 念のため下記の判断基準を追加し, そのいずれかを逸脱した場合は, ガス管理設備の排気流量をPCV温度の上昇が確認されなかった4月11日の操作前(約23-約24 m³/h)を目安に減少させる等の対応をとる。

温度計指示値 50℃以下

温度上昇率 1.0℃/h以下

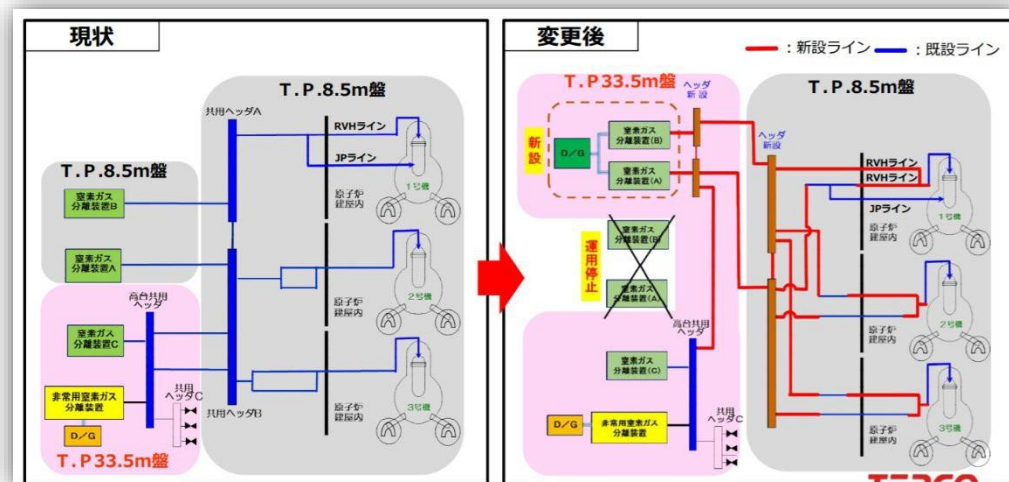
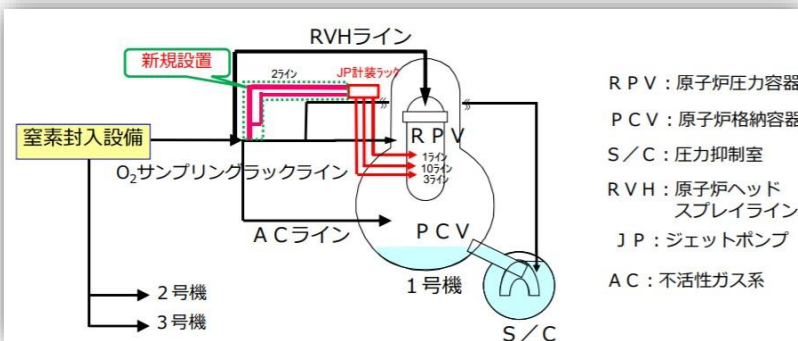
なお, 排気流量を減少させる場合には, 今回得られた減圧操作に関する知見を踏まえ, PCV温度の監視を行った上で, 圧力の調整を検討する。

(4) 新規に設置したRVHラインを用いた窒素封入設備の通気試験

「[原子炉格納容器ガス管理設備](#)」ページでレポートした通り、窒素封入設備のうちA、Bは、震災直後にT.P.8.5m盤に設置した設備であるため、東京電力は、津波対策としてT.P.33.5m盤の高台へ移し、同時に、窒素ガス分離装置AおよびBを取替え（2019年3月現在、装置本体を収納したコンテナ、発電設備、電気計装品コンテナ等を設置済み）、並びに非常用電源を多重化するため専用ディーゼル発電機を新設します。

合わせて信頼性向上のため、1～3号機原子炉圧力容器(RPV)封入ラインを二重化します。新設装置への切り替えは、原子炉への窒素封入に影響がないように既設装置を流用しながら実施することとしています。

2019年6月、1号機において、2系統の窒素封入ラインのうち、新たに設置したRVHラインを用いた窒素封入設備の通気試験を実施しています。通気試験における新設RVHラインおよび既設JPラインそれぞれの窒素封入量の変更量については出典3をご覧ください。



窒素ガス分離装置(B)のLCO逸脱に戻る

出典：2019年8月24日東京電力

「原子炉格納容器内窒素封入設備 1～3号機原子炉圧力容器封入ライン二重化及び窒素ガス分離装置A、B取替工事について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-5.pdf>

2019年3月26日福島県「福島第一原子力発電所現地確認報告書」
<https://web.archive.org/web/20191020185614/http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/330661.pdf>

2019年6月東京電力「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」
https://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1515154_8985.html

概要に戻る

(5) 1～3号機窒素封入設備他取替工事におけるインシデント

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した下記出典資料「1～3号機窒素封入設備他取替工事について」を開いたところ、5ページに

工事期間中に発生した不適合事象※の対策として、系統全ての弁について銘板の照合およびラインの識別表の取付を実施した。

という記述があったため、このことも含め、この工事計画についてレポートします。

東京電力は、窒素封入設備について、信頼性向上対策として原子炉圧力容器(RPV)窒素封入ラインの二重化工事を実施しました。

ところが、2019年8月、2号機の既設RPV封入ラインから新設RPV封入ラインへの切替を実施中、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止しました。

原因は、操作対象弁の弁銘板に取付間違いがあり(次ページ画像参照)、弁操作により窒素封入ラインが閉塞されたためでした。

その後、弁状態を復旧し、窒素封入が再開されました。

(次ページに続く)

2019年8月のトラブル

このときのトラブルは、2個の弁の表示が入替わっていて違う弁を閉じてしまったものです。

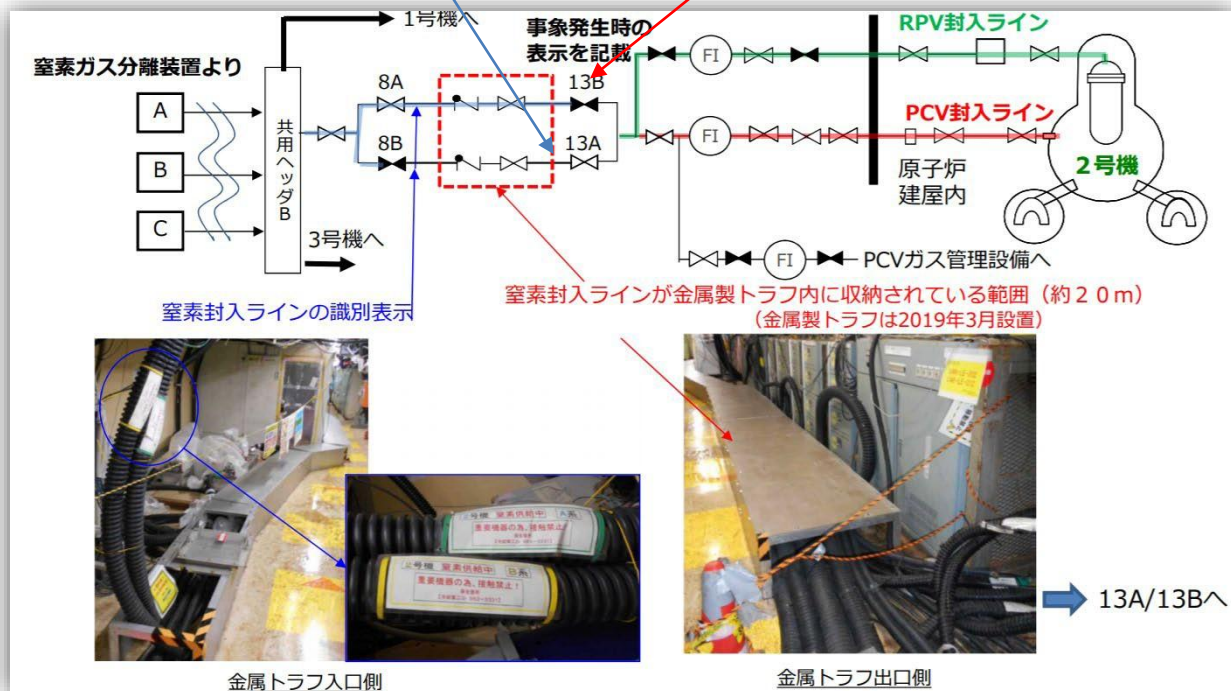
下図の下のラインの13Aと表示された弁(本来は13B)を閉めようとしたが、上のラインの「13B」と表示されていた弁を閉めてしまったため、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止してしまいました。

弁銘板の取付間違いの原因について、東京電力は、

取り付け時期が震災当初であり、ラインや弁の敷設状況が識別するには、高線量環境化で確認する時間が取れ難く、ラインが輻輳している状況であったため、間違って取り付けた

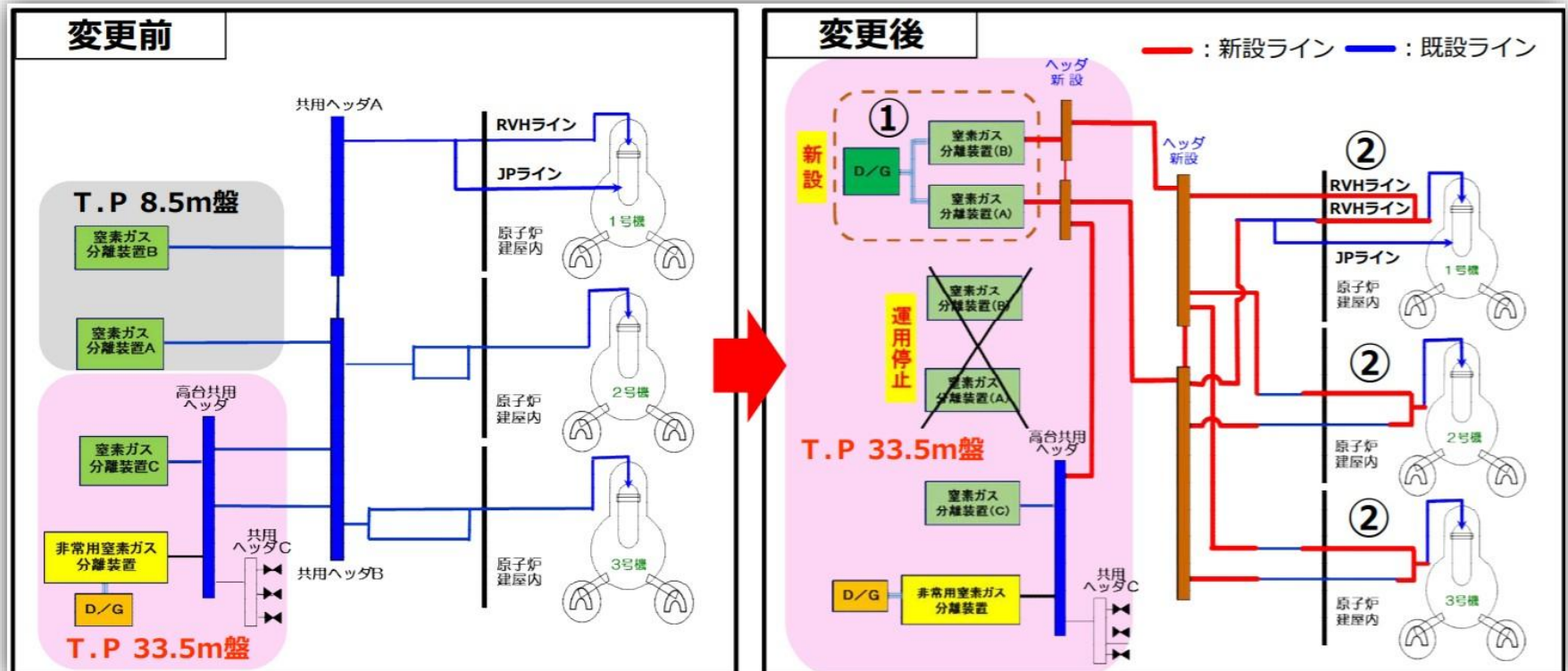
と推測しています。

(次ページに続く)



その後、当該弁13A/Bの弁銘板の間違ひは修正されました。

東京電力は、2020年2月現在、原子炉压力容器(RPV)窒素封入ラインは二重化され、既に行われているT.P 33.5 m盤での窒素ガス分離装置A及びBの取替並びに専用ディーゼル発電機の新設、免震重要棟からの遠隔起動化と併せ、「現在、窒素封入設備は信頼性向上工事が完了し、安定運転を継続中」としています。



(6) 窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更

東京電力は、2019年12月20日に予定し延期されていた、窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更については、以下のとおり実施したと発表しました。各ラインの概要は下図をご参照ください。

[1号機窒素封入量変更実績]

(試験開始 1月30日午前10時12分)

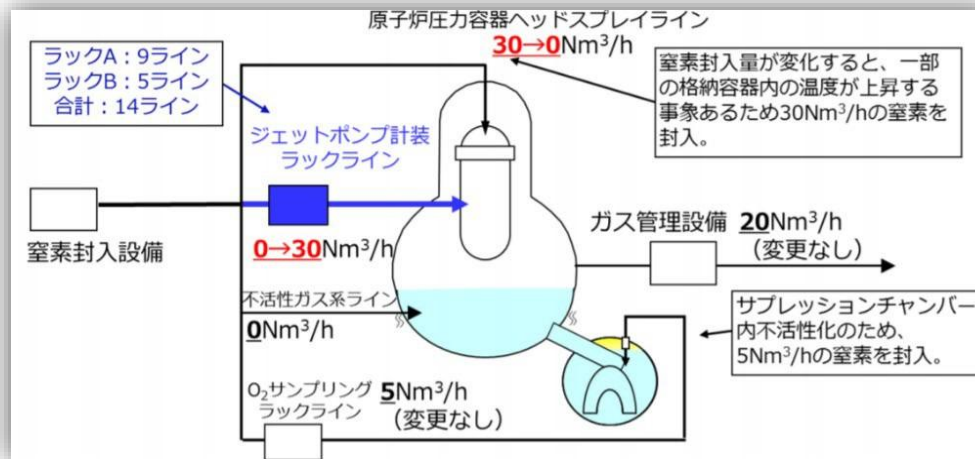
原子炉圧力容器ヘッドスプレイライン: 15 Nm³/h → 30～15 Nm³/h

ジェットポンプ計装ラックライン : 15 Nm³/h → 0～15 Nm³/h

(試験終了 1月30日午後1時50分)

原子炉圧力容器ヘッドスプレイライン: 30～15 Nm³/h → 15 Nm³/h

ジェットポンプ計装ラックライン : 0～15 Nm³/h → 15 Nm³/h



出典：2020年1月30日 東京電力ホームページ「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

http://www.tepco.co.jp/press/report/2020/1527975_8987.html

2017年5月25日 東京電力資料「循環注水冷却スケジュール」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2017/d170525_10-j.pdf

概要に戻る

(7) a 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について

東京電力によると、窒素ガス分離装置B [参照](#) に関し、下記のようなLCO(実施計画に定められた運転上の制限)逸脱が生じたとのことです。(下線は筆者)

4月24日、窒素ガス分離装置の運転をB/CからA/Cへ切替を実施したところ、停止した窒素ガス分離装置Bについて、免震棟集中監視室の監視画面において③出口流量の指示値が減少しないことを確認した。その後の調査において、現場操作盤で警報(4月21日2:14発報)が発生していることを当直員が確認。また、その他の関連パラメータを確認したところ、4月21日以降窒素ガス分離装置Bの ①窒素濃度及び ③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていることを確認した。

当直長は、上記のことから、実施計画で要求される事項(「封入する窒素の濃度が99 %以上であることを毎日1回確認する」)を行うことができていなかったとし、4月24日13:40に「運転上の制限逸脱」を判断した。

なお、窒素ガス分離装置Bの窒素供給の停止を現場の ③出口流量の指示値(0 Nm³/h)で確認、またA/C運転時のパラメータ(窒素濃度、出口流量等)に異常がないことを確認し、当直長は「運転上の制限逸脱からの復帰」を同時刻13:40に判断した。

4月21日以降、PCV(筆者注:原子炉格納容器)内の水素濃度等の監視パラメータに異常は確認されていない。

窒素ガス分離装置Bの状態について、東京電力は、窒素ガス分離装置B本体のパッケージ内部に黒色の粉が広範囲に飛散し堆積しており、この黒色の粉は、装置内の活性炭槽または吸着槽に充填していた活性炭が細粒化されサイレンサから排気されたもので(装置内の他の部分に漏えいの跡がない)、これが、パッケージ内部に設置しているコントローラに流入し、コントローラが故障したことで、「電源異常」の発報に至った可能性があるとしています。

そして今後の対応として、下記の事項を挙げています。

運転継続中の窒素ガス分離装置A／Cについて、以下のとおり監視強化を実施(4月24日より実施中)

(1)現場運転状況確認

- ・現場巡視点検を1回以上／日にて実施
- ・運転状態、現場盤での警報発生の有無および、装置本体内部の異常の有無を確認

(2)免震棟集中監視室パラメータ確認

- ・運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施
- ・運転状況の傾向変化についても確認

(表示させるトレンドグラフは、指示値の変動が確認できるように表示スパンを拡大化)

確認対象パラメータは、窒素封入圧力、窒素封入流量、窒素ガス発生装置出口流量および窒素/酸素濃度

設備

窒素ガス分離装置B

構外に搬出し、損傷原因の調査及び点検を行う予定。なお、復旧については、設備の状態を確認したうえで検討。

窒素ガス分離装置A

B号機と同一製品であり、同様な事象が発生する可能性も否定出来ないことから、応急対策を検討中(サイレンサの排気口の屋外化等)。また、運転中のA号機に異常は確認されていないが、C号機のみでも1～3号機の窒素封入量の十分な確保が可能であり、安定的に窒素供給できることから待機号機とする。

※C号機が停止した場合、速やかにA号機を起動する。PCV内の水素濃度の制限に到達するまで時間的余裕があり、PCVへの窒素封入機能に影響はない。

(次ページに続く)

監視警報

現場警報が免震棟集中監視室に発報されなかったことについては、免震棟集中監視室でも検知できるように見直しを検討中。

この運転上の制限逸脱事象で気になることは、4月21日に窒素ガス分離装置B現場操作盤で警報が発生しており、また4月21日以降、窒素ガス分離装置Bの①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていたにもかかわらず、窒素ガス分離装置(B)またはそのコントローラの異常が認知されたのが4月24日だということです。

東京電力は、今後の対応において、警報の認知については「現場巡視点検を1回以上／日にて実施」とし、パラメータの異常の認知については、免震棟集中監視室において「運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施」としているわけですが、逆に言うと、これまで警報の発生やパラメータの状態が常時モニターされているわけではなかったということになります。

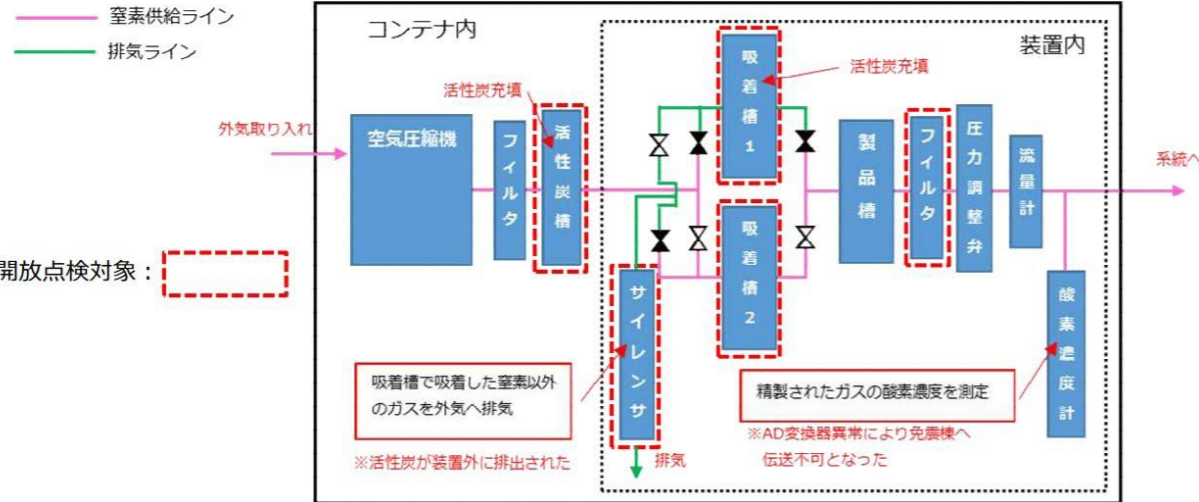
窒素ガス分離装置のT.P.33.5 m盤の高台へ移転、および分離装置A 及びBの取替えは2019年のことであり、このときに上記のような対応がとれなかったものかと思われます。

(次ページに続く)

b 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報)

(窒素分離封入ライン)

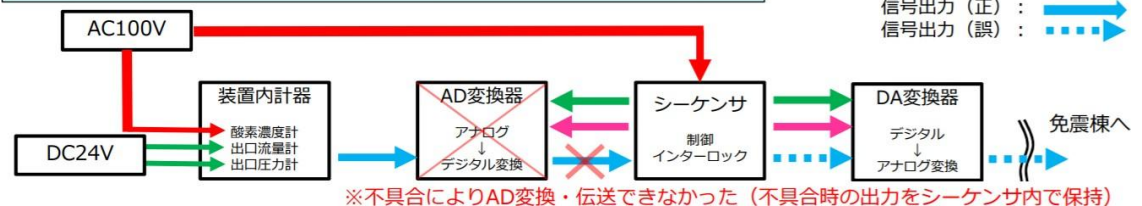
※吸着槽1と2の切替運転(吸着⇔再生)により連続的に窒素供給を行う。



(次ページに続く)

(パラメータ伝送ライン)

当該警報が免震棟集中監視室に発報されない理由
窒素ガス分離装置の運転停止に関わる警報について、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた為、当該警報は免震棟集中監視室に伝送されなかった。



出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第78回) 資料
「窒素ガス分離装置(B)指示不良に関する不具合の原因と対策について
(窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報))」

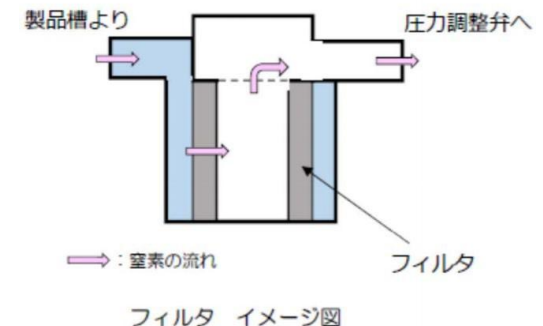
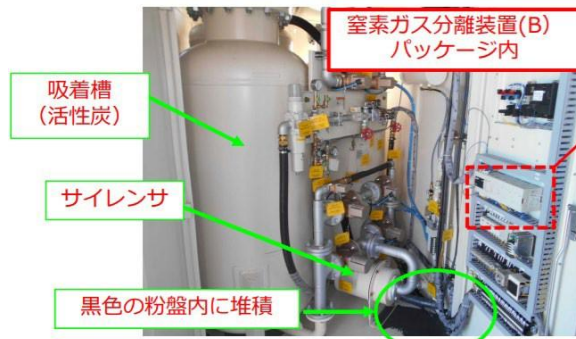
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

概要に戻る

東京電力の発表による、4月21日～4月24日に窒素ガス分離装置(B)に関連して起きた現象は以下の通りです。

- 1、4月21日以降、窒素ガス分離装置(B) の①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていた。
- 2、AD変換器の不具合発生と同時に「FX3U-4AD電源異常」警報が(4月21日2:14発報)が発生していた。
- 3、AD変換器のDC24V電源ランプが消灯していた。
- 4、窒素ガス分離装置(B)本体のパッケージ内部に黒色の粉が飛散し堆積していた。
- 5、装置内の流路を構成する配管・機器の継手部に漏えいの痕跡がなかった。
- 6、AD変換器内のヒューズが開放していた。
- 7、AD変換器上面のスリット部に黒色の粉が堆積されていた。
- 8、吸着槽1の活性炭が減少・細粒化していた。
- 9、出口フィルタの外側に活性炭が付着、内側には付着していなかった。

(次ページに続く)



出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第78回） 資料
「窒素ガス分離装置（B）指示不良に関する不具合の原因と対策について
（窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について（続報）」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

概要に戻る

そして以上の現象から、事象の原因を以下のように推定しています。

- ① 当該装置の吸着槽1内に充填されていた活性炭が細粒化し、吸着槽の下流側にある装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。
- ② 飛散した活性炭が当該装置内のAD変換器のスリットから内部に混入したことにより、回路が短絡したことでヒューズが開放し、回路への電源供給が絶たれたため、AD変換の機能が喪失した。AD変換器の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号がシーケンサに保持された状態となったため、免震棟集中監視室に伝送される指示値が一定になったと考えられる。
- ③ また、AD変換器の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。

さらに、窒素分離封入ラインへの影響を以下のように推定しています。

- (1)確認された活性炭はフィルタにより捕集され、フィルタより下流には流入していないことから、窒素封入系統への影響はなかったと考えられる。
- (2)再現性試験において、装置内酸素濃度計の指示値「0.0%」(窒素濃度100.0%)が確認されたことから、不具合が確認された4月21日から24日の運転期間において、原子炉格納容器へ封入する窒素濃度は99%以上を満足していた状態であり、原子炉格納容器内の不活性雰囲気維持機能は確保されていたと考えられる。

つまり、4月21日から24日までの間、窒素ガス分離装置(B)が機能を維持していたかどうかは、リアルタイムのパラメータがAD変換器の故障により実態を示さなくなったパラメータを含んでいるため、事後の再現性試験による機能確認によって、「原子炉格納容器内の不活性雰囲気維持機能は確保されていたと考えられる」と、間接的な推定しかできないようです。 [続報2](#)に戻る

c 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について (続報2)

2020年7月、東京電力は、これまでレポートしてきた不具合を生じた窒素ガス分離装置(B) **参照** について、下記の点検と対策を実施したことから、窒素ガス分離装置(B)の運転を7月13日再開したと発表しました。(次ページに画像掲載)

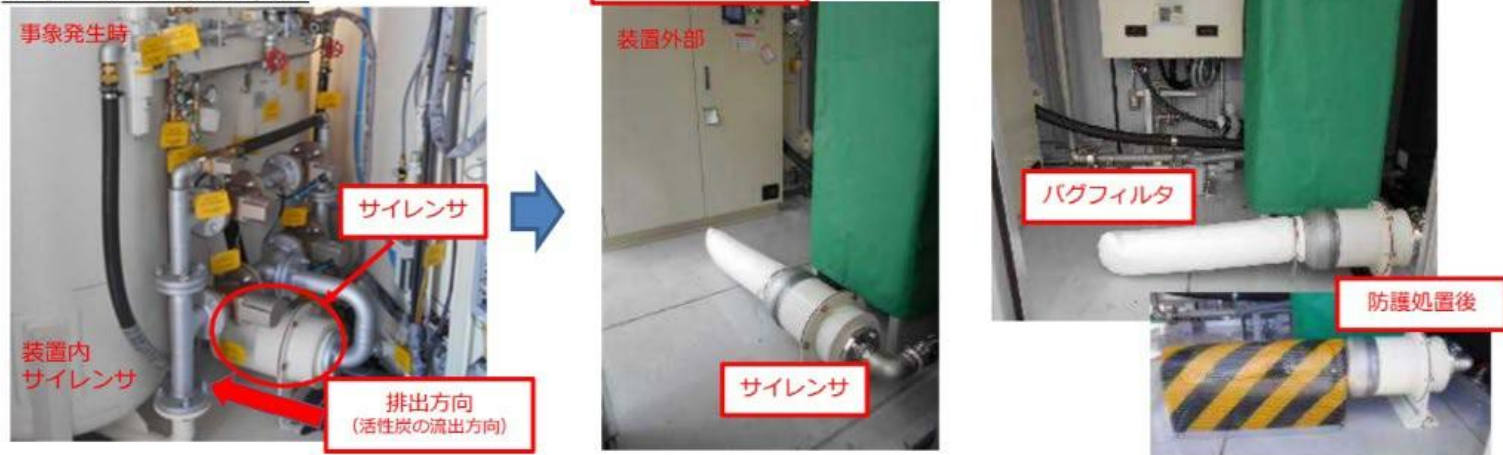
原因	対策	状況
吸着槽の活性炭流出 吸着槽 1 内に充填されていた活性炭が細粒化し、装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。	活性炭の 細粒化 が起きないように吸着槽の 緊密化 を行う。 ⇒活性炭の充填高さが変わらなくなるまで、活性炭の充填高さの確認と補充を繰り返し実施する。	窒素ガス分離装置(B)について実施済
活性炭の混入による制御装置の不具合 飛散した活性炭が当該装置内の制御装置内部に混入したことにより、制御装置の機能が喪失した(回路短絡による電源供給喪失)。 ↓ 制御装置の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号が保持された状態となり、免震棟監視室に伝送される指示値が一定になった。	活性炭細粒化の可能性を完全には否定できないことから、 サイレンサの排気を窒素ガス分離装置の外部に排出 できるよう改造を行う。 (A号機についてもB号機と同一製品であることから同様な対策を実施する)	- 窒素ガス分離装置(B)について実施済 - 同型機である窒素ガス分離装置(A)はB号機運転開始後、実施予定 (C号機は設計が異なり、屋外に排気される)
現場警報が免震棟に発報されなかった 制御装置の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。 (窒素ガス分離装置の警報のうち、運転停止に関わるものについて、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた)	今回の事象を踏まえ窒素ガス分離装置の現場警報について、 免震棟監視室に発報されるよう改造 を行う。	- 窒素ガス分離装置(B)について実施済 - 窒素ガス分離装置(A/C)はB号機運転開始後、実施予定。

- 不具合のあった制御装置について交換を実施。
- 不具合が確認された制御装置以外について、異常は確認されていないが飛散した活性炭の影響が懸念されることから、点検や部品の交換等を実施済。

吸着槽 1 の活性炭の充填状況



サイレンサの設置状況



3

(8) a 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について

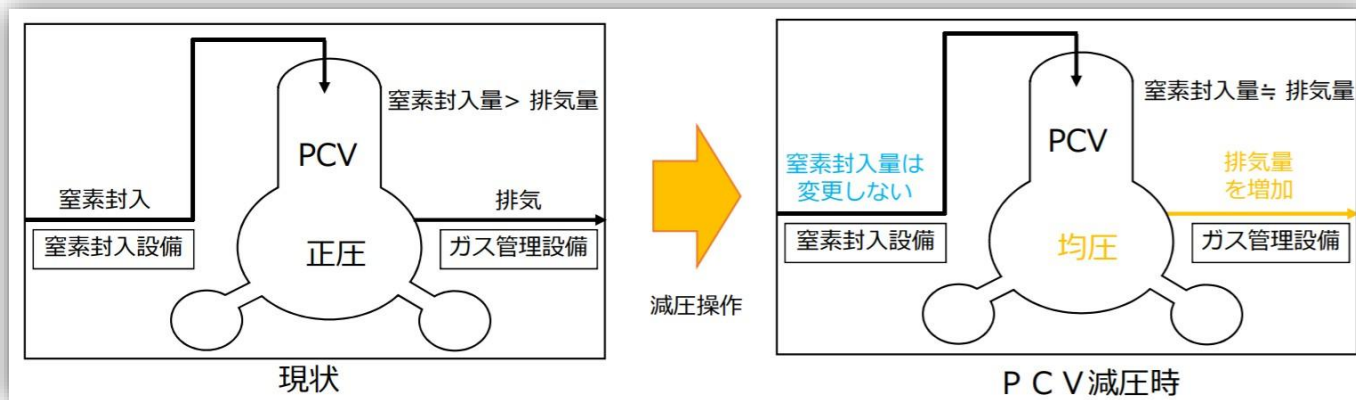
東京電力は2020年7月2日、2021年に予定している2号機での核燃料デブリの試験的取り出し(PCV内部調査)に向け、PCV外への放射性ダストの漏出抑制を目的として、PCVを減圧することを検討していることを発表しました。

東京電力は、イチエフの1～3号機原子炉において、PCV内の減圧により外部への放射性物質の放出リスクを低減させ、またPCV内部調査時におけるPCV内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、2018年7月からの減圧試験を経て、12月1日より、PCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～ 5.5 kPaを運用範囲として運用してきました。 参照

ちなみに2020年7月1日の原子炉格納容器圧力は、1号機0.16 kPa g、2号機2.55 kPa g、3号機0.41 kPa gとなっています。

今回は、2020年7月6日～10日に、現状値から大気との均圧まで減圧することを目標として、既設ガス管理設備のフィルタを介した排気量を増加させることで、減圧機能の確認をするということです。

東京電力は、2012年以降、PCV圧力低下と共に一定期間水素濃度の上昇・下降がみられたこと、低気圧通過等によりPCVが負圧となった場合の酸素濃度の上昇評価、2018年度にPCV圧力の調整を約4.25 kPaから約2 kPaに変更した際は、水素濃度等の監視パラメータに有意な変動は確認されていないことなどに留意しつつ減圧計画を進めるようです。



出典：2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回） 資料「2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/3-3-4.pdf>

2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回） 資料「福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/1-1.pdf>

概要に戻る

b 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の結果について

2020年7月30日、東京電力は、2号機原子炉格納容器の減圧機能確認(前ページ参照)について、7/6～7/8に機能確認を実施し、7/9に復旧。減圧機能確認中、下表の監視パラメータに異常がないことを確認したと発表しました。

監視 パラメータ	監視頻度		監視目的	機能確認試験継続の判断基準
	通常時	監視 確認時		
窒素封入量	6時間	毎時	・ガス管理設備の運転状態変化に伴う、系統・機器の異常がないことを確認	・通常の変動範囲 ($\pm 1 \text{ Nm}^3/\text{h}$ 程度)であること (封入量の異常検知)
排気流量				・通常の変動範囲 ($\pm 2 \text{ Nm}^3/\text{h}$ 程度)であること (排気流量の異常検知)
PCV圧力			・PCV圧力の過度な変動等が生じないことを確認	・ $\pm 5.5 \text{ kPa}$ であること
水素濃度※			・PCVの不活性状態維持 (可燃限界未滿に抑えること)	・警報設定値 (0.6%)
酸素濃度				・3.5%以下であること
ダスト濃度	毎時	毎時	・PCV圧力の変化に伴う排気に有意な変動が生じないことを確認。	・警報設定値 ($2.0 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$)
大気圧			・PCV圧力変動の参考として監視。	・なし

※運転上の制限に関わる監視項目として、水素濃度(PCV内 2.5%未滿, ガス管理設備出口を1%未滿で管理)があり、減圧によるPCV内部状況の変化は小さく、影響は限定的と想定。

(9) 2号機新設原子炉压力容器(RPV)窒素封入ライン通気確認について

東京電力は、2号機原子炉压力容器窒素封入点は、単一構成となっているため、窒素封入ラインの信頼性向上としてRPV窒素封入ラインの追加設置を計画しています。

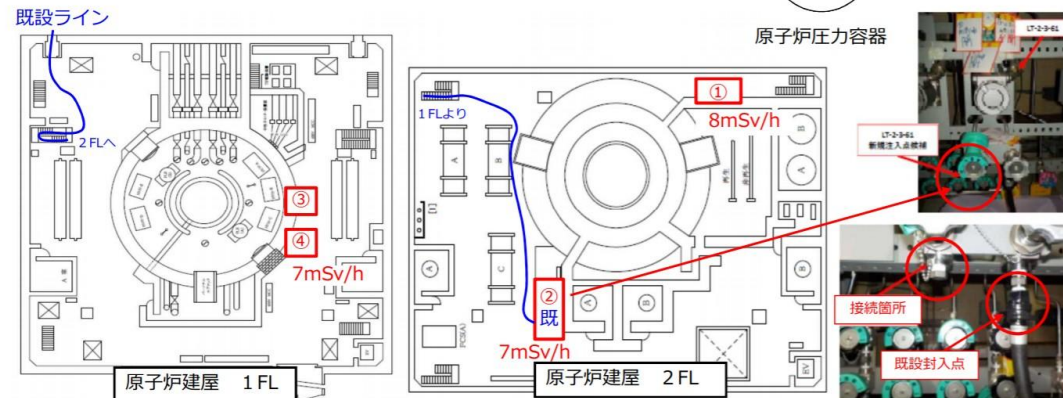
この計画に向けて、2020年8月31日～9月4日にかけて、窒素封入の通気性・保守性等を考慮した追加設置ラインの選定のため、新規封入点の候補となるライン(4ライン)の通気確認を行います。

なお、通気確認は既設のRPV窒素封入量及び原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備排気流量は変化させずに実施するそうです。

2. 調査対象（新規封入候補点配置図）

新規封入点RPVからPCVへの窒素の拡散性や作業性等を考慮して、右図の4箇所のノズルにつながる計装ラック選定。これらについて、通気確認を行う。

- ① 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）【N11B】
- ② 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）【N11A】
- ③ 主蒸気計装ラック【N3D】
- ④ ジェットポンプ計装ラック【N8B】
- ※既設 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）



出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第81回） 資料
「2号機新設RPV窒素封入ライン通気確認について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-3.pdf>

概要に戻る

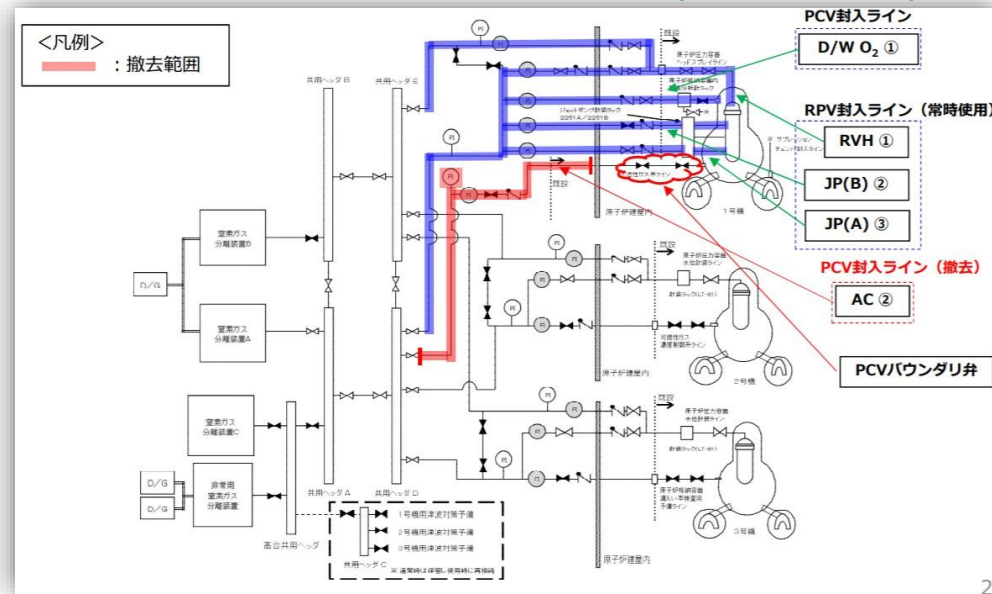
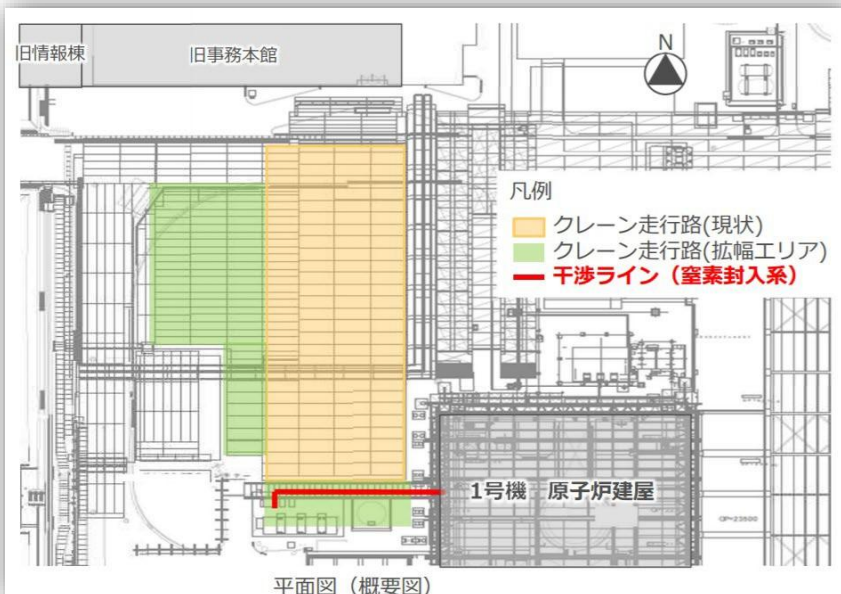
(10) 1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)撤去について

1号機原子炉建屋は、現行ロードマップでは2027年に開始される予定の使用済み核燃料プールからの使用済み核燃料の取り出しについて、2019年12月、ダスト飛散対策の信頼性向上の観点から2023年中に大型建屋カバーを再設置する工法に変更しています。

東京電力は、大型カバー設置に向けて、使用する大型クレーンの走行路の拡幅(ヤード整備)を計画し、この拡幅の妨げになる1号機原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)を撤去する計画を発表しました(下左図参照)。
今回撤去するのは、予備封入ラインの一つである不活性ガス系封入ライン(AC系)ですが、原子炉格納容器への窒素封入機能は、他のラインにより維持されます(下右図参照)。

配管切断および閉止作業は準備も含め、2020年11月17日～27日に行われる計画です。

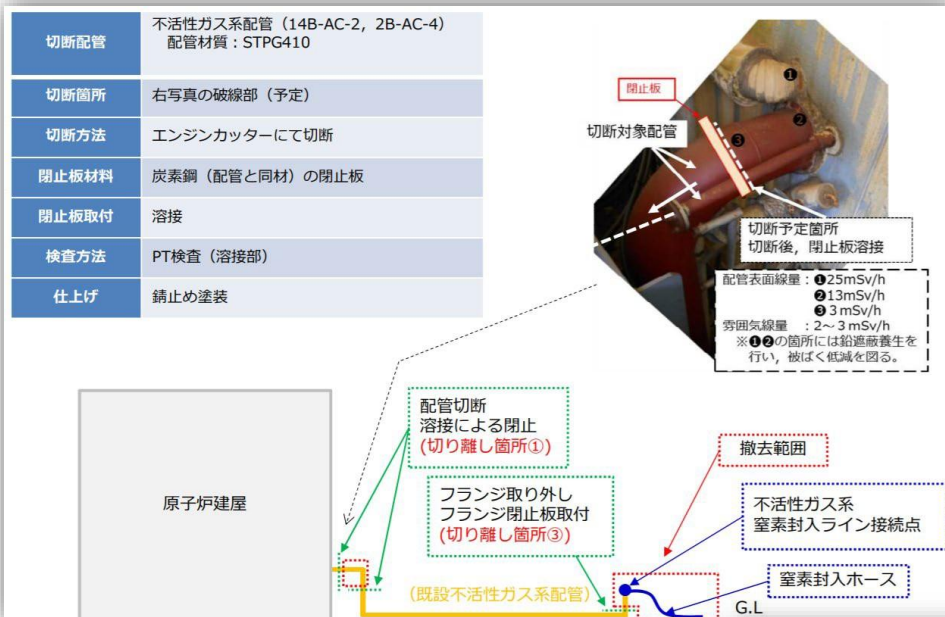
(次ページに続く)



出典：2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第84回）資料
「福島第一原子力発電所 1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)撤去について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る



リスク	対応
弁のバウンダリ機能喪失 - PCVからの逆流 (PCV圧力の低下) - 水素の滞留	配管内圧の確認 - 撤去対象ラインの空きフランジに仮設圧力計を取付け、配管内の圧力を確認した。N2封入時の圧力 (11.3kPa) が確認されたことから弁のバウンダリ機能は正常。PCVからの逆流はなく、配管内に水素の滞留はないと推定。 ※配管内圧確認時のPCV圧力: 約0.10kPa - 念のため、配管内圧開放後、配管切断前に小口径の穴を開けて水素濃度を測定してから切断作業を開始する。
ダストの拡散	配管内包気体の汚染確認 - 配管内に残圧があることから、切り離し前に空きフランジにフィルタを取付けた仮設ラインを設け、フィルタを通して圧抜きを実施する。また、フィルタの線量を測定し、汚染の有無を確認する。(合わせて水素濃度・PCV圧力の挙動も確認する) 配管切断時ダスト拡散対策 - 仮設ハウス及び局所排風機・フィルタを設置し、環境へのダスト拡散防止対策を実施する。

出典: 2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第84回) 資料
「福島第一原子力発電所 1 号機 原子炉格納容器窒素封入ライン (不活性ガス系) 撤去について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(更新)

[概要に戻る](#)

8 東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(1)

3号機の温度計ケーブルに溶断が見つかっています。

2017年11月の「核燃料デブリの取り出し準備」レポート88・89ページでレポートしたとおり、3号機格納容器内部調査により、これまで3号機原子炉圧力容器底部の温度を測っていたとされていた温度計12本(このうち3本は「実施計画」において運転上の制限からの逸脱を監視するために用いられていた)のケーブルが溶断していたことが明らかになり、11月30日、東京電力はこれらの温度計を故障と判断し、原子力規制委員会にもその旨報告しました。

しかしこれらの温度計は11月まで故障とはされておらず、原子力規制委員会に11月に提出した温度計の信頼性評価の報告書においても、「監視に使用可」と評価されていました(下記出典3の9ページ、TE-2-3-69L1からL3の3本)。

また、東京電力のホームページ上の「プラント関連パラメータ(水位・圧力・温度など)」においても11月29日分までは、これらの温度計で測定したとされる温度が原子炉圧力容器底部の温度として公表されていました。

出典：1F-Watcher「月例レポート 2017年11月燃料デブリの取り出し準備」
<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2017/12/201711-05-debris4.pdf>

2017年11月30日東京電力資料

「福島第一原子力発電所3号機原子炉格納容器(PCV)内部調査における一部の原子炉圧力容器(RPV)温度計ケーブル欠損について」
http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2017/images2/handouts_171130_03-j.pdf

2017年12月1日東京電力 原子力規制委員会提出資料

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について(平成29年12月提出)」

<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171201j0201.pdf>

2017年11月1日東京電力 原子力規制委員会提出資料

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について(平成29年11月提出)」

<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171101j0201.pdf>

東京電力ホームページ「プラント関連パラメータ(水位・圧力・温度など)」

<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/pla/index-j.html>

概要に戻る

東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(2)

このことについて、12月18日の東京電力原子力定例記者会見において、木元原子力立地本部長代理は、目視できない原子炉内の温度計の健全性を確認する方法は、現在のところ、温度計に直流電気を流しその抵抗値を測定する(故障していれば抵抗値は無限大になる)方法しかないが、今回故障と判断した12本の温度計について12月13日に改めて測定したところでも、抵抗値は前回測定した値と同等の値を示していた。現在はこれらの温度計が示すデータが何を表しているかについてそれ以上の知見はないと語っています(出典の動画の26分過ぎから36分過ぎまで)。

原子炉の状態そのものについては、木元氏が語る通り、他の温度計・ガス管理システム等、他のパラメータから、冷温停止状態にあることは間違いないところではあると思われます。

しかし、これまで毎月、信頼性を確認したとし、公表してきたデータが、東京電力自身が今回故障していたと判断した温度計で測定したデータであったことは、東京電力が公表してきたデータの信頼性を損なうものです。

温度計のケーブルの溶断という事実と、それにもかかわらずデータが採れてしまっていることの機序を明らかにするとともに、温度計の信頼性を確認する方法を再検討し、データの信頼性を回復することが東京電力に求められます。

9 原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察

東京電力は、2018年10月25日、第59回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議において提出した下記出典資料
「廃炉・汚染水対策の概要」

の

4ページ「2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出」

において、

1～4 号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空气中放射性物質濃度は、
Cs-134 約 1.4×10^{-11} ベクレル/cm³ 及び Cs-137 約 1.1×10^{-10} ベクレル/cm³ と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.0011 mSv/年未満と評価。(筆者注: 評価値は【放出量＝放射性物質濃度×排気風量】を基本とする評価式に各種データ、パラメータを代入して計算した推定値)

と発表しました。

9月の敷地境界における空气中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値について、8月の評価値からの増加を見てみましょう。

	(8 月)	→	(9 月)
Cs-134(単位ベクレル/cm ³)	5.4×10^{-12}	→	1.4×10^{-11}
Cs-137(単位ベクレル/cm ³)	3.1×10^{-11}	→	1.1×10^{-10}
被ばく線量	0.00045 mSv/年未満	→	0.0011 mSv/年未満

そして、このことについて、

- ・2018 年 9 月の評価上の放出量は、放出管理の目標値(筆者注:1 mSv/y)を十分下回ったが、前月と比較すると増加。
- ・これは 2号機原子炉建屋オペフロ残置物撤去作業に伴い、オペフロ内の空気中放射性物質濃度が上昇したこととで、**評価上の放出量が増加したもの**

と解説し、さらに

- ・(筆者注:評価のための式は)過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。
 - ・また、当該作業中の 2 号機原子炉建屋開口部近傍(西側構台)のダストモニタならびにモニタリングポストには有意な変動はなく、周辺への影響はない。
 - ・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10 月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。
- また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

と説明を加えています。

なお、この記述は、同回の会議だけに提出された資料

「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年9月分(放出量評価の補足)」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-4.pdf>

をまとめたもののようです。

ここでは、**前ページ**での東京電力の説明のうち、

・(補注:評価のための式は)過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。

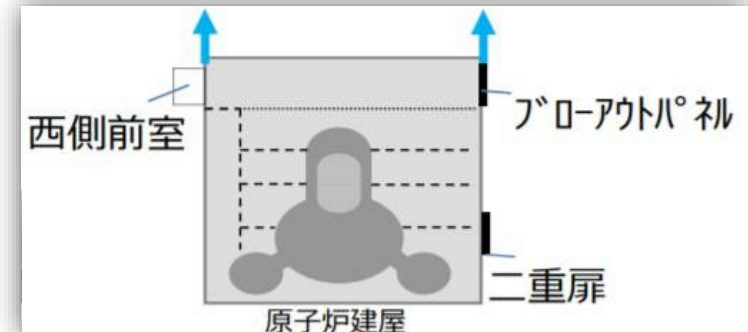
・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10 月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。

また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

という部分の、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少するかどうかということについて、東京電力が発表した8～10月の2号機オペレーティングフロア作業時の放射性ダスト濃度と原子炉建屋の開口の隙間及びブローアウトパネルの隙間(下図参照⇒2019年1月17日に福島第一廃炉カンパニーの社員の方に確認したところ、下図のブルーの矢印の向きは、左側が西側前室の開口の隙間からの放出を、右側が元のブローアウトパネル部からのフィルターを備えた排気設備への放出を示しているそうです)の評価放出量のデータを検討します。

まずこれらの数値をプロットした次ページのグラフをご覧ください。

2. 開口の隙間及びブローアウトパネルの隙間



原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果 (2018年8月)

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-6-3.pdf>

原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果 (2018年9月)

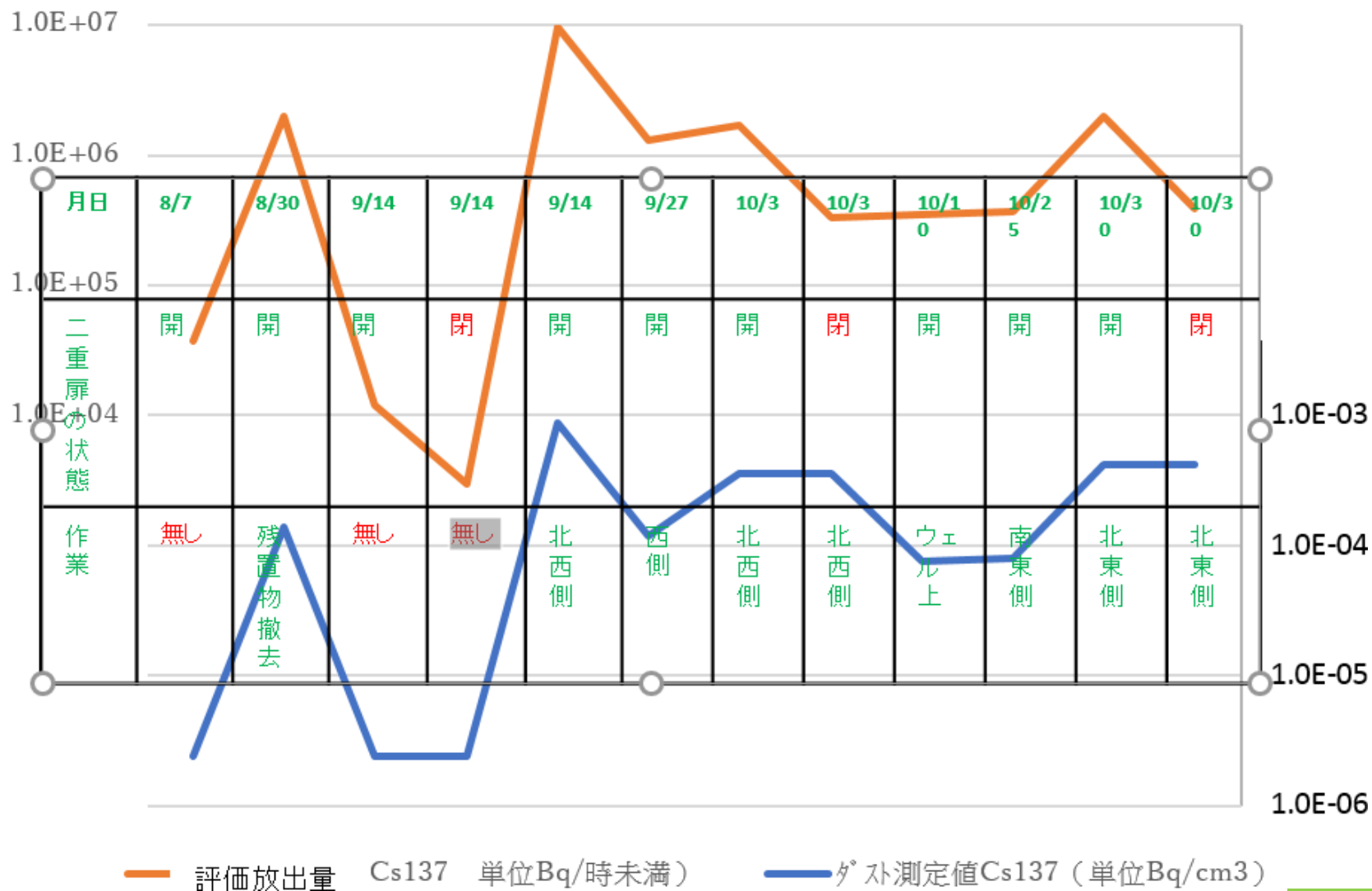
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-3.pdf>

1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年10月評価分 (詳細データ)

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/12/3-6-3-2.pdf>

概要に戻る

ダスト測定値、パラメーターおよび評価放出量との関係



グラフの青い折れ線は測定されたダスト濃度、オレンジ色の折れ線は評価放出量です。

重ね合わせた3段12列の表は上から、ダスト濃度が測定された日時、開口部である二重扉（前々ページの下右図をご覧ください）の開閉状態、オペレーティングフロア上での作業の有無です。

この問題では、

左から3列目（9/14、二重扉は開いている、作業はなかった）と4列目（9/14、**二重扉は閉じている**、作業はなかった）、7列目（10/3、二重扉は開いている、北西側作業）と8列目（10/3、**二重扉は閉じている**、北西側作業）、11列目（10/30、二重扉は開いている、北東側作業）と12列目（10/30、**二重扉は閉じている**、北東側作業）をご覧ください。

いずれも、測定されたダスト濃度は変わらないにもかかわらず、二重扉を閉めることで評価放出量は減少しています。前々ページに示した東京電力の説明、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少するということは確かなようです。

なお、2018年10月のレポート以来考察してきた、2号機オペレーティングフロア上での残置物撤去作業にともなう敷地境界における空气中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値の上昇についての、東京電力の「**評価上の放出量が増加した**」という表現の妥当性については、「使用済み核燃料プール対策レポート」で考察しています。

10 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報

(更新)

- 8月1日 [窒素ガス分離装置\(C\)の停止について](#)
- 8月1日 [窒素ガス分離装置\(C\)の停止について\(続報\)](#)
- 8月1日 [窒素ガス分離装置\(C\)の停止について\(続報2\)](#)
- 8月5日 (不適合の公表CAQ低以上) [窒素ガス分離装置\(A\)\(C\)の自動停止について](#)
- 8月7日 (不適合の公表CAQ低以上) [伐採木一時保管エリア付近の交差点における架空線切断について](#)
- 8月8日 [5/6号サービス建屋3,4階の火災報知器作動について](#)
- 8月8日 [5/6号サービス建屋3,4階の火災報知器作動について\(続報\)](#)
- 8月12日 [6号機高圧炉心スプレイ系 非常用ディーゼル発電機室における火災警報の発報について](#)
- 8月12日 [6号機高圧炉心スプレイ系 非常用ディーゼル発電機室における火災警報の発報について\(続報\)](#)
- 8月13日 [免震重要棟火報盤における火災警報の発報について](#)
- 8月13日 [免震重要棟火報盤における火災警報の発報について\(続報\)](#)
- 8月15日 [5号機タービン建屋南西側階段室で火災警報の作動について](#)
- 8月15日 [5号機タービン建屋南西側階段室で火災警報の作動について\(続報\)](#)
- 8月18日 [5号機タービン建屋地下1階オフガスコンデンサ室周りにおける火災警報の発報について](#)
- 8月18日 [5号機タービン建屋地下1階オフガスコンデンサ室周りにおける火災警報の発報について\(続報\)](#)

(次ページに続く)

概要に戻る

10 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報

(更新)

- 8月20日 [サイトバンカ建屋における負傷者発生について](#)
- 8月20日 [サイトバンカ建屋における負傷者発生について\(続報\)](#)
- 8月21日 [入退域管理棟1階の火災警報発報について](#)
- 8月21日 [入退域管理棟1階の火災警報発報について\(続報\)](#)
- 8月21日 [固体廃棄物貯蔵庫第10号棟\(C棟\)における火災報知器の作動について](#)
- 8月22日 [固体廃棄物貯蔵庫第10号棟\(C棟\)における火災報知器の作動について\(続報\)](#)
- 8月26日 [サイトバンカ建屋における負傷者発生について\(続報3\)](#)
- 8月31日 [5/6号機新S/B建屋3階における火災警報の発報について](#)
- 8月31日 [5/6号機新S/B建屋3階における火災警報の発報について\(続報\)](#)

(次ページからイチエフに関する報道【廃炉作業】
、使用済み核燃料の取り出し準備、核燃料デブリの取り出し準備

付録 イチエフに関する報道【廃炉作業】

(更新)

今月の中区分: 使用済み核燃料の取り出し準備/核燃料デブリの取り出し準備/未分類

<使用済み核燃料の取り出し準備>

(1号機)

ありません

(2号機)

2026.08.18 福島民報 [2号機のワイヤ修復使用済み核燃料1体 きょうつり上げ試験](#)

2026.08.19 福島民報 [使用済み核燃料つり上げ試験終了 第1原発2号機プール内](#)

<核燃料デブリの取り出し準備>

(2号機)

2026.08.26 福島民報 [きょうからロボットアームモーター交換 福島第1原発2号機](#)

2026.08.28 福島民報 [2号機2回目採取のデブリ 面積の2割程度が空隙 初回と同様](#)

(3号機)

2026.08.28 福島民友新聞 [圧力容器底部、3メートルの穴「想定より大きい」 福島第1原発3号機](#)

(次ページに未分類)

概要に戻る

付録 イチエフに関する報道【廃炉作業】

(更新)

今月の中区分:使用済み核燃料の取り出し準備/核燃料デブリの取り出し準備/未分類

<未分類>

2026.08.06	福島民報	増設雑固体廃棄物焼却設備の運転再開 福島第1原発
2026.08.06	共同通信	デブリ搬出に向け調査優先 2026年版廃炉プラン公表
2026.08.08	共同通信	廃炉の定義や法整備の課題解説 東洋大研究員がQ&A集を作成
2026.08.11	福島民報	廃炉作業の課題学ぶ 民間の専門家が解説 福島
2026.08.18	福島民報	腐食リスク低減へ サリーの吸着剤乾燥試験きょう開始
2026.08.18	福島民報	福島第1原発から回収のデブリ処理 社会全体で意思決定を 更田NDF廃炉総括監、講演で指摘 福島
2026.08.22	共同通信	東電原発廃炉、若い層の関心低く 東京、福島を9ポイント下回る
2026.08.26	福島民報	原発の廃止措置など国への要望項目決定 北海道・東北6県議会議長会議
2026.08.28	茨城新聞	デブリ、同じ生成過程か 25年4月採取 原子力機構分析
2026.08.28	福島民報	排気筒解体着手へ 3、4号機
2026.08.31	福島民報	被災地視点で廃炉考えて 県弁護士会 4日シンポジウム 郡山
2026.08.31	福島民報	廃炉や復興像で意見 NDF 南相馬でフォーラム

(次ページからイチエフ事故の後始末、被災・避難(者)、検証・伝承・記録)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<被災・避難(者)>

- 2026.08.02 福島民報 [ふくしまは負けない／明日へ 復興状況に理解 県外避難者が「ツアー」 双葉郡](#)
- 2026.08.25 北海道新聞 [原発避難者集団訴訟、東電と和解成立 国への訴訟も取り下げ 札幌高裁](#)

<検証・伝承・記録>

- 2026.08.02 福島民報 [福島県の教訓を 生きた言葉で「15歳のバトン」プロジェクト高校生、被災地視察開始 復興の歩みと課題体感](#)
- 2026.08.02 福島民報 [災害の備え中国語で 双葉の伝承館 大竹さん\(大熊\)語り部講話](#)
- 2026.08.02 福島民報 [\[中越沖地震19年\]「それでも原発は必要なのか」東日本大震災の教訓訴え、柏崎市で被災者が講演](#)
- 2026.08.05 福島民報 [ふくしま震災伝承プロジェクト 15歳のバトン 高校生、廃炉作業の現場確認 7校の11人 福島第1原発視察](#)
- 2026.08.10 福島民報 [新聞製作に取り組む ジャーナリストスクール 16日、郡山で発表](#)
- 2026.08.27 福島民報 [ふくしま震災伝承プロジェクト 15歳のバトン 震災と原発事故学ぼう 民報社 県内高校1年生、10日まで募集](#)
- (次ページから旧・現避難指示区域、大熊町)
- 2026.08.28 福島民報 [震災と原発事故 県民が思い語る 30日、福島で集会](#)
- 2026.08.28 福島民報 [【震災・原発事故15年】中間貯蔵施設内遺構・文化財 作業部会で保存法検討 大熊町](#)

概要に戻る

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(大熊町)

- 2026.08.02 福島民報 [【震災・原発事故15年】大熊町民と絆の輪 若松・「会津東山盆踊り」第2日 交流継続思い新たに](#)
- 2026.08.07 福島民報 [営農再開、早期具体化を 大熊町と双葉町 復興庁に要望](#)
- 2026.08.10 福島民友新聞 [震災後に移住の若者ら、旧熊町小の存在意義語る 大熊でワークショップ](#)
- 2026.08.10 福島民報 [制服の思い出よみがえる 休校となった双葉郡の中学・高校 めいぐるみが着用 卒業生提供しリメイク 大熊で巡回展 31日まで](#)
- 2026.08.11 福島民報 [【震災・原発事故15年】復興支える事業を構想 起業家養成 大熊に県内外の若者50人](#)
- 2026.08.17 福島民報 [熊町小の価値考える 移住した若者視点基にWS 大熊 保存や利活用探る](#)
- 2026.08.23 福島民報 [おおくま町物語伝承の会の「ふくしま大熊・会津まち物語コンサート会津公演」開催 原発事故風化防止 花嫁行列で幕開け](#)
- 2026.08.26 福島民報 [大熊の企業が旗振り役に 農地保全、再エネ推進 バイオマス燃料製造・供給へ イネ科「ソルガム」原料](#)
- 2026.08.28 福島民報 [【震災・原発事故15年】中間貯蔵施設内遺構・文化財 作業部会で保存法検討 大熊町\(再掲\)](#)
- 2026.08.31 福島民報 [サービスや建設 大熊で面接会 広域雇用促進支援協](#)

(次ページに双葉町)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(双葉町)

- 2026.08.02 福島民報 [災害の備え中国語で 双葉の伝承館 大竹さん\(大熊\)語り部講話\(再掲\)](#)
- 2026.08.09 福島民報 [ふくしまは負けない／明日へ 歴史学び製造現場見学 浅野燃糸 双葉事業所でツアー](#)
- 2026.08.12 福島民友新聞 [「双葉活性化」…アイデアを 町が起業後押しコンテスト初開催へ](#)
- 2026.08.20 福島民友新聞 [避難指示解除へ住民説明会 双葉町、具体的な時期は意見踏まえ判断](#)
- 2026.08.20 福島民報 [特定帰還居住区域の避難解除へ「要件整いつつある」 双葉町、初の説明会で示す 3行政区対象住民からは不安や要望](#)
- 2026.08.20 共同通信 [「復興の種」アイデア募集中 福島・双葉町でビジコン](#)
- 2026.08.26 福島民報 [3行政区の避難解除説明会終了 双葉町と政府対策本部](#)
- 2026.08.30 福島民報 [双葉の復興照らす光 避難指示解除4年で夏祭り](#)
- 2026.08.30 福島民報 [【震災・原発事故15年】双葉町 復興拠点の避難解除から4年 施設整備にぎわい生む 人口増加、住宅不足が課題](#)

(次ページに富岡町、川内村)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(富岡町)

2026.08.03	福島民報	21社が仕事内容紹介 働きたいネットの就職面接会 富岡
2026.08.03	福島民報	富岡町大玉村友好都市協定を締結
2026.08.03	福島民報	渡辺俊美さん親善大使 富岡町が委嘱 町の認知度向上へ
2026.08.03	福島民報	16日まで3周年イベント 富岡町夜の森のバウムクーヘン専門店 4日焼きたて配布 期間中3割引
2026.08.18	福島民報	「桜染め」復活に情熱 富岡震災で休止、今年度完成へ ふたば未来高生協力
2026.08.28	福島民報	あすから県文化センター再開館事業 県民劇へ稽古総仕上げ 富岡町民劇団 再起の姿、朗読と音楽で

(川内村)

2026.08.15	福島民報	古里復興へ誓い新た 川内で二十歳のつどい
------------	------	--------------------------------------

(次ページに浪江町)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(浪江町)

- 2026.08.01 福島民報 [【震災・原発事故15年】浪江の海 命守る ライフセーバー鈴木潤一さん\(富岡\) 請戸海水浴場 1日に震災後初の海開き](#)
- 2026.08.01 福島民報 [廃炉作業参入へ交流会 県内企業、技術力アピール 浪江](#)
- 2026.08.01 福島民報 [大震災後初、16年ぶり海開き 福島・浪江の請戸海水浴場](#)
- 2026.08.02 福島民友新聞 [浪江・請戸海水浴場16年ぶり海開き 海水浴客「またにぎわって」](#)
- 2026.08.01 福島民報 [浪江町長に再選吉田氏が初登庁](#)
- 2026.08.10 福島民友新聞 [16年ぶり海開きの請戸海水浴場、遊泳期間が終了 本格再開へ一歩](#)
- 2026.08.11 福島民報 [【3・11から15年 あなたを忘れない】働き者で愛情深い母 帰郷の願いかなわず 福島ハツ子さん\(当時90、浪江町\)](#)
- 2026.08.13 福島民友新聞 [盆踊り復活、新たな絆 浪江帰還者と移住者協力「にぎわい取り戻す」](#)
- 2026.08.16 福島民報 [浪江・苅野地区で初の合同盆踊り 16年ぶり、地域に輪 福島県内外から300人](#)
- 2026.08.22 福島民報 [弘前、東京農、東北大の「復興知」活用へ 浪江で取り組み内容説明](#)
- 2026.08.22 福島民報 [子どもばやし再開に笑顔 浪江・国玉神社盆踊り](#)
- 2026.08.25 福島民報 [震災・原発事故15年 浪江で駐在所等連絡協再始動 組織再編](#)
- 2026.08.29 福島民報 [サントリー地域文化賞受賞 請戸芸能保存会 途絶えかけた宝 未来へ「田植踊」多くの人に](#)

[概要に戻る](#)

(次ページに浪江町続き、南相馬市、飯舘村、葛尾村)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(浪江町)

2026.08.31 福島民友新聞 [盆踊り復活、住民に笑顔 浪江・権現堂地区、震災後初めて](#)

(南相馬市)

2026.08.07 福島民報 [宇宙産業の可能性を議論 南相馬スペースカンファレンス開幕](#)

2026.08.16 福島民友新聞 [吉田友保さん「常磐もの魅力伝えたい」小高に新開水産開業 卸売りに変更、屋号残す](#)

2026.08.22 福島民報 [【震災15年 小高の未来】医療、商業の充実を\(8月22日\)](#)

(飯舘村)

2026.08.09 福島民報 [ふくしまは負けない／明日へ 飯舘の農業再生取り組みに理解 東北大で講義](#)

2026.08.20 福島民友新聞 [台風に負けず咲いたヒマワリ 飯舘で見頃](#)

2026.08.30 福島民報 [あぶくまもちを復興の象徴に 飯舘で稲作拡大 生産組合「特産化進める」](#)

(葛尾村)

ありません

(次ページに田村市、川俣町、楡葉町、広野町)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(田村市)

2026.08.21 福島民報 [揺れる炎に復興願う 田村で都路灯まつり&盆踊り大会](#)

(川俣町)

2026.07.16 福島民報 [農業再生取り組み学ぶ 福大生 山木屋地区で意見交換](#)

2026.07.19 福島民報 [川俣シャモ情熱込め20年 福島の「陽風水」震災や風評被害 苦難にも信念揺るがず](#)

(檜葉町)

2026.08.29 福島民報 [廃炉創造ロボコンへ学び サマースクールに高専生が参加 檜葉](#)

(広野町)

2026.08.17 福島民報 [フィンランド研修に出発 ハイスクールアカデミー 放射性廃棄物の最終処分学ぶ](#)

2026.08.17 福島民報 [世界初稼働間近を実感 フィンランドの高レベル放射性廃棄物最終処分場 ハイスクールアカデミー訪問 本紙記者同行ルポ](#)

2026.08.19 福島民報 [高校生フィンランド研修 処分場受け入れ、背景学ぶ](#)

2026.08.20 福島民報 [ハイスクールアカデミー2026 最終処分テーマに発表 折り紙などで文化交流](#)

2026.08.20 福島民報 [高校生同士意見交わす フィンランド研修 文化紹介し交流](#)

[概要に戻る](#)[\(次ページに広野町続き\)](#)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<旧・現避難指示区域>

(広野町)

2026.08.06	福島民報	ハイスクールアカデミー 原子燃料サイクル施設訪問
2026.08.07	福島民報	廃炉作業に理解深める ハイスクールアカデミー 県内外の高校生ら
2026.08.16	福島民報	フィンランド研修きょう出発 ハイスクールアカデミー
2026.08.20	福島民友新聞	「オンカロ」の町で核ごみ処分学ぶ フィンランド訪問中の高校生視察団
2026.08.16	福島民報	最終処分場の安全策理解 フィンランド研修の高校生 学んだ成果を発表
2026.08.22	福島民友新聞	ふたば未来男子、5年連続日本一 全国バドミントン団体、女子は3位
2026.08.23	福島民報	フィンランド訪問の高校生 研修終えきょう帰国
2026.08.23	福島民報	ふくしまハイスクールアカデミー 1週間の学び終え帰国
2026.08.31	福島民報	【県農業賞】逆境耕し命吹き込む 大地を再生食味向上 農業経営改善部門 鈴木利令さん(65)広野

(次ページに浜通り・相双地方)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

＜浜通り・相双地方＞

2026.08.02	福島民報	福島の教訓を 生きた言葉で「15歳のバトン」プロジェクト高校生、被災地視察開始 復興の歩みと課題体感(再掲)
2026.08.02	福島民報	復興支援策の充実など要望 双葉地方町村会・議長会
2026.08.07	福島民報	米・食味国際大会 知事に協力要請 双葉地方の実行委
2026.08.07	福島民報	児童生徒30人双葉郡取材 ジャーナリストスクール始まる
2026.08.07	福島民報	防災局、防災大学校誘致 福島に推進協発足へ 市と市議会、福島商議所が連携
2026.08.07	福島民報	被災地、血の通う場所 小高舞台の映画 地元で上映 作家、監督トーク
2026.08.15	福島民報	23日から現代アート祭・ビエンナーレ 双葉郡8町村で初開催 展覧会や体験講座【主なイベント一覧表付き】
2026.08.17	福島民報	被災地の今新聞に 児童生徒、製作の思い発表 ジャーナリストスクール
2026.08.17	福島民友新聞	浜通りの未来…歌声に 双葉でアーツ、石井竜也氏作曲・吉村作治氏作詞のテーマ曲初披露
2026.08.17	福島民報	避難区域12市町村の空き家所有者対象 22日に講演、相談会 いわき
2026.08.19	福島民報	復興現状を視察 福大「友好大使」 海外学生が来県
2026.08.21	福島民報	料金35%値上げ可決 双葉地方水道企業団議会
2026.08.21	福島民報	営農再開399ヘクタール増 避難区域設定12市町村

[概要に戻る](#)

(次ページに浜通り・相双地方続き、福島県)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<浜通り・相双地方>

- 2026.08.22 福島民報 [ホストファミリーと交流 相馬 ふくしま友好大使一行](#)
- 2026.08.22 福島民報 [被災地の課題解決策は 大熊 双葉 浪江 大学生巡る 企画立案2月実現へ](#)
- 2026.08.22 福島民報 [風評払拭へできる取り組みを発表 西日本の大学生](#)
- 2026.08.23 福島民友新聞 [テーマは「∞」 双葉郡で福島ビエンナーレ開幕、復興への祈り込める](#)
- 2026.08.28 福島民報 [ハマカルアート15事業者を採択 経産省](#)

<福島県>

- 2026.08.02 福島民報 [本県での研修に臨む 東日本国際大が招待、11日まで 米ハンフォード地域の学生ら](#)
- 2026.08.03 福島民報 [福島復興ワークショップ 放射線学び理解 安積黎明高で授業](#)
- 2026.08.04 福島民報 [【2026ふくしま知事選】内堀知事 復興への予算確保を東北整備局長に要請](#)
- 2026.08.07 福島民報 [墓じまい福島県内で急増 少子高齢化、震災後の避難で管理・継承困難…「残したい」「負担かけたくない」 悩みや不安複雑化](#)
- 2026.08.07 福島民報 [台湾への福島県産モモ輸出 16年ぶり本格再開へ 2選果場許可 今月中旬目指す](#)
- 2026.08.07 福島民報 [原子力災害時の対応法など学ぶ 福島医大防災研修 若松](#)
- 2026.08.08 福島民報 [【知事選告示まで二カ月 福島の現在地④】「ひと」人口4年余りで10万人減 県外転出ワースト2位](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<福島県>

2026.08.09	共同通信	福島産「酒かす和牛」首都圏に 肉質や柔らか、風評払拭も
2026.08.10	福島民報	【知事選告示まで2カ月 福島の現在地⑤】「しごと」農林水産業 震災前水準に戻らず「プライド。」再興途上
2026.08.13	福島民報	台湾への県産モモ輸出 17日本格的再開へ 県とJAふくしま未来、全農福島 来月11日まで3品種4.5トン
2026.08.13	福島民報	核兵器廃絶や平和訴え 14日まで三春で「ヒロシマ・ナガサキ 原爆展」
2026.08.14	福島民報	【震災15年 ワインソムリエ】復興の力に(8月14日)
2026.08.17	共同通信	福島県産モモ、16年ぶり台湾へ 原発事故後初の本格輸出
2026.08.21	福島民報	キノコや山菜類出荷再開を要望 小野町が根本議員に
2026.08.22	福島民友新聞	知事選に向け県選管が準備本格化 県庁内に看板設置
2026.08.24	福島民報	【震災15年 東電の協業先】県民の意見聞くべき
2026.08.28	福島民報	【モモ台湾輸出再開】切れ目ない供給が必要(8月28日)
2026.08.29	福島民報	短編映画「シャッター・チャンス」長編化へ 「福島、身近な場所と感じて」永井監督、いわきで思い語る
2026.08.30	福島民報	原発事故からの復興など考える きょう、集会 福島
2026.08.31	福島民報	【県農業賞】被災者の情熱に共感 新規就農部門 太田啓詩さん(43)鏡石

[概要に戻る](#)[\(次ページに福島県内除染土\)](#)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<福島県内除染土>

2026.08.18	福島民友新聞	独自】除染土県外最終処分、見直し含む決議案 日弁連、「県内」議論喚起の可能性
2026.08.19	福島民友新聞	除染土県外最終処分巡る記述削除、決議案修正へ 日弁連
2026.08.20	福島民報	【震災・原発事故15年】偽情報積極対策を検討 政府・与党 再生土活用に向け
2026.08.22	福島民友新聞	除染土の県外最終処分巡る記述削除 日弁連、決議案を承認
2026.08.22	福島民報	本県物産展に大勢の来場者 原子力規制庁
2026.08.25	福島民友新聞	除染土県外最終処分巡る記述削除 日弁連承認の決議案
2026.08.25	福島民友新聞	除染土、さいたまと仙台で再生利用 都外で初、時期は「調整中」
2026.08.26	福島民報	【除染土再利用】国の責任で理解促せ(8月26日)
2026.08.28	共同通信	除染土、29日に都外で初利用 仙台市の国出先機関で
2026.08.30	福島民友新聞	除染土、仙台で再利用 都外で初、国出先機関の植え込みに
2026.08.30	共同通信	さいたま新都心、除染土を再利用 都外2例目、市民ら抗議も

(次ページに政府)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<政府>

2026.08.01	福島民報	県産モモなど特産品を販売 都内で復興フェア
2026.08.04	福島民報	復興庁福島復興局長を退任 志田文毅氏に聞く 震災15年検証し次へ
2026.08.06	福島民報	復興の加速化へ抱負
2026.08.06	福島民報	本県林業再生へ郡山、小野を訪問 牧野復興相
2026.08.07	福島民報	復興相が双葉郡視察 双葉、富岡、大熊3町除染現場や企業など
2026.08.08	福島民報	経産省で復興フェア 赤沢経産相が訪問
2026.08.08	福島民報	【防災庁】縦割り超え重責果たせ(8月8日)
2026.08.20	福島民報	【震災・原発事故15年】偽情報積極対策を検討 政府・与党 再生土活用に向け(再掲)
2026.08.25	福島民友新聞	除染土、さいたまと仙台で再生利用 都外で初、時期は「調整中」(再掲)
2026.08.26	共同通信	復興庁、予算5496億円要求 帰還居住区域の除染加速
2026.08.27	福島民友新聞	大熊に除染新拠点 帰還促進へ現地体制強化 環境省 福島県外最終処分の機運醸成も
2026.08.28	福島民報	ハマカルアート15事業者を採択 経産省(再掲)
2026.08.31	共同通信	国、茨城での核ごみ調査打診へ 常陸大宮市、最終処分場選定巡り

(次ページにALPS処理済み汚染水の海洋放出)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<ALPS処理済汚染水の海洋放出>

2026.08.09	福島民報	福島第一原発付近の海水モニタリング結果(7月30日・8月1・4・5日、東京電力ホールディングス公表)
2026.08.16	福島民報	福島第一原発付近の海水モニタリング結果(7月30日・8月5・7・8・11日、東京電力ホールディングス公表)
2026.08.18	福島民友新聞	26年度4回目の処理水放出完了 福島第1原発
2026.08.23	共同通信	全漁連「反対変わらず」 原発処理水放出3年で談話
2026.08.24	福島民報	【真相深層】処理水海洋放出3年 保管量減少いまだ7% 「処理途上水」対応に課題
2026.08.24	共同通信	福島原発処理水、17万トン放出 開始3年でタンク保管7%減
2026.08.24	共同通信	「継続的な安全確保を」 処理水放出3年、福島知事
2026.08.25	福島民報	放出「万全の対策を」 輸入規制撤廃政府に働きかけ要請 内堀知事
2026.08.26	高知新聞	【処理水放出3年】丁寧な情報発信を続けよ
2026.08.28	福島民報	「安心できる検査体制継続」 第1原発処理水放出3年 福島県漁連の野崎会長コメント
2026.08.30	福島民報	福島第一原発付近の海水モニタリング結果(8月18・25・26日、東京電力ホールディングス公表)

(次ページから未分類)

付録 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末 了】

(更新)

今月の中区分:避難(者)/検証・伝承・記録/旧・現避難指示区域/浜通り・相双地方/福島県/政府/福島県内除染土/風化・風評/ALPS処理済み汚染水の海洋放出/未分類

<未分類>

2026.08.01	共同通信	放射性微粒子、ミミズが地中に? 福島原発事故で放出、京都大など
2026.08.03	下野新聞	暫定集約ほぼ終了、指定廃棄物問題で栃木県内6市町 処分場候補地に塩谷選定から12年も続く 膠着状態
2026.08.04	福島民報	復興庁福島復興局長を退任 志田文毅氏に聞く 震災15年検証し次へ
2026.08.09	福島民報	双葉地方水道企業団の要求書 東電が回答書手渡す
2026.08.18	共同通信	放射性廃棄物、福島で処分 川崎市「法的問題なし」
2026.08.19	福島民報	川崎市 除染廃棄物を福島県で処分 「配慮必要だった」 法的問題なし
2026.08.19	福島民友新聞	川崎で出た除染ごみ、福島県で最終処分 川崎市が委託 識者「原発事故の風化加速」
2026.08.21	共同通信	宮城県、大連事務所閉鎖へ 今年末、中国輸入規制影響
2026.08.23	福島民報	豪州での体験共有 県内外の中学生が報告会 郡山
2026.08.27	共同通信	韓国、TPP加盟議論を本格化 日本水産物の輸入規制が壁

(次ページから原子力発電、核施設をめぐる動き、
原子力発電のバックエンド、使用済み核燃料の最終処分)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/その他の原発・核施設/戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き/未分類

<原子力発電のバックエンド>

(使用済み核燃料の最終処分)

2026.08.02	共同通信	核ごみ調査、念入りに 小笠原村長、南鳥島視察
2026.08.04	福島民報	青森の施設で研修開始 核廃棄物最終処分学ぶ高校生
2026.08.04	共同通信	核のごみ最終処分場が審査合格 フィンランド、安全性巡り
2026.08.04	共同通信	核ごみ処分、玄海町長退任会見 文献調査「国の活動促した」
2026.08.08	西日本新聞	佐賀・玄海町長「核のごみ適切に判断を」 退任を前に新町長に要望
2026.08.11	西日本新聞	佐賀県の日高・玄海町長が初登庁「町民目線を大切に」
2026.08.18	福島民報	再処理せず「洞窟」で保管 国内原発50～60年分受け入れ
2026.08.23	共同通信	世界初、核処分場操業開始へ フィンランド、来年初めにも
2026.08.31	共同通信	核のごみ処分場調査 佐賀・玄海町で6回目の「対話の場」
2026.08.31	共同通信	国、茨城での核ごみ調査打診へ 常陸大宮市、最終処分場選定巡り(再掲)
2026.08.31	共同通信	国、茨城での核ごみ調査を打診 常陸大宮市、最終処分場選定で

(次ページに核燃料(ハーフ)サイクル、地上保管)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<原子力発電のバックエンド 続き>

(核燃料(ハーフ)サイクル)

2026.08.02 新潟日報 [青森県の宮下宗一郎知事、核のごみ「負担の分担論が必要」国民的議論の重要性訴える\[単独インタビュー\]](#)

(地上保管)

2026.08.02 新潟日報 [青森県の宮下宗一郎知事、核のごみ「負担の分担論が必要」国民的議論の重要性訴える\[単独インタビュー\]](#) (再掲)

2026.08.07 東奥日報 [むつ市長、中間貯蔵搬入事業者拡大検討を容認](#)

[使用済み核燃料はどこへ](#)

2026.08.07 中国新聞 [山口県上関町の中間貯蔵計画、青森での共同利用案浮上で影響か 関電の動向が鍵むつ中間貯蔵搬入 関電・北陸電「参画を検討」](#)

2026.08.11 東奥日報 [むつ中間貯蔵搬入 関電・北陸電「参画を検討」](#)

2026.08.12 共同通信 [核燃料搬入、電力8社に検討依頼 青森・むつ中間貯蔵施設へ](#)

(次ページに日本原燃低レベル放射性廃棄物埋設センター、
日本原燃ウラン濃縮工場、リサイクル燃料備蓄センター RFS)

[概要に戻る](#)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜その他の原発・核施設 **続き**>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(日本原燃 低レベル放射性廃棄物埋設センター)

ありません

(日本原燃 ウラン濃縮工場)

ありません

(リサイクル燃料備蓄センター RFS) [青森県むつ市/所有者:リサイクル燃料貯蔵株式会社/使用済み核燃料の中間貯蔵施設/貯蔵量\(最終\):5000t/2010年着工\(2024年受け入れ開始\)](#)

2026.08.02 新潟日報

[青森県の宮下宗一郎知事、核のごみ「負担の分担論が必要」国民的議論の重要性訴える\[単独インタビュー\]](#) (再掲)

(次ページに柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地))

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)＞

(柏崎刈羽原発)新潟県柏崎市・刈羽村/東京電力/1(Mark-2/1985/GE-東芝)・2(1990 /GE-東芝)・3(1993 /GE-東芝)・4(1994/GE-日立)号機)・5(Mark-2改)(1990/GE-日立)号機/定格出力:110万kW/(以上、定期検査中) 6 (1996/2026再稼働)・7 (定期検査中)号機(1997)/ABWR(GE・日立・東芝) / 定格出力:135.6万kW

- | | | |
|------------|------|--|
| 2026.08.02 | 福島民報 | [中越沖地震19年]「それでも原発は必要なのか」東日本大震災の教訓訴え、柏崎市で被災者が講演(再掲) |
| 2026.08.05 | 新潟日報 | [東電拠出1千億円配分案]「旧市町村単位で」「全域を対象に」電気代補助拡大の県方針、UPZ 7市町長の評価分かれる |
| 2026.08.05 | 新潟日報 | [東電拠出1千億円配分案]柏崎市長が県に文書送付、電気代補助に異議「ルールがあってないようなもの」 |
| 2026.08.06 | 新潟日報 | 花角英世新潟県知事「避難所の暑さ対策重要」熊本地震受け体育館の空調整備急ぐ考え |
| 2026.08.08 | 新潟日報 | 柏崎刈羽原発、運転員が同僚のIDカードで不適切退出 管理システム不具合で防止できず |
| 2026.08.12 | 新潟日報 | 柏崎刈羽原発の管理区域に入る扉、鍵かけ忘れて34時間 火災報知器作動で「焦り」 |
| 2026.08.16 | 新潟日報 | 柏崎刈羽原発の使用済み核燃料、輸送取りやめで今後の管理は?「地域の会」定例会で質疑 |
| 2026.08.17 | 共同通信 | 「信頼回復に努める」東電会長、新潟知事と会談 |
| 2026.08.19 | 新潟日報 | 柏崎刈羽原発の不祥事、「季節ネタのように出てくる」と長岡市長が苦言 (次ページに続く) |

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)＞

(柏崎刈羽原発)新潟県柏崎市・刈羽村/東京電力/1(Mark-2/1985/GE-東芝)・2(1990 /GE-東芝)・3(1993 /GE-東芝)・4(1994/GE-日立)号機)・5(Mark-2改)(1990/GE-日立)号機/定格出力:110万kW/(以上、定期検査中) 6(1996/2026再稼働)・7(定期検査中)号機(1997)/ABWR(GE・日立・東芝) / 定格出力:135.6万kW

2026.08.20	共同通信	核物質防護への影響「低」 同僚IDで柏崎原発制御室退出
2026.08.24	新潟日報	柏崎原発の重大事故想定し、ヘリコプターで避難訓練 住民の参加は再稼働後初めて、9月に実施
2026.08.24	新潟日報	[柏崎刈羽原発のID不正]規制事務所長「東電の対策で防げた」、2016年ごろから不具合放置
2026.08.27	新潟日報	柏崎刈羽原発6、7号機の保安水準一部緩和見通し 規制委員会で論点確認終了
2026.08.27	新潟日報	[柏崎刈羽原発のID不正]出入管理システムの不具合示す警報、1日数百件 稲垣武之所長「対策不十分だった」

(次ページに泊原発、幌延深地層研究センター)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(ここからはおおむね北から南に向けて原発・核施設を並べてあります)

(泊原発) 北海道泊村/北海道電力/主契約者:三菱重工/加圧水型軽水炉(PWR)定格出力/1号機:定格出力57.9万kW運転開始1989年(停止中) / 2号機:定格出力57.9万kW運転開始1991年(停止中) / 3号機:定格出力91.2万kW運転開始2009年プルサーマル炉(停止中)

2026.08.19	北海道新聞	泊原発構内で転落 男性死亡
2026.08.19	北海道新聞	北海道内経済8団体 泊原発の早期再稼働を北海道電力に要望
2026.08.20	北海道新聞	泊原発構内で作業中死亡の男性 死因は脳挫傷と判明
2026.08.20	北海道新聞	泊原発の工事計画、9月に追加審査へ 認可遅れで27年の再稼働難しさ増す
2026.08.21	北海道新聞	泊原発、防潮堤建設など順次再開へ 作業員死亡事故の現場以外で
2026.08.23	北海道新聞	北海道で震度4 津波の心配なし
2026.08.25	北海道新聞	泊原発非常用電源 設備審査が終了 再稼働可否に直結せず
2026.08.26	北海道新聞	泊原発集団訴訟控訴審 裁判長交代で10月結審へ

(幌延深地層研究センター) 北海道幌延町/管理運営者:日本原子力研究開発機構(JAEA) / 地下350m以上の深さへの放射性廃棄物の地層処分に関する研究を行う施設/設立:2001年 (次ページに大間原発、東通原発)

2026.08.28 北海道新聞 [原子力規制委員、幌延深地層研を視察 調査坑道など確認](#)

概要に戻る

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(大間原発1号機) 青森県大間町/電源開発株式会社(J-POWER)/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)/定格出力138.3万kW/2008年着工/MOX燃料炉(建設中)

2026.08.29 東奥日報 [「脱原発依存町政を」大間町に要請書提出／道南下北ピースサイクル](#)

(東北電力東通原発) 青森県東通村/東北電力/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/ 1号機:沸騰水型軽水炉(BWR)定格出力110万kW運転開始2005年(停止中)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力138.5万kW(計画)

ありません

(東京電力東通原発) 青森県東通村/青森県東通村/東京電力/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/ 1号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力138.5万kW運転開始2005年(建設中)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力138.5万kW(計画)

ありません

(次ページに日本原燃 六ヶ所再処理工場、女川原発)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(日本原燃 六ヶ所再処理工場) 青森県六ヶ所村/所有者:日本原燃/核燃料の再処理工場/予定処理能力:ウラン800t/年/使用済燃料貯蔵容量:ウラン3000t(1993年着工、建設中)/併設施設:高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(返還廃棄物貯蔵容量

ガラス固化体2,880本) 操業開始1995年・MOX燃料工場(最大加工能力130トン-HM/年) 工事開始2010年竣工予定時期2027年度・ウラン濃縮工場(150トンSWU/年で操業開始最終的に1,500トンSWU/年) 操業開始1992年・低レベル放射性廃棄物埋設センター(124,672立方メートル(200リットルドラム缶623,360本相当)最終的に約60万立方メートル(同約300万本相当)) 操業開始1992年

2026.08.02 新潟日報 [青森県の宮下宗一郎知事、核のごみ「負担の分担論が必要」国民的議論の重要性訴える\[単独インタビュー\]](#) (再掲)

(女川原発) 宮城県女川町・石巻市/東京電力/主契約者:日立GEニュークリア・エナジー・三菱重工/ 1号機:BWR Mark-1 定格出力52.4万kW運転開始1984年(廃止)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR) 定格出力82.5万kW(稼働中)/3号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR) 定格出力82.5万kW運転開始(停止中)

2026.08.26 共同通信 [原発テロ対策、期限延長決定 東北電女川、停止回避へ](#)

(次ページに福島第一原発、福島第二原発)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(福島第一原発)

廃炉中

[イチエフに関する報道【廃炉作業】参照](#)

2026.08.09 福島民報 [火災報知器が作動 火や煙確認されず 福島第1原発5、6号機](#)

[火災警報装置が作動 福島第1原発、東電発表第1原発で火災警報作動 火や煙確認されず](#)

2026.08.14 福島民報 [火災警報装置が作動 福島第1原発、東電発表](#)

2026.08.16 福島民報 [火災警報が作動 福島第1原発](#)

2026.08.19 福島民報 [第1原発5号機の地下で火災警報作動 火や煙確認されず](#)

2026.08.22 福島民報 [福島第1原発入退域管理棟で火災警報](#)

2026.08.23 共同通信 [【速報】東電福島第1、第2原発に異常なし](#)

2026.08.23 福島民報 [第1原発で報知器作動 火災なしと判断](#)

(福島第二原発)

廃炉中

2026.08.23 共同通信 [【速報】東電福島第1、第2原発に異常なし\(再掲\)](#)

[概要に戻る](#)

(次ページに東海第二原発、東海再処理施設、日本原子力研究開発機構(JAEA)研究施設、常陽)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(東海第二原発1号機) 茨城県東海村/日本原子力発電(日本原電)/主契約者:GE・日立製作所・清水建設/沸騰水型軽水炉(BWR)/定格出力110万kW/1978年運転開始(停止中)

2026.08.23	共同通信	【速報】東海第2原発に異常なし
2026.08.27	共同通信	防潮堤補強案を規制委了承 東海第2原発の施工不備
2026.08.28	東京新聞	東海第2原発、防潮堤補強で工期を2年延長…工事終了は2028年度下期になる見通し
2026.08.30	共同通信	【速報】東海第2原発に異常なし

(東海再処理施設) 茨城県東海村/日本原子力研究開発機構/核燃料の再処理工場/原子燃料公社東海精錬所として1959年開所(2006年再処理業務終了)

ありません

(日本原子力研究開発機構(JAEA)研究施設)

ありません

[概要に戻る](#)

(常陽)

ありません

[\(次ページに浜岡原発\)](#)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/その他の原発・核施設/戦争の中の原発・核施設/国際的な動き/未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(浜岡原発) 静岡県御前崎市/中部電力/1号機:沸騰水型軽水炉(BWR-4)Mark-1 定格出力54万kW 主契約者: 運転開始1976年(2009年廃炉決定)/2号機:沸騰水型軽水炉(BWR-4)Mark-1 定格出力84万kW 主契約者: 運転開始1978年(2009年廃炉決定)/3号機:沸騰水型軽水炉(BWR-5改良標準型)Mark-1改 定格出力110万kW 主契約者: 運転開始1987年(停止中)/4号機:沸騰水型軽水炉(BWR-5改良標準型)Mark-1改 定格出力113.71万kW 主契約者: 1993年運転開始(停止中)/5号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR) 定格出力138万kW 運 主契約者: 転開始2005年(停止中)/6号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR) 定格出力140万kW級 主契約者: (計画)

2026.08.04	共同通信	浜岡原発1万リットル超水たまる 3号機、外部影響なし
2026.08.18	共同通信	中部電力の不正、真相究明を 福島原発訴訟の原告団が要請
2026.08.26	共同通信	浜岡原発で不適切請求か 中部電、廃炉管理の機構に
2026.08.27	共同通信	浜岡原発の廃炉費、報告書き換え 中部電、14件8億円分
2026.08.27	共同通信	「廃炉計画通り進めたかった」 中部電、地元市議に不正を陳謝
2026.08.27	中日新聞	「社風に問題がある」「またか」 御前崎市議会に中電原子力部門トップが説明、市議から憤りの

声

(次ページに志賀原発、福井県原発・核施設共通)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/その他の原発・核施設/戦争の中の原発・核施設/国際的な動き/未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(志賀原発) 石川県志賀町/北陸電力/ 主契約者:日立GE/1号機沸騰型軽水炉(BWR)定格出力54万kW[運転開始1993年(停止中)]/2号機BWR Mark-1改定格出力135.8万kW運転開始2006年(停止中)

2026.08.10 北國新聞 [原発財政支援、県内10市町に 30キロ圏内の5市町追加 来年度適用へ](#)

2026.08.11 東奥日報 [むつ中間貯蔵搬入 関電・北陸電「参画を検討」](#)(再掲)

(福井県の原発・核施設共通)

2026.08.07 中国新聞 [山口県上関町の中間貯蔵計画、青森での共同利用案浮上で影響か 関電の動向が](#)(再掲)

2026.08.11 東奥日報 [むつ中間貯蔵搬入 関電・北陸電「参画を検討」](#)(再掲)

2026.08.19 福井新聞 [再処理工場遅れ可能性で関電が福井県に再説明 「搬出量に大きな影響ない」強調 県の乾式貯蔵判断、8月中がヤマ場](#)

2026.08.18 共同通信 [乾式貯蔵の事前了解を表明 福井・高浜町長、関電計画](#)

2026.08.20 共同通信 [核燃料乾式貯蔵、福井2町が了解 関電原発、県の対応焦点に](#)

2026.08.25 共同通信 [福井県、乾式貯蔵を了解へ 関電初施設、近く表明](#)

2026.08.25 共同通信 [「50年超管理計画見直し不要」 美浜原発蒸気漏れで関電が見解](#)

2026.08.27 共同通信 [福井、電力の県内利用促進を 企業誘致へ工程表](#)

[概要に戻る](#)

(次ページに志賀原発、福井県の原発・核施設共通続き)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(福井県の原発・核施設共通)

- | | | |
|------------|------|---|
| 2026.08.28 | 福井新聞 | 福井県嶺南地域に大型データセンター誘致検討 共創会議、国が工程表に新たに明記 原発電気の地元利用へ産業集積 |
| 2026.08.28 | 共同通信 | 【速報】関電の乾式貯蔵施設、福井県が建設了承 |
| 2026.08.28 | 中日新聞 | 敦賀原発審査や美浜原発の安全対策に影響の可能性 近畿地域の活断層長期評価 |
| 2026.08.31 | 共同通信 | 関電、乾式貯蔵の認可申請 福井の原発敷地で27年着工 |

(美浜原発) 福井県美浜町/関西電力/ **1号機**運加圧水型軽水炉(PWR)定格出力34万kW運転開始1970年(廃止)/**2号機**加圧水型軽水炉(PWR)定格出力50万kW運転開始1972年(廃止) / **3号機**加圧水型軽水炉(PWR)定格出力82.6万kW運転開始1976年(50年超申請稼働中)

- | | | |
|------------|------|---|
| 2026.08.09 | 福井新聞 | 11人死傷した美浜原発3号機の蒸気噴出事故から22年 関西電力、なお保守管理に甘さ |
| 2026.08.09 | 共同通信 | 関電社長、事故教訓風化させない 美浜原発追悼式 |

(次ページに高浜原発、大飯原発)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(高浜原発) 福井県高浜町/関西電力/ 1号機運加圧水型軽水炉(PWR)定格出力82.6万kW運転開始1974年(50年超稼働中)/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力82.6万kW運転開始1975年(50年超稼働中) / 3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力定格出力87.0万kW運転開始1985年(稼働中) / 4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力 87.0万kW運転開始1985年(稼働中)

2026.07.09 共同通信

(大飯原発) 福井県おおい町/関西電力/ 1号機運加圧水型軽水炉(PWR)定格出力117.5万kW運転開始1979年(廃止) / 2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力117.5万kW運転開始1979年(廃止) / 3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力定格出力118万kW運転開始1991年(稼働中) / 4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118万kW運転開始1993年(稼働中)

2026.08.09 中日新聞 [関西電力大飯原発3号機が自動停止 発電設備でトラブル、けが人なし](#)

2026.08.09 共同通信 [関電大飯原発3号機が自動停止 発電機で異常か、警報作動](#)

2026.08.19 共同通信 [発電機接続の部品に損傷 関電大飯原発3号自動停止](#)

(次ページに敦賀原発、もんじゅ、ふげん)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<その他の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(敦賀原発) 福井県敦賀市/日本原子力発電(日本原電)/ 1号沸騰型軽水炉(BWR)定格出力35.7万kW運転開始1970年(廃止)
/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力116万kW運転開始1987年(停止中) /3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力)定格出力153.8万kW(計画)

ありません

(もんじゅ) 福井県敦賀市/日本原子力研究開発機構/高速増殖炉(ナトリウム冷却高速炉)研究用原子炉/着工:1983年/運転開始:1991年/運転停止::2010年/廃止決定::2016年(廃炉作業中)

ありません

(ふげん) 福井県敦賀市/日本原子力研究開発機構/新型転換炉/着工:1970年/運転開始:1978年/運転終了::2003年(廃炉作業中)

ありません

(次ページに島根原発、上関原発)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

分

＜各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(島根原発) 島根県松江市/中国電力/ 1号機(廃止) / 2号機沸騰型軽水炉(BWR)定格出力82.0万kW運転開始1989年(稼働中) / 3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力137.3万kW(建設中)

2026.08.03	中国新聞	中国電力、島根原発2号機の定期事業者検査を公開
2026.08.05	中国新聞	中国電力の島根原発2号機 定期事業者検査の終了予定日が1日早まる
2026.08.06	共同通信	プルサーマル交付金拡大へ 原発30キロ圏内の鳥取対象に
2026.08.13	山陰中央新報	島根原発2号機、臨界に達する 9月16日営業運転再開へ
2026.08.18	中国新聞	島根原発2号機、発電開始1日遅れ
2026.08.18	中国新聞	中国電力、島根2号機の発電再開
2026.08.22	共同通信	鳥取知事「対策十分か検証する」 プルサーマル巡り島根原発視察
2026.08.26	中国新聞	島根原発で作業員が骨折 中国電力が発表
2026.08.28	中国新聞	中国電力が建設中の島根3号機 新規稼働に必要な地震・津波分野の実質審議終える
2026.08.28	中国新聞	中電・島根原発3号機の新規稼働に向け、問われる安全管理 2号機の再稼働以降も不祥事相次ぐ

(上関原発) 山口県上関町/中国電力/ (計画)

[概要に戻る](#)

ありません

(次ページに上関中間貯蔵施設、伊方原発、玄海原発、玄海町高レベル放射性廃棄物)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜各地の原発・核施設 続き＞

※仕様等はwikipediaからの引用です

(上関中間貯蔵施設) 山口県上関町 / 中国電力 / (計画)

2026.08.07 中国新聞 [山口県上関町の中間貯蔵計画、青森での共同利用案浮上で影響か 関電の動向が](#) (再掲)

(伊方原発) 愛媛県伊方町 / 四国電力 / 1号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力56.6万kW運転開始1977年(廃止) / 2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力56.6万kW運転開始1982年(廃止) / 3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力89.0万kW運転開始1994年(稼働中)

2026.07.10 中国新聞 [伊方原発控訴審始まる 広島高裁](#)

(玄海原発) 佐賀県玄海町 / 九州電力 / 1・2号機(廃止) / 3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118.0万kW運転開始1994年(稼働中) / 4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118.0万kW(稼働中)

2026.08.27 西日本新聞 [佐賀・玄海町で県原子力環境安全連絡協議会](#)

(玄海町高レベル放射性廃棄物(最終処分場立候補地))

2026.08.10 共同通信 [核ごみ処分、玄海町長退任会見 文献調査「国の活動促した」](#) (再掲)

2026.08.31 共同通信 [核のごみ処分場調査 佐賀・玄海町で6回目の「対話の場」](#) (再掲)

[概要に戻る](#)

(次ページに川内原発、戦争の中の原発・核施設、国際的な動き)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

＜各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(川内原発) 鹿児島県川内市/九州電力/ 1号機運加圧水型軽水炉(PWR) 定格出力89万kW運転開始1984年(稼働中)/2号機加圧水型軽水炉(PWR) 運転開始1985年(稼働中) / 3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力159万kW(計画)

ありません

＜戦争の中の原発・核施設>

2026.08.30 共同通信 [10日以内に電源喪失の恐れ ロシア占拠原発、IAEA警告](#)

＜国際的な動き>

2026.08.11 共同通信 [IAEAシリアから核物質搬出か トランプ政権が仲介と報道](#)

2026.08.11 共同通信 [ルーマニアで原発停止の恐れ 猛暑で冷却水不足](#)

2026.08.12 共同通信 [クラゲ大量発生で原発停止 フランス北部、ポンプに流入](#)

2026.08.14 共同通信 [ルーマニアの原発が干ばつで停止 冷却水不足](#)

(次ページから未分類)

概要に戻る

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<未分類>

2026.08.01 新潟日報 [国策にノー！巻原発住民投票から30年…「タブーと意思表示」に揺れた巻町、住民が振り返る](#)

[\[巻原発住民投票から30年\]二つの神様が回ってくる。困っているんだ…8月1日・投開票まで3日](#)

[2026/8/1 13:30](#)

[\(最終更新: 2026/8/1 13:32\)](#)

[【特別企画】あの夏から30年…巻原発住民投票 告示日から投開票日まで、一日ずつたどる民意の足跡](#)

2026.08.02 福井新聞 [水道水が海水のような味…北陸電力が配管違法接続で海水逆流 新たに4発電所でも接続確認](#)

2026.08.02 新潟日報 [“\[巻原発住民投票から30年\]「肩を並べている」「思わぬ接戦もあり得る」…8月2日・投開票まで](#)

[2日2026/8/2 12:00\(最終更新: 2026/8/3 10:53\)【特別企画】あの夏から30年…巻原発住民投票 告示日から投開票日まで、一日ずつたどる民意の足跡”](#)

2026.08.03 西日本新聞 [元イスラエル兵が平和考える講演会 8月4日、大分・日田地区教育会館](#)

“[巻原発住民投票から30年]炎天下の戸別訪問で「総決算の日」…8月3日・投開票まで1日2026/8/3 11:00(最終更新:

2026.08.03 新潟日報 [\[巻原発住民投票から30年\]炎天下の戸別訪問で「総決算の日」…8月3日・投開票まで1日](#)

[2026/8/3 11:00](#)

[\(最終更新: 2026/8/4 12:53\)](#)

[【特別企画】あの夏から30年…巻原発住民投票 告示日から投開票日まで、一日ずつたどる民意の足跡](#)

2026.08.03 共同通信 [ハンガリー、猛暑で原発停止か 冷却水不足で](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

付録 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き **了**】 **(更新)**

今月の中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) / その他の原発・核施設 / 戦争の中の原発・核施設 / 国際的な動き / 未分類

<未分類>

2026.08.04 新潟日報 [\[巻原発住民投票から30年\]小さな町の大きな選択…8月4日・投開票日](#)

[2026/8/4 13:30](#)

[\(最終更新: 2026/8/4 13:56\)](#)

[投票開始前には約30人が並び、有権者の関心の高さをうかがわせた＝1996年8月4日午前7時前、巻町](#)

[【特別企画】あの夏から30年…巻原発住民投票 告示日から投開票日まで、一日ずつたどる民意の足跡](#)

2026.08.05 共同通信 [州熱波、主要河川で渇水 原発停止、輸送に影響](#)

2026.08.06 共同通信 [プルサーマル交付金拡大へ 原発30キロ圏内の鳥取対象に\(再掲\)](#)

2026.08.14 新潟日報 [チヨルノービリ原発事故後の廃村、人々の営み…日本人画家が細やかに 長岡市で原画展、8月18日まで](#)

2026.08.17 新潟日報 [\[巻原発住民投票から30年\]投票は“住民の覚悟”…「実現するのが役割」当時の町長ら経緯や意義語る](#)

2026.08.24 共同通信 [スマホ活用し放射線量測定 原子力規制庁が実証試験](#)

2026.08.26 共同通信 [原発テロ対策、期限延長決定 東北電女川、停止回避へ\(再掲\)](#)

2026.08.27 新潟日報 [東京電力、原子力改革監視委員会を9月30日で廃止へ 福島第1原発事故を受け設置](#)

2026.08.30 共同通信 [車で対象外避難、被ばく量増加 原発事故、屋内退避と比べ](#)